

事業報告書

2018（平成 30）年度

社会福祉法人 愛 光

回顧と展望

「平成の愛光」を総括する

8 期 16 年の任期を終えるにあたり、千田米蔵理事長から引き継いだ経営改革への取組みと、その助走期間ともなった平成改元とともに着手された事業所全面移転という“世紀のプロジェクト”からの歩みを振り返り、「令和の愛光」を展望してみたい。

■依存から自立へ

役所が決定したサービスを施設が利用者に提供する、という措置制度が昭和の福祉だった。お客（サービス利用者）を確保する努力はいらない。その見返りに委託された利用者は拒否しないことになっていた。この行政と施設の“give and take”関係が機能不全を見せ始めたのも昭和の終わる頃だった。

昭和の愛光は、視覚障害・重複視覚障害をもつ人たちに向けて、特化した専門的なサービスを、広域的にかつ独占的に展開していた。それは戦後の混乱した社会において、当事者のニーズを反映するシステムとしては有効に機能していた。特に愛光は、盲重複障害のような施策の網からこぼれ落ちかねない対象の支援に立ち上がった点では、制度の不備を補う役割をも担った。

世紀末が近づいてきた頃だった。バブル景気の 1980 年代あたりから「豊かな社会」という言葉も聞かれはじめた。社会全体が貧しかった時代につくられたあらゆる制度はほころびを見せ始め、「改革」の大合唱となる。

措置制度は公費で賄われるので、利用者も事業者も受け身で依存的になりやすい。利用者の自己決定とか経営における積極性が働きにくい。

よく“マンネリ”と言ったりするが、どんなによく設計された制度も疲労し、いずれは劣化する。それは同時に制度を運用する人間の意識の劣化も伴う。「平成の福祉改革」が問うたのは、われわれの意識のあり方でもあった。

一方で強いられることに反発しながらも、平成 12（2000）年と平成 28（2016）年の 2 度の制度改革に、実務的に対応することに終始してきた。採算性・稼働率・コストという、福祉旧人類にとって“悪魔のキーワード”さえ、あえて口にしてきた。そのことを今更後悔も弁解もしない。

しかし制度改革前もそして現在もわれわれにとって未解決の課題がある。それは「依存から自立へ」というテーマである。

言い換えれば、法人経営・事業運営・現場実践という三つの層における「自立度」が未達成のまま、いまでも、そしてこれからも問われているのだと思う。

■ガバナンス

福祉施設を経営する社会福祉法人には同族経営が多い。トップ（理事長）の親族が施設長や事務長など主要なポストを占め、もちろんそれは“相続”される。

それに加えて、いわゆる「天下り人事」と「ワンマン経営」を合わせて、私は“福祉

業界の三悪”と思ってきた。これらがこの業界の自立を遅らせてきた元凶と言っても過言ではあるまい。

社会福祉法人が民間企業とは違うことは世間にも理解されていると思う。私財を提供して立ち上げられた法人であろうと、最終的にはその財産は国庫に帰属することになっている。にもかかわらず、まるでファミリー企業のごとく経営されている例は多い。

平成 28（2016）年に成立した改正社会福祉法の主眼は社会福祉法人制度改革だった。その改正論議のたたき台として、旧制度の問題点を指摘したのが「社会福祉法人制度の見直しについて」と題する報告書だった（平成 26 年 7 月）。その中で「社会福祉法人の抱える問題点」として挙げられている 1 項目が「ガバナンスの欠如」であり、それは「家業型経営」と「オーナー型経営」の弊害だとされた。

改正法はその「患部」にメスが入れたとはいえない不十分な改革だった。特に世襲を法律で禁止することは難しいだろうし、政治の世界同様、社会福祉法人自身の自主性や強化された評議員会の役割に期待しているのだろう。

しかし世の中では、私物化や専断（勝手に決めること）の果てに破たんし追い込まれる事例の多くは、残念ながら世襲やワンマン型の組織に多い。合意形成の仕組みや統制のとれた組織を志向すれば、そのような経営スタイルは排除されるのは当然だ。

お手本としては、わが子はおろか親族を一切自分の立ち上げた会社に入れなかったという本田宗一郎の逸話があり、悪い見本は昨今話題になっているカリスマ経営者の犯罪が想起される。

愛光がここまで成長してこられた理由も、“血脈のしがらみ”やトップダウンとは縁が薄かったことによると思う。それはこうも言える。法人設立直後には強烈なリーダーシップも必要であるが、円熟期に入っている組織だと、それがここでの「ガバナンスの欠如」に結びつきかねないということである。平成の愛光は、偶然も作用して、時代の求める経営スタイルをとることができたのである。

入所施設中心の昭和に比べると、「平成の愛光」は事業の内容や職員数の変化を見て、「規模の拡大」ばかりに目を向けがちだ。しかしこの法人が長期的に継続していける経営基盤（主に組織や人事制度）を、未だ脆弱（ぜいじゃく＝もろいこと）な面を残してはいるが、その形を築くことができた点を評価したいと思う。

■事業の「地域化」と「総合化」

「平成の愛光」を総括する第 3 のポイントとして挙げたいのは事業展開の面での大変身である。この 30 年の成果として、私は“事業活動の質の転換”に注目したい。

「伝統なき創造は空虚であり、創造なき伝統は枯渇する」

これは法人創立 60 周年記念講演における長谷川匡俊先生の言葉である。

いまから考えると 1990 年代から着々と進められた「平成の福祉改革」は“ポスト措置制度”に向かう流れでもあった。その意味するところは、“施設から地域へ”という福祉施策の重心移動でもあった。平成の 30 年間のうちの最初の 10 年が助走期間、後の 20 年で福祉の風景は一変したといえる。

愛光では昭和から平成へと元号が改まってすぐに施設の移転プロジェクトが動き出した。移転予定の地域住民から「ノー」を突き付けられ、その騒動は新聞にも取り上げられたほどだった。

「地域の理解なくして福祉なし」

を身にしみて感じた経験が、その後の時代の変化を予習するまたとない機会にもなったのである。

“雨降って地固まる”というが、難産の未成し遂げられた移転事業は、愛光に新境地をもたらした。すなわち移転・施設整備というハード面の環境変化（平成6年）に続く形で、国レベルでの制度環境変化＝基礎構造改革（平成12年）が追い風となった。

世紀が変わるころ、愛光は創立45年になり、業界内では旧勢力として、介護保険制度の導入とともに参入してきた新興勢力を迎え撃つ立場だった。創業以来の伝統を守ろうとする法人の多くは、この制度環境の激変にどう対応するかと、立ちすくむばかりであった。

視覚障害児者の福祉に特化してきた愛光が、平成6年からの佐倉市での事業展開を好機ととらえ、名実ともに改革を実現できた理由は何だったか？“時の運”もあった。かといって“気を見るに敏（びん）”といった熟練した経営戦略に長けていたわけではない。むしろ愚直に近く、正攻法の堅実な（時に慎重すぎるくらいの）組織風土だと思う。

地域福祉に焦点を据え、地域のニーズに対応するサービスの開発と提供、という21世紀型福祉の方向性に異論を唱える関係者はいないだろう。それに真面目にとり組んできただけ、といえ少々不遜に聞えるだろうか。

■経営改革

平成の愛光を職員サイドからみると、人事制度改革もこの時代を象徴する出来事であった。

措置制度時代に設立された社会福祉法人には、新世紀を迎えるための“踏み絵”が待っていた。それは公務員制度準拠型人事制度からの脱却をいかにしてはかるかということでもあった。平成12年の社会福祉基礎構造改革は、福祉サービスの世界に市場・競争原理を導入するという決断でもあり、それまでの措置制度は「運営あって経営なし」とされ、従事者の働き方は“社会主義的”とも揶揄（やゆ＝からかう）されていたのであった。

能力に応じて働き、成果によって報酬が支払われるのが一般社会を貫く原理である。極端な見方ではあったが、福祉施設の世界は「働いても働かなくても同じ」という“悪平等”が支配し、年功序列型人事制度は組織の活性化の妨げになっていると批判された。

伝統的福祉感（使命感や聖職者意識）から組織人あるいは専門職業人としての自立へと、どう切り替えるか。この難問に対して、とりあえずこういう方向を打ち出した。

「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きる資格がない」

契約による選択利用のサービス、自己責任が強調される事業経営の時代を迎え撃つ決意を、レイモンド・チャンドラーの一句に託したのは、この業界内において、私だけではなかった。世の片隅の小さく弱い存在への共感という福祉の哲学を堅持しつつ、同時に能力・成果主義をも受け入れていくということである。

それはもしかしたら水と油を混ぜ合わせるような作業かも知れないのだが…。

愛光では平成15年4月から、役割等級制度と人事評価制度、それらとリンクする給与制度を3本柱とする新人事制度をスタートさせた。プロジェクトチームに専門家を招き、制度設計に約1年かけた。そしてこの16年間、制度を運用してきた。設計図に基づいて出来上がった建物と同様、より使い勝手がいいようにと、手直し程度の手を加えてきたが、基本的には当初の制度を維持してきた。

人事制度が経営改革を推進するエンジンとして果たしてきた役割は大きい。サービス提供や組織・財政運営という経営実務を担うのは人であるところからも、当然そう言える。

われわれは、新人事制度の定着によって、経営基盤を安定させることができたと思う。ただ、だからといって今後の平穩が約束されているわけではない。特にいまや人材確保問題はますます深刻化しており、人材の点で「質より量」への傾斜が結果的に人事制度を歪めはしないかと心配する。

ところで、愛光は今年法人創立 64 年になる。単純に計算すれば、36 年後創立 100 周年となる。遠い将来の夢を語っているようで、意外に近未来の話である。ここ 3～4 年前あたりから入職してきた新卒人材が還暦に達する頃、法人は 2055 年の歴史的瞬間を迎える計算が成り立つ。

「令和」という時代に入り、「法人 100 年の計」を展望するなら、かれらにその夢を託したい。

■平成の愛光・略年表

1989(昭和64)	年	昭和天皇崩御・「平成」に改元(1月7日)
1991(平成3)	年	事業所移転予定地選定(佐倉市山王・四街道市四街道)
1992(平成4)	年	事業所移転整備事業着工
1994(平成6)	年	移転事業竣工(ルミエール、リホープ開設)(4月)
1995(平成7)	年	法人創立40周年記念式典及び初代理事長胸像建立除幕式(11月)
1998(平成10)	年	天皇皇后両陛下佐倉事業所ご視察(12月)
1990(平成11)	年	高齢者ケアセンターはちす苑開設(10月)
2000(平成12)	年	介護保険制度・社会福祉法施行
2002(平成14)	年	障害者相談支援事業所「アシスト」開設(4月)
2003(平成15)	年	新人事制度施行(4月) / 第2代千田米蔵理事長退任・第3代法澤奉典理事長就任(5月) / (支援費制度施行)
2005(平成17)	年	法人創立50周年記念式典(4月) / 法人中長期経営計画策定(6月)
2006(平成18)	年	障害者自立支援法施行
2008(平成20)	年	佐倉市よもぎの園(指定管理者)受託(4月) / かぶらぎワークセンター(事業移管)業務継承(4月)
2009(平成21)	年	佐倉市南部地域包括支援センター開設(4月)
2013(平成25)	年	障害者総合支援法施行
2014(平成26)	年	佐倉市南部児童センター・学童保育所(指定管理者)業務継承(4月)
2015(平成27)	年	法人創立60周年記念式典(3月)
2016(平成28)	年	佐倉市南部地域福祉センター(指定管理者)業務継承(4月) 社会福祉法改正＝社会福祉法人制度改革施行
2017(平成29)	年	視覚障害者総合支援センターちばを社会福祉法人千葉県視覚障害者福祉協会に事業移管
2019(平成31)	年	天皇退位(4月30日)／「令和」に改元(5月1日)

(2019 年 4 月 理事長・法澤奉典)

2018（平成30）年度 事業報告

目 次

I. 法人本部	1
II. 障害者支援事業部	
II-1 ルミエール	15
(障害者支援施設)	
II-2 めいわ	22
(障害者支援施設)	
II-3 リホープ	35
(障害者支援施設)	
II-4 クリエイティブワーク	43
(障害者支援事業部)	
II-5 佐倉市よもぎの園	47
(就労継続支援B型)	
II-6 ワークショップかぶらぎ	53
(就労継続支援B型/自立訓練)	
II-7 ジョーの家	60
(共同生活援助)	
II-8 山王の家	65
(共同生活援助)	
II-9 事業部統合運営部門	70
(健康管理/食事/ボランティア)	
III. 高齢者福祉事業部	78

IV. 地域福祉事業部

IV－1 南部児童センター／学童保育所・・・・・・・・・・ 94

IV－2 総合相談センター・・・・・・・・・・・・・・・・ 101

（佐倉市南部地域包括支援センター/アシスト）

IV－3 南部地域福祉センター・・・・・・・・・・・・ 109

I . 法 人 本 部

2018（平成30）年度 事業報告書
法 人 本 部

1. 概況

●当年度スローガン『共に支える 共に生きる ～地域包括ケアシステムの深化へ～』

第三期中期経営計画の見直しを機に社会保障・福祉政策の中心となった「地域共生社会の実現」を重点項目とし、経営計画と法人スローガンを同一のものとした。人口減少や急速な高齢化、地域社会の脆弱化などの社会構造の変化のなかで、福祉ニーズが多様化・複雑化している。社会福祉法人は、地域住民に身近な圏域でさまざまな地域づくりの活動に参画する一員であるとともに、福祉分野での専門性を活かし、地域住民の生活課題の解決に向けた支援を行う機関としての役割も担うなど、地域共生社会の実現において必要不可欠の存在である。特に『地域住民が集まり、交流する場の提供や地域住民に対する福祉に関する研修会の開催など、地域住民の地域福祉活動への参加を促進するための取組み』、『施設や専門的人材などの資源を活用して、住民に身近な地域における「総合相談窓口」を設置する取組み』、『生活困窮者に対する支援活動や、居住支援の取組み、いわゆる「中間的就労」や就労訓練、生きがい就労などの働く場の提供』などへの積極的な取組みを期待されている。

当法人は経営ビジョンに『相談・情報提供から支援・介護まで、子供から障害者・高齢者まで地域包括的で総合的なサービスの展開』を掲げている。それは、2003年からの愛光改革期において経営改革と同時に進められた事業展開の地域化志向がベースにある。振り返ると、2008年には通所系事業である精神障害者地域活動センター「かぶらぎワークセンター」（2015年にワークショップかぶらぎ移転竣工）と佐倉市指定管理事業「よもぎの園」を受託。2009年にはグループホーム「ジョーの家」、2017年は「山王の家」を事業開始。そして、以下の2013年から2016年までの事業展開は佐倉市内の日常生活圏域である根郷・和田・弥富地区に特化している。

2013年：佐倉市南部地域で総合相談開始（アシスト・南部包括）

2014年：佐倉市立南部児童センター・南部地区7学童保育所指定管理受託

2016年：佐倉市南部地域福祉センター指定管理受託

総合相談センターを佐倉市南部地域福祉センター内に移転

「地域共生社会」の拠点は、地域住民にとっての身近な圏域となっている。まさに当法人にとっての南部圏域がそれにあたる。「地域の理解なくして福祉なし」の移転時に作られた地域福祉の理念が一切ぶれることなく、地道に守られてきた結果であると思う。南部地域福祉センターを拠点として、「支える側・支えられる側」という関係性ではなく、誰もが「共に支え合い、共に生きる」地域社会を目指し、法人内の機能が連携し各事業所が参加できるシステムの基礎作りの1年となった。

●「地域共生プロジェクト」改め「ともいきプロジェクト」始動

中期経営計画の重点実施項目の「地域共生社会の実現」は、地区社協との連携、ボランティアセンターの活用など、地域住民参加型の事業が中心である。そこで、地域に浸透しやすい名称を考え「地域共生」に関わる一連の取組を「ともいきプロジェクト」とした。

《ともいきとは》

約100年前に唱えられた仏教用語。「すべての存在は単独で成り立つのではなく、関わり合いによって成り立つ」という考えが由来。命、社会的な事象、あるいは建造物まで、すべてが相互にありなしあいながら存在しているという考え方。

ともいきプロジェクトの対象事業は

a) 福祉なんでも相談センターともいき（南部地域包括支援センター・アシスト）

2013年に開始した総合相談センターを3年後に南部地域福祉センター内に移転。今期経営計画にて名称変更の計画であったため、総合相談センターから「福祉なんでも相談センターともいき」とした。地域住民が抱える地域生活課題に関する相談、必要な情報提供・助言を行えるよう住民等と協働してニーズキャッチできる機関を目指した。

b) 地域食堂ともいき(福祉充実残額充当事業)

当年度は、開設準備機関として分科会を作り山王地区の地域協力者を会議のメンバーに加え検討した。当初は、「子ども食堂」支援としていたが、南部圏域の高齢化(第7期佐倉市高齢者福祉・介護計画の2020年圏域別高齢者人口推計によると31%)や少子化を考慮し世代間交流を目的とした。エリアは山王地区とした。開催場所候補は複数あったが、どれも調整つかずはちす苑千田ホールにて11月プレオープン、3月本格実施とした。11月の参加者は42名、ボランティア16名。3月は参加者46名、ボランティア8名であった。

c) サロンドともいき(通所型サービス事業：総合事業)

佐倉市通所型サービスモデル事業を受託(9月より毎週金曜日実施)。要支援者等を中心とした利用者に対し、「高齢者の閉じこもり予防や自立支援に資する活動」を週1回90分以上行うサービス。はちす苑、南部包括支援センター、南部地域福祉センター共同事業。実績は、開催回数24回、延べ利用者数151名、ボランティア延べ人数117名。

d) 訪問型サービスAともいき(総合事業)

佐倉市訪問型生活援助サービスであり、要支援1・2および生活機能の低下がみられたかた(事業対象者)の住まいに訪問し、掃除、洗濯、調理などの生活援助を行うサービス。サービス提供者については、市が指定する「研修修了者」で従事可能としたことが特徴。延べ71名が利用。

e) ボランティアセンターともいき

南部地域福祉センターに設置。オレンジカフェ、ともいき関連事業、根郷ふくしまつり南部圏域の地域サロン、南部地域福祉センターのサロン・講座講師・植木の手入れなど334名のボランティアを動員した。

●第三者評価受審

当年度は、就労継続B型佐倉市よもぎの園が受審した。

評価の高い点として①作業環境を工夫し利用者が能力を発揮しながら意欲的に働くことができるよう支援している②利用者の意向を大切にしながら支援計画を作成し、個別支援につなげている③商品は人の役に立つものであることを伝え、利用者の意欲の向上につなげている④利用者が地域で暮らすための支援に取り組んでいる。一方、改善点として①評価の仕組みをさらに活かし、職員一人ひとりの育成と意欲の向上につなげること②事業所内の環境整備を行い利用者の安全確保に努めること。特に設備面の不備については利用者の安全確保の観点と指定管理事業の特性を考慮し、早急に行政との協議を行いたい。

●介護人材不足深刻化

介護労働安定センターの介護労働実態調査では、人手不足を感じている介護事業所の9割が採用の困難さを理由にあげており、前年度の7割から大幅に増加。不足理由を複数回答で尋ねたところ「採用困難」が88.5%、「離職率が高い」が18.4%、「事業拡大によって必要人数が増大」が10.8%。採用が困難な原因を複数回答で尋ねると「同業他社との人材獲得競争が厳しい」「他産業に比べて、労働条件などが良くない」がそれぞれ半数以上を占めた。当法人も人材確保の困難さについては、数年前より実感している。実習から採用への戦略も養成校の入学率充足率が半数を割っているのが現状であり、当年度は実習申込みが22校あるなか実際の受け入りが、14校に止まり総数46名であった。前年比では、保育、社会福祉士、精神保健福祉士の実習生数は伸びているが、介護実習については前年より減少している。学生に職場を知ってもらう機会を設けることが有効であると考えSNSの活用を始めたが、今後はインターンシップ(職業体験)導入も視野に入れ、広報活動に知恵を絞っていきたい。

一方、離職率は介護労働安定センターの全国調査結果が正職員15.1%に対して当法人は7.5%であった。労働環境の整備は、職場定着に必要不可欠であると考え、職員の就業上のトラブルや悩み、労働条件・職場環境の改善について問題解決する体制を整備した。法人の相談窓口を内部1名と外部の専門家3名(産業医、精神保健専門家、社会保険労務士)とし、労働安全衛生に関すること、メンタルヘルスに関すること、労働条件、就業規則の解釈や運用に関することなど、それぞれの専門分野に分け相談窓口体制を整備した。

(総括施設長 西原 弘明)

1 2018（平成30）年度実績

（1）財務（単位：百万円）

	30 年度	前年	増減	本部	相談	障害	高齢	地域	無償 貸与
サービス活動収益	1,903	1,863	40	1	66	1,279	400	160	0
経常増減差額	30	39	△9	△112	△8	191	△36	7	△12
経常増減差額比率 （％）	1.6	2.1	△0.5		△12	14.9	△9.1	4.7	

※内部取引相殺および、単位未満の端数を四捨五入して表示しているため、表中の総額と内訳の合計が一致しない場合がある。

（2）個別運営実績

経営改革	・ 第Ⅲ期中期経営計画の推進
新規事業	・ ともいきプロジェクトの推進（地域食堂ともいき、サロン・ドともいき、訪問型サービスAともいき開始） ・ 根郷通所センター改築 ・ はちす苑デイサービス改修
事業運営	・ 佐倉市南部児童センター・7 学童保育所指定管理者受託（2019～2023 年度） ・ 内部統制構築推進（本部・各事業所 巡回指導監査実施）
地域貢献活動	≪まちづくりへの協力≫ ・ 地域環境美化（「愛の灯台花壇」の設置・自治会清掃活動への参加） ・ 地域福祉活動への参加（地区社協・まちづくり協議会） ≪小中学生に対する福祉教育≫ ・ 地域の小中学校での福祉教育 ≪その他の地域貢献・交流活動≫ ・ 佐倉市南部地域福祉センター愛光たすけあい移送サービス休止（2019 年 3 月末／方向性再検討） ・ 施設利用者の音楽活動 ・ 小学生書き初め展 ・ ボランティアの育成（顕彰・交流会・ボランティア保険援助・養成講座開催） ・ 認知症サポーター養成講座 ・ 「愛光秋まつり」への小学生招待 ・ 地域防災～自治会活動（自主防災訓練・佐倉市民防災訓練）への参加・協働、「福祉避難所」
設備管理	・ 本部 勤怠管理システム ・ 障害者施設 敷地内手摺更新工事、ナースコール式 ・ はちす苑 自動火災報知設備修繕工事
後援会	・ ギャラリーあいこう【常設】 ・ バリアフリー映画会 ・ 地域お祭りへの支援 ・ 子ども食堂の支援 ・ Aikoh フォーラム（落語独演会・研修） ・ 小学生サッカー大会支援（根郷ガーデンカップサッカー大会）

(3) 中期経営計画進捗状況(第Ⅲ期中期経営計画:2017~2019 年)

分 類	重点実施項目	実施計画	見直し・実績	評価
顧客の 視点	地域共生社会の実現	地域包括ケアシステムの構築	通所型サービス事業「サロン・ド・ともいき」実施	B
		地域ニーズ対応(地域福祉課題抽出)・子ども食堂支援	子ども食堂支援・地域食堂実施。住民との協働体制構築段階	B
		福祉事業ニーズ調査(児童~高齢)	未実施	C
	人権擁護と安心サービス	研修/実態調査と検証作業	研修・職員アンケート実施と検証	B
業務 プロセス の視点	内部統制制度の構築	会計監査導入準備含む管理体制強化	巡回指導監査実施(本部・各事業所)	B
	人材確保・育成強化	離職防止と人材確保体制の強化	離職傾向の把握・SNS 活用による情報発信	B
		専門職員育成/資格取得強化	専門分野研修・資格取得奨励	B
	リスクマネジメント機能強化	事故ゼロ運動と法人内事故共有	重大事故・苦情の共有、危険予知訓練実施	B
	広報活動の強化と情報公開推進	パンフレット改訂と広報戦略一体化	パンフレット完成(2017)、SNS 活用による広報開始	A
	事業継続計画(BCP)の維持	災害備蓄品の完備と自助意識の醸成	災害備蓄品完備、事業継続計画書改正、マニュアルの統一、自治会との協働	A
地域貢献 の視点	地域貢献活動の実行	地域貢献活動と職員への浸透	事業部毎の実践継続	B
	「愛の灯台基金」活動推進	地域公益活動の協働と職員協力強化	地域住民対象のイベント実施	B
	法人内ボランティア機能強化	3 事業部連携体制強化 ボランティア講座	ボランティア養成講座実施 委員会による交流会実施	B
財務の 視点	福祉充実計画の実施	はちす苑施設整備	デイサービス改築	B
		はちす苑裏土地事業計画	未実施	C
	財務ビジョン策定	経常増減額比率・人件費率等確立	継続	B
	ファシリティ・マネジメント実行	修繕計画の立案と実行	計画策定継続	B
学習と成 長の視点	経営理念・経営計画の共有	経営計画理解実行	継続	B
	研修体系見直し	階層別研修の実施	中堅職員研修実施	B

(4) プロジェクト

プロジェクト名称	活動内容	活動実績
内部統制構築 P T	巡回指導監査検証 外部監査導入準備	巡回指導監査実施(本部・各事業所) 検証継続
地域共生 P T	地域共生事業の検討 地域包括ケアシステムの構築	ともいき P T と改称。通所型サービス(サロン・ド・ともいき)、地域食堂の開始
事業開発 P T	はちす苑裏土地活用検討	法改正後のニーズ検証
記念式典 P T	佐倉市への法人事業所移転 25 周年及びはちす苑開設 20 周年記念式典開設準備	業務執行理事会にて検討、2019 年度実施

2 事業の現況（2019 年 3 月 31 日現在）

（1）佐倉事業所（所在地／千葉県佐倉市山王 2-37-9）

事業所の名称	事業区分	事業内容	管理者
ルミエール	第一種事業	【種別】 障害者支援施設 【定員】 生活介護・施設入所支援 60 名 【認可】 2007（平成 19）年 11 月 1 日	池田浩一
	第二種事業	【種別】 障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】 3 名 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公益事業	【種別】 地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	
めいわ	第一種事業	【種別】 障害者支援施設 【定員】 生活介護 80 名（めいわ 56 名・根郷通所 24 名） 施設入所支援 56 名 【認可】 2008（平成 20）年 8 月 1 日	安部一義
	第二種事業	【種別】 障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】 4 名 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公益事業	【種別】 地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	
リホープ	第一種事業	【種別】 障害者支援施設 【定員】 生活介護・施設入所支援 50 名 【認可】 2008（平成 20）年 4 月 1 日	中川光男
	第二種事業	【種別】 障害福祉サービス事業（短期入所） 【定員】 2 名（＋空床利用） 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	
	公益事業	【種別】 地域生活支援事業（日中一時支援事業） 【認可】 2006（平成 18）年 10 月 1 日	

（2）佐倉太田事業所（所在地／千葉県佐倉市太田 1145-1）

施設等の名称	事業区分	事業内容	管理者
はちす苑	第一種事業	【種別】 特別養護老人ホーム 【定員】 50 名 【認可】 1999（平成 11）年 10 月 1 日	麻生知明
ショートステイ はちす苑	第二種事業	【種別】 老人短期入所事業 【定員】 併設型 20 名（及び空床型） 【認可】 2000（平成 12）年 1 月 1 日	
		【種別】 共生型短期入所事業 【定員】 6 名 ※老人短期入所事業定員に含む 【認可】 2018（平成 30）年 9 月 1 日	
デイサービス はちす苑		【種別】 老人デイサービス事業 【定員】 35 名 【認可】 1999（平成 11）年 10 月 1 日	
		【種別】 共生型生活介護事業 【定員】 35 名 ※老人デイサービス事業定員に含む 【認可】 2018（平成 30）年 7 月 1 日	

ホームヘルプサービス はちす苑		【種別】老人居宅介護等事業 【認可】2000（平成12）年4月1日	
ケアプラン はちす苑		【種別】居宅介護支援事業 【認可】2000（平成12）年4月1日	麻生知明

（3）佐倉宮前事業所（所在地／千葉県佐倉市宮前2-13-1）

※佐倉市指定管理事業

事業所の名称	事業区分	事業内容	管理者
佐倉市 よもぎの園	第二種 事業	【種別】障害福祉サービス事業（就労継続支援B型） 【定員】40名 【認可】2008（平成20）年4月1日	菊地暁生

（4）佐倉鋤木町事業所（所在地／千葉県佐倉市鋤木町352-2）

事業所の名称	事業区分	事業内容	管理者
ワークショップ かぶらぎ	第二種 事業	【種別】障害福祉サービス事業（就労継続支援B型） 【定員】24名 【認可】2015（平成27）年6月1日	菊地暁生
		【種別】障害福祉サービス事業（自立訓練〈生活訓練〉） 【定員】6名 【認可】2015（平成27）年6月1日	

（5）佐倉城事業所（所在地／千葉県佐倉市城399-3）

事業所の名称	事業区分	事業内容	管理者
ジョーの家	第二種 事業	【種別】障害福祉サービス事業 （介護サービス包括型指定共同生活援助） 【定員】4名 【認可】2009（平成21）年4月1日	菊地暁生

（6）佐倉大篠塚事業所（所在地／千葉県佐倉市大篠塚1587 南部保健福祉センター内）

※佐倉市指定管理事業

事業所の名称		事業区分	事業内容	管理者
佐倉市立南部 児童センター		第二種 事業	【種別】児童厚生施設（児童センター） 【受託】2014（平成26）年4月1日	吉田信之
佐倉市立	根郷学童保育所 第二根郷学童保育所 山王学童保育所 大崎台学童保育所 寺崎学童保育所 弥富学童保育所 和田学童保育所	第二種 事業	【種別】放課後児童健全育成事業 （学童保育所） 【受託】2014（平成26）年4月1日	
佐倉市南部 地域福祉センター		公益 事業	【種別】地域福祉センター 【受託】2016（平成28）年4月1日	横川民夫
総合相談 センター	佐倉市南部 地域包括支援センター	公益 事業	【種別】地域包括支援センター（業務委託） 【認可】2009（平成21）年4月1日	高梨子淳一
	佐倉市障害者 生活支援センター アシスト	第二種 事業	【種別】障害者相談支援事業（一般・特 定相談） （業務委託） 【受託】2002（平成14）年4月1日	立石晃 ※総合相談センタ ー所長；近藤美貴

(7) 佐倉山王・太田事業所（所在地／千葉県佐倉市太田 1879-1）

事業所の名称	事業区分	事業内容	管理者
山王の家	第二種事業	【種別】 障害福祉サービス事業 （介護サービス包括型指定共同生活援助） 【定員】 10 名 【認可】 2017（平成 29）年 11 月 1 日	安部一義

3 理事会・評議員会

(1) 理事会の開催状況

	開催日	場所	出席	欠席	主な議題
第 1 回 (284 回)	6 月 9 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	理事 10 名 監事 2 名	0 名	2017（平成 29）年度事業報告・決算報告・監事 監査報告について 定款変更・諸規程の改正について 他
第 2 回 (285 回)	9 月 29 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	理事 10 名 監事 2 名 顧問 3 名	0 名	はちす苑増床にともなう設計業者契約について 2019（平成 31）年度給食委託業者契約について
第 3 回 (286 回)	11 月 24 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	理事 9 名 監事 2 名	1 名	2018（平成 30）年度 1 次補正予算について 経理規程の改正について 他
第 4 回 (287 回)	1 月 26 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	理事 9 名 監事 2 名	1 名	2019（平成 31）年度理事会議決事項契約について
第 5 回 (288 回)	3 月 16 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	理事 10 名 監事 2 名	0 名	2018（平成 30）年度 第 2 次補正予算案について 佐倉市南部地域福祉センター独自事業「愛光 たすけあい移送サービス」休止について 2019 年度 事業計画案・予算案について 定款変更・諸規程の制定および改正について 他

※（ ）内は通算回数

(2) 評議員会の開催状況

	開催日	場所	出席	欠席	主な議題
第 1 回 (59 回)	6 月 24 日 (日)	愛光本館 第 1 会議室	12 名	1 名	2017（平成 29）年度事業報告・決算報告について 監事監査報告について 定款変更について
第 2 回 (60 回)	12 月 2 日 (日)	愛光本館 第 1 会議室	11 名	2 名	2018（平成 30）年度第 1 次補正予算について
第 3 回 (61 回)	3 月 24 日 (土)	愛光本館 第 1 会議室	7 名	6 名	2018（平成 30）年度 第 2 次補正予算案について 2019 年度 事業計画案、予算案について 定款変更について

※（ ）内は通算回数

(3) 理事・監事・顧問

任期/2017年6月24日～2019年6月定時評議員会終結時

役職名	氏 名	現 職 等	選任領域区分
理事長	法澤 奉典	会社取締役	法人職員
副理事長	酒井綱一郎		地域の福祉関係者
業務執行理事	西原 弘明	愛光 総括施設長	法人職員
"	池田 勝也	愛光 高齢者福祉事業部長	法人職員
"	河田ひろみ	愛光 障害者支援事業部長	法人職員
"	吉田 信之	愛光 地域福祉事業部長	法人職員
"	片野 明美	愛光 事務局長	法人職員
理 事	小川 裕二	社会福祉士事務所 所長	社会福祉有識者
"	吉野 智	弁護士事務所 所長	法律家
"	河野 尋幸	元行政関係者	地域の福祉関係者
監 事	滑川 里美	社会福祉士事務所 所長	社会福祉有識者
	井上 郷	税理士事務所 所長	財務有識者
顧 問	荒木 直躬	社会福祉法人 理事長	
	岡田 正平	愛光後援会 会長	
	島本 賢一	元愛光家族協議会 会長	
	長谷川匡俊	学校法人 理事長	
	望月 清義	前市議会議員	
	田邊 正雄	元社会福祉協議会 理事	

(4) 評議員

任期/2017年4月1日～2021年6月定時評議員会終結時

役職名	氏 名	現 職 等	選任領域区分
評議員	足立 元秀	地区社会福祉協議会 会長	地域の福祉関係者
"	伊佐 勉	福祉関係団体役員	地域の福祉関係者
"	石毛 滋之	愛光家族協議会 会長	利用者の家族の代表
"	遠藤 赳夫	福祉関係団体 役員	地域の福祉関係者
"	大賀 四郎	福祉関係団体 役員	地域の福祉関係者
"	小川 雅夫	県教育相談員	社会福祉事業の学識経験者
"	葛西 広子	元市教育委員会教育長	社会福祉事業の学識経験者
"	近藤 武雄	元自治会長	地域の福祉関係者
"	中澤 昌子	元県立特別支援学校PTA連合会会長	地域の福祉関係者
"	布施 千草	短期大学福祉学科学科長	社会福祉事業の学識経験者
"	松山 毅	大学 前任准教授	社会福祉事業の学識経験者
"	御園 政光	社会福祉法人 職員	地域の福祉関係者
"	山崎 昭造	福祉関係団体 役員	地域の福祉関係者

(5) 評議員選任・解任委員

任期/2017. 3. 2～2021. 6

職 名	氏 名	任 期	備 考
監 事	滑川 里美	2017. 3. 2～2021. 6	社会福祉士事務所 所長
監 事	井上 郷	2017. 6. 24～2021. 6	税理士事務所 所長
外 部 委 員	稲村 多恵子	2017. 3. 2～2021. 6	元地区社会福祉協議会 会長
外 部 委 員	小林 眞智子	2017. 3. 2～2021. 6	市民生委員児童委員
事 務 局	宮本 典昭	2017. 3. 2～2021. 6	愛光職員

4 職員の状況

(1) 採用・退職・異動 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

事業所名		2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 31				2019. 3. 31 現員数
			採用	異動 入	異動 出	退職	
本 部		17 (4)	1 (1)	3	1	1 (1)	17 (4)
地域福祉 事業部	アシスト	5 (1)					5 (1)
	南部地域包括支援センター	8		3		1	8
	南部地域福祉センター	10 (8)	3 (3)	1		3 (3)	13 (11)
	南部児童センター 学童保育所	51 (37)	16 (14)	3		21 (16)	55 (40)
障害者支援事業部	ルミエール	44 (9)	2	3	3	2 (1)	42 (8)
	めいわ	40 (5)	2	9	10	2	38 (5)
	根郷通所センター	17 (10)	1 (1)	4 (1)	2	2 (1)	18 (10)
	リホープ	30 (6)	5 (3)	3	2	7 (4)	31 (8)
	よもぎの園	10 (4)	4 (3)		1 (1)	2 (1)	10 (5)
	ワークショップかぶらぎ	6		2	1		6
	ジョー家	3 (3)	1 (1)			1 (1)	4 (4)
	山王の家	4 (4)	1 (1)			2 (2)	3 (3)
	福祉相談室	2 (1)		1	2		2 (1)
	栄養管理室	3 (1)					3 (1)
	健康管理センター	7 (4)	1		2 (1)	1	7 (4)
高齢者福祉事業部 (はちす苑)		97 (51)	19 (17)	2	4 (1)	11 (8)	101 (56)
総 数		354 (148)	56 (44)	34 (1)	28 (3)	56 (38)	363 (161)

★育休・休職・出向職員は現員から除く

★雇用形態変更・育休、休職の出入は、異動入・出にてカウントする

★年度末日退職者及び異動出職員は年度末日現員に含む

★年度当初採用者及び異動入職員は年度当初現員に含む

★事業所内での異動はカウントしない

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数()内に表示

(2) 採用形態別 (2018 年 4 月 1 日現在)

事業所名	総 数			正 職 員			サポート職員			パート職員		
	総数	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女
総 数	354	109	245	164	82	82	42	5	37	148	22	126
本部	16	7	9	8	4	4	4		4	4	3	1
アシスト	5	2	3	3	2	1	1		1	1		1
地域包括支援センター	8	2	6	6	2	4	2		2			
南部地域支援センター	10	7	3	1	1		1		1	8	6	2
児童センター・学童	51	6	45	5	1	4	9	1	8	37	4	33
ルミエール	44	22	22	32	20	12	3	1	2	9	1	8
めいわ	40	16	24	33	16	17	2		2	5		5
根郷通所センター	17	4	13	6	3	3	1	1		10		10
山王の家	4		4							4		4
リホープ	30	12	18	23	11	12	1	1		6		6
よもぎの園	10	3	7	5	3	2	1		1	4		4
ワークショップかぶらぎ	6	4	2	5	4	1	1		1			
ジョーの家	3		3							3		3
福祉相談室	2	1	1	1	1					1		1
栄養管理・健康管理	10		10	5		5				5		5
高齢者福祉事業部	98	23	75	31	14	17	16	1	15	51	8	43

★常勤嘱託はサポート職員に含む

(3) 役割等級別 (2018 年 4 月 1 日現在)

事業所名	総数	正 職 員					サポート職員	パート職員	
		2 等級	3 等級	4 等級	5 等級	6 等級		1 等級	2 等級
	273	118	33	5	6		35	71	5
本部	13	2	3	1	2		3	2	
アシスト	5		3				1	1	
地域包括支援センター	8	3	3				2		
南部地域福祉センター	1				1				
児童センター・学童	12	4	1				7		
ルミエール	43	26	4	1	1		3	7	1
めいわ	40	28	3	1	1		2	5	
根郷通所センター	15	3	3				1	7	1
山王の家	4							4	
リホープ	30	18	4		1		1	6	
よもぎの園	10	4	1				1	4	
ワークショップかぶらぎ	6	3	1	1			1		
ジョーの家	3							3	
福祉相談室	2		1					1	
栄養管理・健康管理	10	4	1					3	2
高齢者福祉事業部	71	23	5	1			13	28	1

★常勤嘱託、特別雇用、管理宿直、配食サービス、児童センター・学童保育所パート、地域福祉センターパート、登録ヘルパーは役割等級なし

(4) 年齢構成 (2018 年 4 月 1 日現在)

総 数	年 齢	18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
	354	3	67	52	84	70	78
本部	16		1	1	5	6	3
アシスト	5			2	2	1	
地域包括支援センター	8			2	3	3	
福祉相談室	2				2		
南部地域支援センター	10					1	9
児童センター・学童	51		7	4	6	10	24
ルミエール	44		12	10	13	5	4
めいわ	40		17	8	6	9	
根郷通所センター	17		1	3	3	7	3
山王の家	4					2	2
リホープ	30		13	5	5	7	
よもぎの園	10		2	4	3	1	
ワークショップかぶらぎ	6			1	5		
ジョーの家	3					1	2
栄養管理・健康管理	10			1	6	2	1
高齢者福祉事業部	98	3	14	11	25	15	30

(5) 免許・資格 (2018 年 4 月 1 日現在 常勤職員)

総 数	資格所持 延べ人数	社会 福祉士	精神 保健 福祉士	介護支援 専門員	介護 福祉士	社会福祉 主事	歩行 訓練士	保育士	幼稚園 教諭	小中高 教員
	302	27	11	26	109	99	2	16	7	5
本部	11	1		1	3	5		1		
アシスト	11	3	2	3		3				
地域包括支援センター	21	5	2	5	5	3		1		
福祉相談室	1					1				
南部地域支援センター	2					2				
児童センター・学童	23				3	4		7	5	4
ルミエール	54	4		5	23	17		3	1	1
めいわ	47	4	1	1	16	20	1	3	1	
根郷通所センター	12				6	5		1		
山王の家	1						1			
リホープ	33	5	3	2	8	15				
よもぎの園	11	1			5	5				
ワークショップかぶらぎ	8	2	1		2	3				
ジョーの家										
栄養管理・健康管理										
高齢者福祉事業部	67	2	2	9	38	16				

5 諸規程整備状況

改正日	施行日	規 程	区分	整 備 内 容
2018. 3. 25	2018. 5. 8	定款	改正	事業追加(地域支援事業)に伴う変更
2018. 8. 3	2018. 8. 3	定款	届出	基本財産の増加(めいわ園芸棟)
2018. 11. 24	2018. 11. 24	経理規程	改正	拠点区分等の変更、追加、削除
2019. 3. 16	2019. 3. 16	コンプライアンス規程 リスクマネジメント規程 ハラスメント防止に関する規程	創設	内部管理体制整備に伴う規程の創設
		定款細則 理事等職務権限規程 就業規則	改正	現行事業の追記 定款細則・就業規則に基づく文言の訂正 ハラスメント防止、退職手続に関する文言の追記
2019. 3. 24	2019. 3. 24	定款	改正	役員・評議員の権利業務について定款例に基づく追記、文言の訂正

6 リスクマネジメント（福祉サービスにかかる事故と苦情の状況）

（１）事故の状況

	(総数)	本部	ルミール	めいわ	リホープ	はちす苑	よもぎの園	WS かみさき	ジョーの家	山王の家	相談	学童
(総数)	96	0	9	14	5	46	5	2	1	0	1	13
死亡に至った事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折等重症に至った事例	20	0	5	3	1	8	0	0	0	0	0	3
感染症発生事例	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
裂傷・打撲等通院治療事例	33	0	1	3	2	22	0	0	1	0	0	4
無断外出	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
車輛事故（物損）	20	0	0	8	2	3	4	2	0	0	1	0
誤投薬	7	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0
その他	12	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	6

（２）苦情

	(総数)	本部	ルミール	めいわ	リホープ	はちす苑	よもぎの園	WS かみさき	ジョーの家	山王の家	相談	学童
(総数)	8	0	0	0	2	2	1	3	0	0	0	0
食事等サービス内容に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員の対応、行動に関すること	5	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0
介護、支援方針に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
設備、職員配置に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他の利用者に関すること	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
その他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 第三者委員の活動状況

施 設	担当委員	日 付	活動内容
リホープ	四方田委員	10 月 21 日	利用者との懇談方式
		2 月 10 日	利用者との個別面談
めいわ	高石委員	6 月 18 日	利用者との懇談方式
		2 月 17 日	家族との懇談方式
根郷通所センター	加藤委員	9 月 4 日	利用者との懇談方式
		2 月 25 日	家族との懇談方式
ルミエール	四方田委員	8 月 26 日	家族との懇談方式
		2 月 17 日	
よもぎの園	加藤委員	12 月 22 日	家族と懇談方式・利用者と個別面談
ワークショップかぶらぎ	四方田委員	12 月 22 日	家族と懇談方式・利用者と個別面談
南部地域福祉センター	高石委員	12 月 9 日	地域利用団体との懇談方式
はちす苑	高石委員	12 月 16 日	家族との懇談方式

7 事業経過（本部関係／2018. 4. 1～2019. 3. 31）

月	行事(会議 研修会 行事等)	業務執行理事会	施設長会議	サービス 責任者会議
4 月	辞令交付式、新任職員研修、メンターマッチング研修、 あいとひかりのコンサート（ダ・カーポ）	4 日・11 日・ 18 日・25 日	18 日・24 日 25 日	11 日
5 月	監事監査、採用後 1 年面接、決算ヒアリング、	8 日・15 日・ 23 日・24 日・ 30 日	23 日・30 日	9 日
6 月	平成 31 年度採用試験、介護マイスター養成研修、 夜間想定防災訓練、権利擁護・虐待防止研修、 感染症対策訓練研修、	5 日・13 日・ 20 日	27 日	13 日
7 月	辞令交付式、介護マイスター養成研修、管理者対象ハ ラスメント防止研修	4 日・11 日・ 18 日・25 日	18 日・25 日	11 日
8 月	メンター情報交換会、ハラスメント防止研修	1 日・8 日・ 22 日・28 日	29 日	8 日
9 月	総合防災訓練、RAN 伴 2018、交通安全セミナー、 ボランティア交流会	5 日・13 日・ 18 日・26 日	6 日・26 日	12 日
10 月	日韓交流（ラファエルの家院長来日）、愛光秋まつり 全国盲重複障害者福祉施設研究大会	10 日・18 日・ 31 日	17 日・31 日	10 日
11 月	リスクマネジャー養成研修、中堅職員リフレッシュ研 修、地域食堂「ともいき」プレオープン	7 日・13 日・ 28 日	7 日・21 日	21 日
12 月	リスクマネジャー養成研修、後援会バリアフリー上映 会、感染症予防研修、介護マイスター養成研修	21 日	6 日・26 日	12 日
1 月	法人新年会、介護マイスター養成研修、	11 日・23 日・ 31 日	9 日・17 日	9 日
2 月	Aikoh フォーラム「成年後見制度」、労務管理者研修「働 き方改革について」、リスクマネジャー養成研修	6 日・13 日・ 19 日・27 日	20 日・27 日	13 日
3 月	職員実践発表会、次年度メンター研修、リスクマネ ジャー養成研修、地震想定避難訓練、退職辞令交付	7 日・13 日	12 日・27 日	13 日

Ⅱ. 障害者支援事業部

障害者支援施設
ルミエール

概況

「笑顔で、やさしく、ていねいな支援を実践し、ともに支え合う」を施設のスローガンとした。利用者への対応を見つめ直し、丁寧な支援を構築することを目標に、ホーム会議等で、支援を見直すための話し合いを行った。法人の権利擁護アンケートに、職員から「意識が高まってきている」との回答もあった。次年度も、利用者支援について話しをしやすい現場になるよう努めたい。利用者の平均年齢も 50 歳を超え、健康管理や日常生活支援がこれまで以上に必要な方が多くなっている。心身共に充実した日を過ごせるよう日常の支援の提供をしていきたい。

○数値目標

- ・施設入所（稼働率）：目標 98% ⇒ 実績 99%・生活介護（稼働率）：目標 99% ⇒ 実績 98.9%
- ・短期入所（稼働率）：目標 60% ⇒ 実績 51.6%

短期入所では、ご家族の入院などによる緊急の短期入所に対応した。

○サービス目標

- ・散歩や外出の機会を増やしメリハリある生活づくりを目標とし意識をもって取り組んだ。少しでも空いた時間を有効に活用し利用者が楽しく過ごせるよう工夫したい。
- ・高齢化・介護重度化に対応できる支援力の向上につながるよう法人の介護マイスター研修に参加し、参加職員が施設で伝達講習を行い利用者支援に活かすことができた。
- ・毎日の生活支援では生活リズムが保てるよう努め、健康管理については異常の早期発見と迅速な対応を行った。インフルエンザ、感染症対策として冬期における職員の手指消毒を徹底した。昨年度に引き続きインフルエンザの罹患者はなかった。
- ・施設の年間行事計画に基づき季節ごとの行事を実施した。日帰り旅行、運動会、クリスマス会等の行事には、ご家族にもご参加いただいた。職員とも話しをしていただく機会が持て有意義な時間となった。
- ・風呂の脱衣場の床の貼り替えやトイレの床のタイルの貼り替えなど環境美化・整備を行った。

○地域連携目標

9 月に行われた行事「コーヒーショップ」をはじめ、10 月のリコーダーの演奏会の開催等、多くのボランティアの方に参加いただき行事を行うことができた。また館内清掃、ウエス切り、縫物、衣類整理等、ボランティアの定期的な来所があった。

○業務遂行目標

業務遂行目標としてリスクマネジメントの強化を掲げてきたが、4 月・8 月・1 月には誤投薬の事故を発生させてしまった。事故要因はいずれも職員による確認不十分であった。誤投薬は命にもかかわることであり、結果の重大性から最優先課題として事故後、ホーム会議や職員会議で再発防止の検討を重ねた。職員の意識を高め、より良い服薬の体制を作れるよう、今後も必要な改善を図っていきたい。その他、2 月に移乗時の転倒による骨折・2 月に扉に指をはさむ指の骨折があり、対策を講じた。5 月、8 月には直接の原因はわからないが骨折事故が起きた。危険個所の点検を定期的に行い再発防止に努めたい。

また、第 39 回全国盲重複障害者福祉施設研究会は、愛光が主管として滞りなく実施できた。

○人材育成目標

法人の介護マイスター研修に参加。介護技術だけでなく、講師の考え方や実践から、介護について多くを学ぶことができた。他、千葉県発達障害者支援センターによる T E A C C H I プログラム研修等の外部研修に職員を派遣した。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

- ・「稼働率」 入所：目標 98% ⇒ 実績 97.4%・短期入所：目標 60% ⇒ 実績：61.9%
- ・「地域交流」定期的に行われる地域自治会の公園清掃に職員が参加した。次年度以降も継続して参加していきたい。

（施設長 池田 浩一）

1 施設利用状況（2018.4.1～2019.3.31）

1-1 利用状況

【定員 60 名】

	施設利用者			1 日平均		空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	21900	21900	21702	59.4	99%	198	0	17	181	1	0

1-2 入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	1			1				
退所者数と退所事由	0							

1-3 短期入所（ショートステイ）利用状況 【定員 3 名】

	利 用 者			
	延定員数	延総数	1 日平均	稼働率
年間	1095	566	1.55	51.6

1-4 地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況

	利 用 者	
	総 数	1 日平均
年間	4	0.01

1-5 出身地別利用状況

【千葉県】	男	女	【千葉市】	男	女	【東京都】	男	女
佐倉市	1	3	中央区	0	2	足立区	2	0
船橋市	2	0	美浜区	1	0	板橋区	3	0
印西市	1	0	若葉区	0	1	江戸川区	3	1
大網白里市	0	1	稲毛区	1	0	大田区	2	0
君津市	3	0	花見川区	0	2	葛飾区	2	0
松戸市	1	2	計	2	5	港区	1	0
富里市	1	0	合計	7		江東区	1	0
成田市	0	3	【埼玉県】			渋谷区	0	1
館山市	1	0				品川区	1	0
市川市	1	0	春日部市	1	1	世田谷区	1	1
八千代市	0	1	草加市	1	0	千代田区	1	0
銚子市	1	0	計	2	1	練馬区	1	0
南房総市	1	0	合計	3		目黒区	1	0
九十九里町	1	0	【神奈川県】			昭島市	1	0
計	14	10				町田市	1	0
合計	24	横浜市	0	1	計	21	3	
		相模原市	1	0	合計	24		
		計	1	1				
		合計	2					
※佐倉市住所所持者 30 名								

2 利用者の状況（28 年度中在所した全利用者）

2-1 年齢構成（年齢は 2018. 4. 1 現在）

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	60	0	9	4	23	19	5	45.7	89	20
%		0%	15	6.7	38.3	31.7	8.3			
男	41	0	5	3	17	13	4	45.8	74	20
女	19	0	4	1	6	6	2	45.2	89	21

2-2 障害区分

	総数	1	2	3	4	5	6	重度障害者 支援加算
総数	60	0	0	0	1	1	58	5
%	100	0	0	0	1.7	1.7	96.6	8.3
男	41	0	0	0	0	0	41	4
女	19	0	0	0	1	1	17	1

2-3 身体障害者手帳による障害程度

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	60	51	1	0	0	0	0	8
%	100	85	1.7	0	0	0	0	13.3
男	41	39	1	0	0	0	0	1
女	19	12	0	0	0	0	0	7

2-4 療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	60	21	21	1	0	17
%	100	35	35	1.7	0	28.3
男	31	14	17	0	0	10
女	12	7	4	1	0	7

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	60	47	5	52	8
%	100	78.3	8.3	86.7	13.3
男	41	34	4	38	3
女	19	13	1	14	5

3-2 知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	60	49	11	0	0	0	0
%	100	81.7	18.3	0	0	0	0
男	41	38	3	0	0	0	0
女	19	11	8	0	0	0	0

3-3 障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	60	52	7	3	34	1	60	0	55
%	100	86.6	11.6	5	56.6	1.7	100	0	91.6
男	41	38	5	2	24	1	41	0	41
女	19	14	2	1	10	0	19	0	14

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

3-4 日常生活動作（ADL）介護の状況

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	ベッドメイキング	移動（内）	移動（外）
常時全面で介助	26	6	55	15	59	10	19
%	43.3	10	91.6	25	98.3	16.7	31.7
常時多面で介助	24	13	3	29	0	12	33
%	40	21.7	5	48.3	0	20	55
時々部分的に介助	9	31	1	14	1	27	1
%	15	51.6	1.7	23.3	1.7	45	1.7
点検・配慮程度	1	10	1	2	0	6	7
%	1.7	16.7	1.7	3.4	0	10	11.6
自立	0	0	0	0	0	5	0
%	0	0	0	0	0	8.3	0

3-5 コミュニケーションの状況

	言語（会話）	意思表示	一般文字	点字
不可	41	7	59	60
%	68.3	11.7	98.3	100
一部で可能	14	36	1	0
%	23.3	60	1.7	0
だいたい可能	2	17	0	0
%	3.4	28.3	0	0
支障なし	3	0	0	0
%	5	0	0	0

4 援助サービス

4-1 援助サービスの実施状況

項 目	援 助 サ ー ビ ス の 実 施 状 況
【住居】	援助サービスの実施にあたっては、居住ブロック単位で、日常生活の基本となるケアを中心にしたサービスを行っている。 居住スペースにおいては、情緒の安定・プライバシーに配慮している。 衛生保持・感染症予防のためプラズマクラスター機能付き空気清浄機を各共用スペースに設置し、日常の管理として次亜塩素酸水消毒液（クリーンアクア）を使用し居室や食堂、トイレの殺菌・消毒を行っている。また年間を通し食前に手指消毒を行っている。 環境整備として、浴室の廊下と脱衣場の床を、すべりにくくなるように滑り防止タイプの床材に貼り替えをおこなった。トイレの臭い対策として、ヘレンホームのトイレ2箇所の床の貼り替えをおこなった。 毎月、環境美化デイを設定し、日頃手の回らない箇所の清掃や環境改善のための修繕等を行い、環境美化向上に努めた。
【食事】	ブロック単位での食事の提供を行っている。食事時に人が集中することによる騒がしさの緩和、嚥下機能低下に伴う誤嚥予防等に配慮し、食事支援を行った。 また、体調不良等身体状況の変化、栄養管理や摂食状況に配慮した食事形態や提供の工夫を行った。本年度も全利用者に対し栄養ケア計画を実施し定期的にモニタリングすることにより利用者の個別の栄養管理を実施した。
【排泄】	全介助の方が多く、支援においては排泄傾向の把握と本人に対応した定時排泄に努めている。特に排便に関しては、便秘傾向の方も多く、主治医への相談と内服、便秘改善目的で補助食品を提供している。健康管理面で、排尿量と摂取水分量（IN・OUT）の把握が必要な方数名については、身体状況に変化がないか計量を行った。
【入浴】	サマータイム（6～9月）は週3回、それ以外は週2回の入浴を基本として実施。その他、活動状況、皮膚疾患等個々の方の状況に応じて適宜シャワー浴を行っている。利用者の高齢化・重介護化に伴い、特殊浴槽（座位型入浴装置、ミスト浴）と普通浴槽（大・小浴）を活用し、高齢者はもとより、さまざまな身体状況の方へ安全に配慮し入浴サービスを提供した。
【ホーム活動】	ホーム活動は従来どおりの居住ブロック単位で、午前の余暇活動は居住ブロックに関係なく当日の担当職員が実施している。 全体的な傾向として、高齢化・重度化に伴い集団での活動よりも、個々の嗜好・ペースにあわせた個別活動に重点をおいた活動が主体となっている。 日中活動としても年3回実施し、水遊び等季節に合わせた活動を行った。 各ホーム活動においては、誕生会等ミニイベントを実施するほか、朝の会、造形等を行った。 《朝の会》 1日の予定、勤務スタッフの紹介、食事メニューの紹介、連絡、ラジオ体操等。利用者への情報提供を行う。 《音楽》 CDや有線放送のラジオなどで音楽を流し音楽鑑賞等を通じ、音楽に親しむとともに、情緒の安定を図った。 《造形》 季節の行事で掲示・使用する作品等を中心に、活動した。書初め等季節にそった工夫も見られた。 《食事会》 デリバリー等注文し、個々の嗜好に合わせたメニューを提供。給食とは異なる雰囲気、味わいを堪能した。10月には、3ホーム合同で寿司のケータリングを楽しんだ。
【余暇活動】	《個別外出》 利用者と職員が一对一对応で、車を使って外出や散歩に出かけた。外食や買い物は、利用者の大きな楽しみとなっている。 《歩行・散歩》 歩行能力と体力維持をはかり、楽しく歩くことを目的に、敷地

【とつぜん音楽会】	内遊歩道の歩行、近隣公園への散歩を行った。十分な時間とはいえないが、高齢化による利用者の体力・筋力低下が見られる中、天候のよい時など日光浴も行った。
【ボランティア交流】	3 ホーム合同で開催した。流れる音楽から季節や年代を感じ、アクティブに、かつ心穏やかになるよう活動を提供した。 地域のボランティアの協力によりイベントを企画していただいた。9月に行ったコーヒESHOPでは、ゆっくりとした時間を過ごすことができた。
【ニーズ別旅行】	今年度も、遠くに出掛けるのが困難な利用者向けに近隣でバーベキューを楽しむコース、アクティブな活動をするコース、バイクで食事を楽しむコース、ゆったりとした食事をするコースの四コース編成で実施した。半日程度の外出であるが、ご家族、利用者、職員がゆったり交流することができた。

5 運営管理

5-1 職員状況

	2018.4.1 現員数	2018.4.1～2019.3.31				2019.3.31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総数	44 (9)	2 ()	2 ()	1 (1)	2 (1)	43(8)
施設長	1					1
支援課長	1					1
主任	3					3
生活支援員	36 (6)	2	2	1	2(1)	35(5)
クリーンスタッフ	3 (3)					3(3)
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護師	1(兼)					1(兼)
栄養士	1(兼)					1(兼)

★産休・育休・介護休・休職中職員も現員のままとする。

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

★網掛けについては、総数に表示していない。

5-2 職員研修の状況

施設内					
月 日	研修名	人数	月 日	研修名	人数
4/2～4/4	新任職員研修	3	5/25	メンター研修	4
6/8	人材育成セミナー	3	6/19	介護技術研修	5
6/21	コンプライアンス研修	5	8/9	介護技術研修	3
9/11	リスクマネジメント研修	4	9/27	交通安全セミナー	2
11/13	リスクマネジメント研修	10	11/26	リフレッシュ研修	2
12/18	介護マイスター研修	8	1/24	介護マイスター研修	4
2/15	労務管理者研修	2	2/19	成年後見人制度	4
3/15	メンター研修	1	3/19	介護マイスター研修	9
3/21	リスクマネージャー養成講座	8			

施設外					
6/11～12	関身協職員研修	4	6/22	感染症対策研修	3
7/18	県身協職員研修	1	7/19～20	盲重研職員研修	2
8/9～10	てんかん講座	2	8/16～17	防火管理者研修	1
8/29～30	相談支援従事者研修	1	9/27～28	関身協力施設職員研修	2
10/1	感染症対策研修	1	10/11～12	OJT 研修	1
10/13	キャリアアップ研修	1	10/13	傾聴講座	1
10/16	虐待防止マネージャー養成研修	1	10/16	佐倉施設協合同研修	1
10/18～19	相談従事者更新研修	1	10/20	傾聴講座	1
10/25～26	盲重研全国大会	6	11/5	虐待防止マネージャー研修	1
11/13	関身協施設職員研修	3	11/26	サビ管研修	2
12/4～5	サビ管研修	2	12/9	障害について学ぶ講座	1
12/19	感染症予防研修	2	2/2	成年後見について	2
2/3	防災講習会	1			
複数研修					
研修内容		月 日		参加人数	
TEACCH プログラム研修		5/19・7/7・9/29・10/27・12/16・2/24		6	
介護者のための研修		12/15・12/23・1/19		6	

5-3 実習受け入れ状況

※2018 年度については該当なし

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数

6 行事実施状況

月	行事内容
4 月	グループ外出(13・20)・歓迎会(17)・愛と光のコンサート(26)
5 月	グループ外出(8・19)・ニーズ別旅行(11・30)
6 月	ニーズ別旅行(13・26))・とつぜん音楽会(15)・光和会のど自慢大会(24)
7 月	グループ外出(5・22)・ヤマハ音楽会(7)・クラブ活動プール(22)
8 月	グループ外出(2)・とつぜん音楽会(12)
9 月	グループ外出(20)・RUN 伴ちば 2018(8)・コーヒーショップ(16)・コーラスこだま(29)
10 月	グループ外出(19)・秋まつり(6)・ハーティーコンサート(10)・クラブ活動ケーティング寿司(16) リコーダー演奏会(22)
11 月	グループ外出(2・9・21)・つくしんぼうシンガーズ(17)・運動会(18)
12 月	グループ外出(21)・ミュージカル見学(3)・クリスマス会(23)
1 月	グループ外出(11・13・17)獅子舞(1)・千視協アイパートナーコンサート(5)・新年会(20) とつぜん音楽会(27)
2 月	グループ外出(22)・クラブ活動豆まき(10)
3 月	グループ外出(1・8・10)・送別会(29)

障害者支援施設

め い わ

概況 【入所部】

当年度のスローガンは「地域から信頼される利用者サービスを!」であった。

入所施設とその利用者は、地域との繋がりが少ないため少しずつではあるが、地域に出かけて行き、利用者のことを知っていただくことから始めた。当年度は、「合鴨農法による米作り」に 5 月から 3 名の利用者が参加している。また、認知症啓発のためのマラソンイベント「RUN 伴」に利用者 3 名と職員 3 名が参加した。この活動には障害のある利用者がボランティアをするという形で参加した。ゴールした利用者の笑顔からは達成感がうかがえた。

○数値目標（稼働率）

施設入所（稼働率）：目標 97%⇒実績 98.4% 生活介護（稼働率）：目標 99%⇒実績 109.3%

短期入所（稼働率）：目標 80%⇒実績 100.1%

・短期入所については、当該居室の改修工事の影響等で 1 月の稼働率が下がった。

○サービス目標

・権利擁護の推進について、職員会議に於いて 2 回の意見交換を行った。

1 回目は、やまゆり園殺傷事件を題材にして、障害を持っている人の支援に携わる仕事をするうえで、基本的に必要なものは何かを考える時間であった。「この仕事は障害者支援ではなく、人間支援であるべきだ」などの意見があった。

2 回目は、利用者の「自己選択・自己決定」についてグループワークを行なった。生活の小さいことから始められる自己選択・自己決定を増やしていくことは、利用者自身の生活の質を高めることにつながることで、また、失敗体験も必要であるとの意見も上がった。

○地域連携目標

・めいわ太鼓班と佐倉地域で活動している清丸太鼓とが初めて共同して愛光秋祭り、全国盲重複障害者福祉施設研究大会に出演した。地域の方の理解も進んだと思われ、利用者は他の太鼓団体と演奏を合わせるという初めての体験を楽しむことができた。

・散歩のボランティアとして 1 名の方が入って、利用者の休日の過ごし方に貢献していただいた。利用者の話を聞いてくれる役割もあるため、今後も増やしていく必要があると感じる。また、ボランティアによる茶道クラブが始まった。ひと月に 1 回、毎回 10 名ほどの利用者が楽しまっている。

○業務遂行目標

・第 39 回全国盲重複障害者福祉施設研究大会は、愛光が主管施設として滞りなく運営できた。

参加者は、147 名（内愛光職員 27 名、家族会 23 名）であった。

・3 部屋の居室の改修工事を行った。ショートステイ 2 居室はクロスを貼りより家庭的雰囲気、2 人部屋 1 居室は備え付家具を配置し直してプライバシーが確保できる空間とした。また、全居室のカーテンを明るい色に交換した。

○人材育成目標

・倫理綱領を実践するため、それらに関する課題を毎月のセルフチェックシートにて考えや行動を振り返り虐待に繋がらないように意識づけを行った。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

・稼働率：入所、生活介護、ショートステイとも、目標を上回った。

・地域貢献活動：太鼓クラブは地域の要請に応じて演奏活動を行った。地域自治会の清掃活動は利用者も参加して年 3 回参加した。

（施設長 安部一義）

概況【通所部】

当年度のスローガンは「福祉の拠点となるパイプをつなげよう！」であった。職員一人ひとり解釈に差があったように思うが一年間取り組んだ結果として、外部の方と会ったり、散歩の時などに行う地域住民との挨拶、また、学生の実習生を積極的に受け入れる中で、地域で暮らしている障害者やご家族との関係等を説明するなど、その“暮らし”を伝えたことがスローガンに繋がったという意見もあった。さらに、通所利用者やご家族に満足していただけるように努力することがパイプのひとつと考えている。地域での生活、社会で生きていくためには…という視点を持って支援を行っている等の意見があがり、職員それぞれがスローガンを意識し取り組んできたようである。

○数値目標

(稼働率) : 目標 124% ⇒ 実績 平均稼働率 124.2%

当年度での利用終了は2名おり、1名は他法人のグループホームへ入居、他1名は平成28年の6月から月1回ないし2回の利用をされていた方である。他事業所も利用されていたため、その事業所へ切り替わるようになった。

○サービス目標

個々の利用に合わせたサービス(活動)の提供ということでは、余暇時間の活動など、時間をどうすごしたら良いかわからない方に対し、自立課題等の提供を行い、また見直し作業も行っている。通所にいる時間をどう過ごすか、作業活動の時間とレクリエーション的要素を多く含むそれ以外の時間とのメリハリをつけられるよう活動の提供を行った。

感染症に関しては、インフルエンザ罹患患者(利用者・職員)が短期間で10名発生し、他事業所への感染を防ぐ意味で、クリエイティブワークへの参加を3日間取りやめた。今後も感染症対策には十分配慮したい。

○地域連携目標

- ・学校関係の教員の研修では、2名の依頼があり受け入れを行った。

- ・特別支援学校等の実習の受け入れについては、卒業後の進路先と考えた場合に、受け入れられる現状なのかを判断する必要がある。1年生の実習は初めての体験となったところだが、2年生後期くらいから進路を意識する。卒業後の利用をいつ回答するかによっても、利用率に変化が発生すると考えている。

- ・外部からの学生の研修生、実習生の受け入れは年間で41名となった。特に夏休み期間、2～3月は保育士の実習が重なり途切れることがなかった。

○業務遂行目標

業務手順の効率化、タイムマネジメントの徹底ということでは、手順書に関しては毎日の会議で、変化があれば職員それぞれが手書きで記入し更新していく形で、随時見直しが出来ていた。

○人材育成目標

外部の研修に参加することで新しい考え方や手法など学びになると考えているが、なかなか実際の支援に生かしていく、実行するという面では難しさを感じている。事業所の代表として参加していることを意識し研修後は、他職員への伝達力を付けていくことが課題となる。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況(2017～2019年度)

目標数値については3年平均であるが、2年目としては達成(数値目標に記載通り)

2年平均 124.4%

(課長 小出 博美)

1 施設利用状況（2018.4.1～2019.3.31）

1-1 利用状況

①めいわ

【定員56名】

	施設利用者			1日平均		空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	20440	20440	20116	55.1	98.4	324	0	93	231	0	0

②根郷通所センター

【定員24名】

	通所利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	6240	12220	7719	29.7	124.2	2	2

1-2 入・退所状況

①めいわ

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数と退所事由	0	0	0	0	0	0	0	0

②根郷通所センター

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況	0	0	2	0	0	0	0	0
退所者数と退所事由	0	0	0	0	2	0	0	0

1-3 短期入所（ショートステイ）利用状況

①めいわ

【定員4名】

	利用者			
	定員	総数	1日平均	稼働率
年間	1460	1307	3.6	89.5

1-4 地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況

①めいわ

	利用者	
	総数	1日平均
年間	183	0.5

②根郷通所センター

	利用者	
	総数	1日平均
年間	44	0.17

1-5 出身地別利用状況

① めいわ

【千葉県】	男	女	【千葉市】	男	女	【東京都】	男	女
銚子市	1	1	緑区	1		練馬区大泉		1
市川市	1	0	若葉区	1	1	練馬区石神井		2
木更津市	1	0				台東区		1
松戸市	1	0				江東区	1	
香取市	1		計	2	1	渋谷区		1
茂原市	1		合計	3		世田谷区北烏山		1
成田市	1	1	【新潟県】			世田谷区	1	1
佐倉市	5	3				足立区（東部）		1
匝瑳市	1		魚沼市		1	目黒区		2
酒々井町	1					八王子市	1	
柏市	3	1				小金井市	1	
君津市		1	計		1	青梅市	1	
我孫子市	1		合計	1		狛江市		1
船橋市	1	1				西東京市		3
大多喜町	1							
長生村		1						
八街市	1							
習志野市		1	計					
四街道市		2	合計					
	21	12						
合計	33							
						計	5	14
						合計	19	

②根郷通所センター

出身地	男	女	計			
佐倉市	11	5	16			
四街道市	9	12	21			
習志野市	1	0	1			
千葉市	6	2	8	男	女	合計
成田市	0	1	1	27	20	47

2 利用者の状況（30 年度中在所した全利用者）

2-1 年齢構成（年齢は 2018. 4. 1 現在）

① めいわ

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	70～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	56	0	3	3	16	23	6	5	53	83	20
%	100	0	5.4	5.4	28.6	41	10.7	9			
男	28	0	2	2	10	11	0	3	50	79	23
女	28	0	1	1	6	12	6	2	55	83	20

② 根郷通所センター

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	47	2	18	15	8	4	33.1	70	18
%	100	4.3	38.3	31.9	17	8.5			
男	26	2	9	10	3	3	33.4	70	18
女	21		9	5	5	1	32.7	53	20

2-2 障害区分

① めいわ

	総数	1	2	3	4	5	6	重度障害者 支援加算
総数	56				4	10	42	20
%	100				7.1	17.9	75	
男	28	0	0	0	3	7	18	11
女	28	0	0	0	1	3	24	9

② 根郷通所センター

	総数	1	2	3	4	5	6
総数	47	0	0	7	19	11	10
%	100	0	0	14.8	40.4	23.4	21.3
男	27	0	0	4	12	6	5
女	20	0	0	3	7	5	5

2-3 身体障害者手帳による障害程度

① めいわ

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	56	34	4	3	2	0	0	13
%	100	60.7	7.1	5.4	3.6	0	0	23.2
男	28	21	1	2	0	0	0	4
女	28	13	3	1	2	0	0	9

② 根郷通所センター

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	47	13	1	2	1	0	1	29
%	100	27.7	2.1	4.2	2.1	0	2.1	61.7
男	27	6	1	2	0	0	1	17
女	20	7	0	0	1	0	0	12

2-4 療育手帳による障害程度

① めいわ

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	56	7	27	6	5	11
%	100	12.5	48.2	10.7	8.9	19.8
男	28	4	13	1	2	8
女	28	3	14	5	3	3

②根郷通所センター

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	47	16	19	7	4	1
%	100	30.4	40.5	14.9	8.5	2.1
男	26	9	12	4	1	1
女	20	7	7	3	3	0

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

① めいわ

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	56	26	15	41	15
%	100	46.4	26.8	73.2	26.8
男	28	17	7	24	4
女	28	9	8	17	11

②根郷通所センター

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	47	9	4	13	34
%	100	19.1	8.5	27.6	72.4
男	27	5	2	7	20
女	20	4	2	6	14

3-2 知的障害

① めいわ

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	56	11	32	8	5	56	0
%	100	19.6	57.1	14.3	8.9		0
男	28	7	17	2	2	28	0
女	28	4	15	6	3	28	0

②根郷通所センター

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	47	16	19	7	5	47	
%	100	34.1	40.1	15	10.8	100	
男	27	9	12	4	2	27	
女	20	7	7	3	3	20	

3-3 障害の状況（総括）

① めいわ

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	56	40	5	3	1		56		5
%	100	71.4	8.9	5.3	1.7		100		8.9
男	28	24	3		1		28		3
女	28	16	2	3			28		2

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

② 根郷通所センター

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	47	13	5	0	0	1	44	15	6
%	100	27.6	10.6	0	0	2.1	93.6	31.9	12.8
男	27	7	3	0	0	1	24	9	2
女	20	6	2	0	0	0	20	5	4

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

3-4 日常生活動作（ADL）介護の状況

① めいわ

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	ベッドメイキング	移動（内）	移動（外）
常時全面で介助	2	0	2	0	16	3	7
%	3.6	0	3.6	0	28.6	5.4	12.5
常時多面で介助	6	17	34	10	25	9	38
%	1.7	30.4	60.7	17.9	44.6	16.1	67.9
時々部分的に介助	34	30	18	30	10	30	5
%	60.7	53.6	32.1	53.6	17.9	53.6	8.9
点検・配慮程度	13	9	2	16	5	12	5
%	23.2	16.1	3.6	28.6	8.9	21.4	8.9
自立	1	0	0	0	0	2	1
%	1.8	0	0	0	0	3.6	1.8

②根郷通所センター

総数	排泄	食事	入浴	着脱衣	移動 (内)	移動(外)
常時全面で介助 %	0 0.0	2 4.2	9 19.2	0 0.0	0 0.0	12 25.6
常時多面で介助 %	5 10.6	5 12.8	11 23.4	6 12.8	6 12.8	2 4.2
時々部分的に介助 %	8 17.0	5 10.6	11 23.4	9 19.2	7 14.8	12 25.6
点検・配慮程度 %	17 36.2	27 57.6	9 19.2	26 55.2	20 42.6	16 34.0
自立 %	17 36.2	7 14.8	7 14.8	6 12.8	14 29.8	5 10.6

3-5 コミュニケーションの状況

① めいわ

	言語(会話)	意思表示	一般文字	点字	盲人用ワープロ
不可 %	13 23.2	4 7.1	49 87.5	55 98.2	56 100
一部で可能 %	10 17.9	20 35.7	4 7.1	0 0	0 0
だいたい可能 %	32 57.1	32 57.1	3 5.4	1 1.8	0 0
支障なし %	1 1.8	0 0	0 0	0 0	0 0

② 根郷通所センター

	言語(会話)	意思表示	文字読・書	点字	盲人用ワープロ
不可 %	12 25.6	3 6.3	24 51.1	44 93.7	46 97.9
一部で可能 %	13 27.6	20 42.6	17 36.2	1 2.1	0 0.0
だいたい可能 %	18 38.3	20 42.6	5 10.6	1 2.1	0 0.0
支障なし %	4 8.5	4 8.5	1 2.1	1 2.1	1 2.1

4 援助サービスの実施状況

① めいわ

項 目	援助サービスの実施状況
日中活動 (月～金)	午前・午後共に各作業班に分かれて活動を行ない、午後には曜日ごとで小グループ活動も行った。利用者本人の希望を聞き取り、所属の活動を決定している。
農耕班	利用者 4 名 生ゴミをベースとした堆肥作り、野菜作りを行なった。
園芸班	利用者 4 名 培養土作り・花の生産を行なった。
手工芸班	利用者 9 名 さおり織り、さき織り、エコクラフト、ビーズ、組紐
創作班	利用者 16 名 牛乳パックのリサイクル、はがき作り、紙漉き
陶芸班	利用者 9 名 陶器製品の作成
受注作業班	利用者 6 名 箸入れ、ボールペンのノックづけ
リハビリ班	利用者 6 名 高齢者を対象とし、運動機能訓練、レクリエーション、散歩
余暇活動	
音楽	利用者 30 名ほど、月 1 回の午後の活動、自由参加 合奏・合唱の他、音楽に合わせて体操やストレッチも行なった。
太鼓	利用者 4 名 月 1 回のペースで太鼓の練習、地域の行事や施設に参加
その他	茶道ボランティア (月 1 回) ボランティアサークル「ラ・ポール」 傾聴ボランティア (月 2 回) 音楽ボランティア (不定期)
あおばの会	利用者自治会活動 総会 (役員選出、掃除・朝の放送等の各係り決め)、新年会

②根郷通所センター

項 目	援助サービスの実施状況
日中活動 (月～金)	各活動班に所属し、日中の活動を行う。活動班にて、作業の提供だけではなくレクの要素を組み込み、外出や行事なども行った。また、特別支援学校等の実習生の受け入れや教員の実習の受け入れなども積極的に行った。中学生の職場体験も日中の活動班で受け入れをしている。
農耕班	利用者 7 名 生ゴミリサイクルの堆肥作りを主の活動としながら、野菜作りを行った。
園芸班	利用者 4 名 培養土作り、花苗の栽培を行う。地区内の花壇整備を行っている。新しく園芸棟が完成し活動場所が変更している。
手工芸班	利用者 4 名 さをり織りを中心としながら、裂き織りや組紐、刺し子などを行っている。展示会にも参加している。
創作班	利用者 2 名 牛乳パックをリサイクルし紙漉きを行っている。ポチ袋や封筒、カレンダーを作っている。

陶芸班	利用者4名 箸置きや皿などの小物から、食器類を陶作。てびねりや鑄込み、機械ろくろ等を等を使用し作品づくりを行っている。
受注作業班	利用者25名 箸入れや箸組み、おしぼりの袋詰め、宅配寿司、釜飯のセット組、マグネットキャッチ、ボールペンの組立、洗濯たたみ、アルミ缶つぶしを行った。
リハビリ班	利用者0名 高齢者を対象とし、運動機能訓練、レクリエーション、散歩などを行った。 愛光健康堂の活動とし、はちす苑へ出張マッサージに週1回程度施術に行っている。
※グループ活動	
音楽	成人のお祝い会に向け、練習を行った。リスト曲を皆と一緒に歌った。 (回数：13回 平均：17名)
スポーツ	長縄跳び、卓球、屋外でサッカーやフライングディスクを行うなど、身体を動かしている。 (回数：13回 平均：16.2名)
パソコン	日中活動終了後に1対1もしくは2対1で時間を設け、操作方法を覚える取り組みをした。(火・木)
エクササイズ	音楽に合わせ、身体を動かしたりバランス運動を取り入れている。 (回数：12回 平均：15.3名)
陶芸	日中活動の活動をして行っている日に実施している。希望者が増え活動の調整に苦慮している。 (回数：日中活動のある日 平均：2名)
散歩	日中活動終了後に実施。
茶道	茶道体験。月1回(月)に実施。ボランティア2～3名参加。 (回数：12回 平均：18.4名)
フラワーアレンジメント	季節の花々のフラワーアレンジメント体験。ボランティア2～3名参加。 (回数：5回 平均：13.2名)
プール	日中活動の1つとして実施した。根郷中学校のプール一般開放の期間中。 (1人 平均：5回)

5 運営管理

5-1 職員状況

①めいわ

	2018.4.1 現員数	2018.4.1～2019.3.31				2019.3.31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総数	40(5)	2(0)	9(0)	10(0)	2(0)	38(5)
施設長	1					1
支援課長	1					1
主任	2					2
生活支援員	36(5)	2	9	10	2	34(5)
クリーンスタッフ						
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護師	1(兼)					1(兼)
栄養士	1(兼)					1(兼)

②根郷通所センター

	2018.4.1 現員数	2018.4.1～2019.3.31				2019.3.31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総数	17(10)	1(1)	4(1)	2(0)	2(1)	18(10)
施設長	1					1
支援課長	1					1
主任	1		1	1		1
生活支援員	13(8)	1(1)	4(1)	2	2(1)	14(8)
クリーンスタッフ	2(2)					2(2)
機能訓練指導員	1(兼)					1(兼)
看護師	1(兼)					1(兼)
栄養士	1(兼)					1(兼)

★産休・育休・介護休・休職中職員も現員のままとする。

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

★網掛けについては、総数に表示していない。

5-2 職員研修の状況

① めいわ

施設内					
月 日	研修名	人数	月 日	研修名	人数
5/25	メンター研修	1	6/8	リスクマネジメント	4
6/19	介護マイスター養成研修	1	6/21	権利擁護・虐待防止	9
6/27	感染症対策訓練研修	1	7/26	メンティー交流会	3
8/23	メンター情報交換会	3	9/11	リスクマネジメント	2
9/27	交通安全セミナー	2	10/9	転倒予防防止策	2
10/15	防災研修	2	11/13	リスクマネジメント	4
11/26	中堅職員リフレッシュ研修	3	12/18	介護マイスター養成研修	4
12/19	感染症研修	4	1/24	介護マイスター養成研修	6
12/15	労務管理	2	3/15	メンター研修	2
3/19	介護マイスター養成研修b	3	3/21	リスクマネジメント	3
施設外					
6/19～20	千葉県知的協会新任研修	1	6/23	東京都社協研修	1
7/12～13	関東地区知的協会研修	1	7/17	印旛山武ブロック研修	1
7/19～20	全国盲重複施設協議会研修	1	8/7	就労部会市民講座	1
8/9～10	てんかん基礎研修	1			
11/7	ゆうゆうの里実践研修	1	11/10	障害について学ぶ市民講座	2
12/11	東京都強度行動研修	1	1/13	東京都社協研修	1
2/5	災害時視覚障害者支援リーダー養成研修	2	2/6	東京都社協研修	1
3/9	強度行動障害者支援実践発表	2	3/13	東京都社協研修	2
複数研修					
研修内容		月 日		参加人数	
東京都社協強度行動障害者支援研修		6/22, 7/24, 8/30, 9/20, 10/18, 11/15, 12/11		1	
傾聴基礎講座		10/13、20		1	

千葉県障害者虐待防止・権利擁護	11/5、11/20、12/19、1/9	8
千葉県相談支援従事者初任者研修	9/10～12、10/18～19	1
千葉県サービス管理責任者研修	11/28、12/4～5	1

③ 根郷通所センター

施設内					
月 日	研修名	人数	月 日	研修名	人数
6/21	法人研修 「権利擁護・虐待防止研修」	1	6/22	新しい事例検討のあり方実践 PICAZIP	
9/11	法人研修 「リスクマネージャー養成セミナー」	2	11/26	法人研修 「中堅職員リフレッシュ研修」	2
2/15	法人研修 「労務管理研修」	1	2/19	法人研修 「権利擁護研修 成年後見制度について」	7
2/21	法人研修 「リスクマネージャー養成セミナー」	8	3/2	法人研修 「職員実践発表会」	15
施設外					
6/6	新しい事例検討のあり方を学ぶ	1	7/10	日中活動支援部会	2
7/11	非常勤支援職員研修	1	10/25	第 39 回全国盲重複障害者福祉施設研究大会	1
11/5	障害者虐待防止マネージャー研修	1	1/30	個別支援計画を再考するⅡ	1
3/11	日中活動支援部会	2			
複数研修					
研修内容		月 日		参加人数	
てんかん基礎研修		8/9. 8/10		1	
千葉県強度行動障害支援者養成研修 実践研修		11/11. 11/18		1	
日中活動支援部会全国大会		11/29～30		1	
農福連携推進関東ブロックセミナー・ステージア-		2/18. 2/19		1	

5-3 実習受け入れ状況

① めいわ

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
6/11～14	中央介護専門学校	介護福祉士	1
6/20～8/2	新国際福祉カレッジ	介護福祉士	1
8/20～9/21	東京福祉専門学校	社会福祉士	1
9/25～9/27	中央介護福祉専門学校	介護福祉士	1
10/2～11/10	城西国際大学	社会福祉士	1
8/16～29、 H31/2/12～28	東京福祉専門学校	社会福祉士	1
2/18～3/1	植草学園大学	保育士	1

② 根郷通所センター

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
8/ 1～ 8/22	千葉女子専門学校	保育士	1
8/ 2～ 8/22	聖徳大学	保育士	2
8/27～ 8/30	日本医科大学	医師	16
8/27～ 9/10	聖徳大学	保育士	4
10/ 3～10/ 5	二葉看護学院	看護師・保健師	5
2/ 1～ 2/19	平成帝京大学	保育士	2
2/ 6～ 2/22	敬愛短期大学	保育士	2
2/18～ 3/ 5	敬愛短期大学	保育士	3
2/20～ 3/ 7	千葉明德短期大学	保育士	2
3/ 6～ 3/22	目白大学	保育士	2
3/ 8～ 3/26	平成帝京大学	保育士	2

6 行事実施状況

① めいわ

月	行 事 内 容
4 月	辞令交付式、職員会議（2・27）、家族会（21）
5 月	家族会（20）、職員会議（22）、1泊旅行（15, 16 熱海方面）
6 月	家族会（17）、職員会議（22）、光和会のだ自慢（24）
7 月	家族会（15）、1泊旅行（17, 18 石川方面）、職員会議（24）、歓迎会（24）
8 月	納涼祭（22）、職員会議（24）、1泊旅行（28, 29 東京方面）
9 月	家族会（16）、敬老会（17）、職員会議（18）
10 月	秋まつり（6）、職員会議（19）
11 月	1泊旅行（14, 15）、おひさま祭・家族会（18）、職員会議（20）
12 月	さわやか芸能発表会（4）、家族会（16）、職員会議（20）、クリスマス会（24）
1 月	新年会（14）、家族会新年会（20）、職員会議（22）
2 月	家族会（17）、職員会議（22）
3 月	法人職員実践発表会（2）、職員会議（20）、送別会（20）

②根郷通所センター

月	行 事 内 容
4 月	辞令交付式（2） 開所式（2） ブラインド卓球大会（2） もの取りゲーム&キャタピラリレー（3） お花見・佐倉城址公園（5）
5 月	千葉市ゆうあいピック（16・7名）
6 月	グループ旅行① 成田・航空科学博物館（13・3名） グループ旅行② 東京ディズニーシー（20～21・11名）
8 月	納涼祭・屋台村開催（10） 夏季休暇（13～16）
9 月	グループ旅行③館山方面（5～6・7名） 総合防災訓練（13）
10 月	愛光秋まつり（6） 敬老会（10） 運動会“玉入れ&キャタピラレース”（19） グループ旅行④東京ドイツ村（22・10名） グループ旅行⑤東京スカイツリー（30・7名）
11 月	さわやか芸能発表会（4・7名）
12 月	大掃除&忘年会（20） 冬季休暇（30～3）
1 月	成人を祝う会（22）
3 月	防災訓練（8） やよい会（20） 家族会懇談会（23）

障害者支援施設
リホーブ

概況

当年度のスローガンは、「地域視点で、利用者生活を考えよう！」であった。次年度の制度改正「短期入所利用日数 180 日限度」を見据え、12 月に 1 名、次年度の 4 月に 2 名の短期入所利用者がグループホームに移行する予定である。本人・家族の要望を踏まえ主任会議、職員会議で検討を重ね、相談支援事業所に積極的に働きかけることで地域移行に成功することができた。また、前年度からの懸案事項であった利用者との関わりについて、共用部分の清掃に特化するパート職員の導入等により、職員が利用者に関わる時間が増え大きく改善した。

○数値目標

- ・入所、短期入所合算（稼働率）：目標 90% ⇒ 実績 95.7 %
- ・生活介護（稼働率）：目標 90% ⇒ 実績 89.8 %

○サービス目標

- ・当年度は個別支援計画を更に充実することで、利用者視点に立った個別対応が充実してきた。生活環境の面でも、施設入口に音声案内を設置したり経年劣化のため危険を伴う恐れがある箇所を徹底的に洗い出し予算化して、次年度の改修に繋げることができた。9 月に死去された利用者については、数ヶ月前からご本人の意向を確認し、意向に沿った葬儀を行った。また、財産の寄付についても、生前に弁護士を依頼し法的に滞りなく実施した。

○地域連携目標

- ・学童保育所児童との交流では、新たな試みとしてこちらが訪問するのではなく、児童をリホーブに招いた。初めて見る施設や大勢の利用者に最初は戸惑っている様子であったが、時間が経つにつれ利用者との会話が増え心温まる交流となった。帰り際には利用者と握手し大きな声で別れの挨拶をしていた。毎年同じことを繰り返すのではなく、今後も新たな試みを実施していきたい。

○業務遂行目標

- ・「職員の言動に対する利用者アンケート」の結果を真摯に受け止め、個別対応の充実を図ることができた。業務の効率化については、フロアリーダーを中心にマニュアルの充実や業務分担を明確化することによって進めることができた。第 39 回全国盲重複障害者福祉施設研究大会の開催についても、滞りなく実施することができた。

○人材育成目標

- ・前年度、外部研修への参加が少なかったため、積極的に外部研修への参加を促した。特に知的障害者への知識・理解を向上させるため、知的障害者福祉協会の研修に多く派遣した。今後は、新人・若手の模範となるべくベテラン職員の意識向上に力を入れていきたい。

◎第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

- ・「稼働率」入所、短期入所合算 目標：90% ⇒ 実績 95.7%
- ・「地域交流」福祉学習 6 回、学童との交流 2 回、地域自治会清掃活動 3 回、地域食堂ブレオープンエレクトーン演奏 1 回を実施した。

（施設長 中川 光男）

1 施設利用状況（2018.4.1～2019.3.31）

1-1 利用状況

【定員50名】

	延べ年間施設利用者			1日平均		延べ年間空所				異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
年間	18,250	16,241	15,849	43.4	86.9	2,384	2,020	119	245	5	1

1-2 入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者数と入所前状況				1				4
退所者数と退所事由							1	

1-3 短期入所（ショートステイ）利用状況 【定員2名（+空床型）】

	利用者			
	延べ定員	延べ総数	1日平均	稼働率
年間	730	2314	6.3	317.0%

1-4 地域生活支援事業（日中一時支援事業）利用状況

	利用者	
	延べ総数	1日平均
年間	0	0

1-5 出身地別利用状況

【千葉県】	男	女	【千葉市】	男	女	【東京都】	男	女
市川市	3		稲毛区		2	板橋区志村		1
市原市	2	1	中央区	1		足立区	1	
柏市		1	若葉区	2		練馬区大泉	2	
香取市	1		美浜区		1	練馬区石神井	1	
鴨川市	1		計	3	3	大田区	1	
袖ヶ浦市		2	合計	6		江戸川区	2	
館山市	1		【埼玉県】			葛飾区		1
東金市		1				計	7	2
流山市	1		春日部市	1	1	合計	9	
野田市	1		白岡町	1				
旭市	1					【茨城県】		
船橋市	2							
茂原市	1		計	2	1	鹿嶋市	1	
八街市	1	1	合計	3				
八千代市	1		【神奈川県】					
佐倉市	1	4				計	1	
長南町		1	大和市	1		合計	1	
計	17	11	計	1				
合計	28		合計	1				

2 利用者の状況（2018 年度中在所した全利用者）

2-1 年齢構成（年齢は 2018. 4. 1 現在）

	総数	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	平均年齢	最高年齢	最年少
総数	48	2	2	6	9	13	14	2	60.7	85	22
%	100	4.2	4.2	12.5	18.7	27.1	29.1	4.2			
男	31	2	1	4	4	8	10	2	61.5	85	22
女	17	0	1	2	5	5	4	0	59.2	76	33

2-2 障害程度区分

	総数	1	2	3	4	5	6
総数	48	0	0	1	19	17	11
%	100	0	0	2.1	39.6	35.4	22.9
男	31	0	0	0	13	11	7
女	17	0	0	1	6	6	4

2-3 身体障害者手帳による障害程度

	総数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不所持
総数	48	38	5	0	0	0	0	5
%	100	79.2	10.4	0	0	0	0	10.4
男	31	27	3	0	0	0	0	1
女	17	11	2	0	0	0	0	4

2-4 療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	48	0	6	4	5	33
%	100	0	12.5	8.3	10.4	68.8
男	31	0	2	3	3	23
女	17	0	4	1	2	10

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	48	30	11	41	7
%	100	62.5	22.9	85.4	14.6
男	31	20	9	28	2
女	17	10	2	12	5

3-2 知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	48	0	6	4	5	15	33
%	100	0	12.5	8.3	10.4	31.2	68.8
男	31	0	2	3	3	8	23
女	17	0	4	1	2	7	10

3-3 障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	48	41	8	5	0	1	35	12	12
%	100	85.4	16.7	10.4	0	2.1	72.9	25	25
男	31	29	5	4	0	1	21	8	9
女	17	12	3	1	0	0	14	4	3

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

3-4 日常生活動作（ADL）介護の状況

	排泄	食事	入浴	着脱衣	ベッド メイキング	移動 (内)	移動 (外)
常時全面で介助	0	0	0	0	12	4	31
%	0	0	0	0	25	8.3	64.6
常時多面で多介助	2	0	3	0	12	1	10
%	4.2	0	6.3	0	25	2.1	20.8
時々部分的に介助	10	2	21	2	10	8	4
%	20.8	4.2	43.7	4.2	20.8	16.7	8.3
点検・配慮程度	13	40	12	21	7	25	1
%	27.1	83.3	25	43.7	14.6	52.1	2.1
自立	23	6	12	25	7	10	2
%	47.9	12.5	25	52.1	14.6	20.8	4.2

3-5 コミュニケーションの状況

	言語（会話）	意思表示	一般文字	点字
不 可	0	0	38	30
%	0	0	79.1	62.5
一部で可能	4	4	4	4
%	8.3	8.3	8.3	8.3
だいたい可能	0	0	3	2
%	0	0	6.3	4.2
支障なし	44	44	3	12
%	91.7	91.7	6.3	25

4 援助サービスの実施状況

区 分	援助サービスの実施状況
住居・食事 日用品等の提供	業者による床のワックスがけ実施。 高圧洗浄機で、窓掃除、風呂場の掃除など実施。 浴室に新たに手すりを設置。 2名の利用者が布団からの立ち上がりが難しくなっており、介護ベッドを2台導入。結果、高さ調整により立ち上がりが改善。 汚れの目立つシャワーチェアへの買い替え。 ナースコールを導入し、利用者の安全と要望に応えられる体制を構築。
各種専門的訓練 及び 日中活動	【受注作業】 箸入れや箸組み、おしぼりの袋詰め、宅配寿司や釜飯のセット組、紙トング組立、ローラーキャッチ、マグネットキャッチ、ボールペン組立、洗濯たたみ、アルミ缶つぶしなど。(利用者 17名参加) 【農 耕】 生ゴミリサイクルの堆肥作りを主の活動としながら、野菜作り。ユニバーサル農業の仕事も定期的実施。(利用者 1名参加) 【園 芸】 花苗の栽培を行い、地域の販売会に参加。物井駅とヤックス前の花壇整備も実施。(利用者 7名参加) 【リハビリ】 高齢者や視覚障害者を対象とし、運動機能訓練、歩行訓練、レクリエーション、散歩、個別外出などを実施。愛光健康堂の活動として、はちす苑へ週1回の出張マッサージ実施。(利用者 5名参加) 【創 作】 牛乳パックのリサイクルによる紙漉き。(利用者 2名参加) 【手 工 芸】 さをり織り、さき織り、エコクラフト、組紐、刺し子、羊毛フェルト作りなど。(利用者 7名参加) 【陶 芸】 箸置きや一輪挿しなどの小物から、食器類、植木鉢などの陶作。手びねりや鑄込み、機械ろくろ等を使用しての作品作り。 (利用者 4名参加)
ケアマネジメント	利用者のアセスメント表を更新した。ケース記録の見直し、動作の確認を行い担当職員が中心となり更新した。当年度は、個別支援計画を毎月のフロア会議で情報共有することで支援協力と利用者理解に努めた。また、前年に引き続き高齢化対策の一環として口腔ケア研修を行った。ヒヤリハットが出た際には、朝の引き継ぎとフロア会議で原因分析を行い、対策を考えリスク回避に力を入れた。
保健・医療	当年度は猛暑を想定し定時の水分補給の時間を設けた。職員間で話し合い、夏が過ぎた後も継続して水分補給を行った。水分補給を行うことで、利用者の水分量や、体調変化に気付くようになった。
余暇活動	余暇行事として、新たな観光地の情報を利用者に提供し例年にない観光地体験を行った。浅草での遊覧船体験、道の駅巡り、工場見学、鮎子などに日帰りで行った。個別外出では、宮城旅行、埼玉旅行、栃木旅行などに出かけている。
自治会活動	自治会主催で、夏を楽しもう会、もみの木会、弥生会を実施。利用者の希望により喫煙時間を検討し、24時間可能とした。有線放送の導入についても話し合いを継続。

愛光健康堂	午前中は施設内のリハビリ中心、午後は外来の診療を中心に行っている。固定客にプラスし、新規の利用客も少しずつ増えてきているが、今後も集客に向けた取り組みをしていきたい。
-------	---

5 運営管理

5-1 職員状況

職 名	2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 31				2019. 3. 31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総 数	30 (6)	5 (3)	3	3	7 (4)	31 (5)
施設長	1		1			1
課長	1					1
主任	2					2
生活支援員	23 (6)	3 (1)	2	2	6 (3)	23 (4)
清掃	0	2 (2)			1 (1)	1 (1)
機能訓練士	1 (兼)					1 (兼)
看護師	1 (兼)			1 (兼)		1 (兼)
栄養士	1 (兼)					1 (兼)

★育休・休暇中職員は現員から除く

★雇用形態変更・育休、休職の入出は、異動入・出にてカウントする

★年度末日退職者及び移動出職員は年度末日現員に含む

★年度当初採用者及び異動入職員は年度当初現員に含む

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示

5-2 職員研修の状況

施設内					
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
4/4	メンターマッチング研修	4	10/19	傾聴研修	21
6/8	リスクマネジャー人材育成研修	4	10/20	傾聴基礎講座	1
6/19	介護技術研修	6	11/13	リスクマネジメント研修	6
6/27	感染症研修	4	11/26	中堅職員リフレッシュ研修	4
7/31	コンプライアンス研修	1	12/4	口腔ケア研修	2
9/5	人事労働管理セミナー	1	2/2	総合相談センター研修会	1
9/20～24	他施設研修（はちす苑）	1	2/3	防災講演会	1
9/27	交通安全セミナー	3	2/15	労務研修	2
施設外					
5/15	障害支援区分認定調査研修	1	10/4～5	広報研修	1
5/25	福祉施設新任職員研修	2	10/24	全国盲重複研運営施設長会議	1

6/6～7	全国盲重複研修大会	2	10/25～26	全国盲重複研福祉施設大会	8
6/19～20	知的協会新任職員研修	2	11/7	ゆうゆうの里研究発表大会	2
6/27	強度行動障害研修	1	11/14～16	全国知的障害福祉関係職員研究大会	3
7/2～3	知的協会全国大会	2	11/15	メンター研修	1
7/12	認知症研修	1	11/23～24	社会福祉士実習指導者講習会	1
7/12～13	関東知的協会職員研究大会	1	11/29～30	精神保健福祉士実習指導者講習会	1
7/13	クレーム対応スキルアップ研修	1	1/22～23	千葉県知的協会施設長研修	1
7/13～14	精神全国大会	1	1/30～31	障害者支援施設部会全国大会	3
7/19～20	盲重複研職員研修大会	2	2/5	防災研修	2
8/27	権利擁護研修	2	2/19	職場活性化研修	2
9/21	排泄障害のアセスメント改善ケア研修	2	2/24	「炊き出し」体験訓練	1
9/29	救命救急講習	1	3/9	強度行動障害実践報告会	1
複数研修					
研修内容		月 日		参加人数	
メンター研修（内部）		5/25・3/15		4	
権利擁護研修（内部）		6/21・8/27・2/19		延べ 12	
リスクマネジャー養成研修（法人）		9/11・3/21		延べ 6	
介護マイスター養成研修（法人）		12/18・1/24・3/19		延べ 12	
強度行動障害実践研修		2/25・2/27		1	

５－３ 実習受け入れ状況

期 間	養 成 機 関 名	実習対象資格等	人 数
6.11～6.14	中央介護専門学校	介護福祉士	1
8.1～8.22	淑徳大学	社会福祉士	2
8.27～9.7	江戸川学園おおたかの森専門学校	社会福祉士	2
10.2～10.15	城西国際大学（前半）	社会福祉士	2
10.15～10.29	城西国際大学（前半）	社会福祉士	3
10.29～11.11	城西国際大学（後半）	社会福祉士	2
11.12～11.24	城西国際大学（後半）	社会福祉士	3

6 行事実施状況

月	行 事	主な余暇行事・外出
4 月		エコマラソン印旛 (8)、草笛クラブコンサート志津コミュニティセンター (16)、 あいとひかりのコンサート (21)、アイフェスタ千葉 (22)、 NHK ハート展 (26)
5 月		NHK ハート展 (2)、ヤマザキプラザ (3)、巢鴨散策 (18・28)、 ナンジャタウン (20)、相撲観戦 (26)
6 月	避難訓練 (20) 光和会のど自慢大会 (24)	ららぽーと (3)、散策クラブ・成田さくらの山公園 (3)、 日本テレビ (3) 鉄道クラブ・成田 (24)、埼玉旅行 (28・29)
7 月		鉄道クラブ・成田 (1)、散策クラブ・成田祇園祭 (8)、歌声セルフ喫茶 (20)、 わくワークちばてんフェスタ (27)、成田空港 (28) 香取散策 (29)
8 月	夏を楽しもう会 (22)	浅草めぐり (6・10)、幕張イオンモール (25)、エレクトーンクラブ・学童 (31)
9 月	総合防災訓練 (12)	RUN 伴ちば 2018 (8)、ベンチャーズコンサート (8)、 スカイツリー (16) エレクトーンクラブ・はちす苑 (17)
10 月	愛光秋まつり (3)	柏アリオ (8)、秋葉原 (21)、浅草めぐり (28)
11 月		船橋イオン (4)、成田空港 (4)、ふるさと墓参り (4) 宮城県旅行 (8～9)、四街道ガス灯ロードレース (18)、 RI hope 会居酒屋探訪 ((23)、ふるさとめぐり (24)、 アリオ蘇我 (2)、ニューリバーロードレース IN 八千代 (2)
12 月	もみのき会 (23)	ミュージカル観覧 (3) 海の幸ランチ (12)、富楽里とみやま (14)、 バリアフリー映画会 (15)、鉄道クラブ・東京駅 (16)、秋葉原 (16)、 山王学童との交流 (17)、映画鑑賞 (24)、九十九里ランチ (26)
1 月		初詣 (1・3) 福袋ショッピング (2・3) 千視協チャリティコンサート (5)、 映画鑑賞 (13)、草加・工場見学 (16)、歌声セルフ喫茶 (18)、 埼玉県白岡旅行 (24～25)、いきいきクラブ (27)、 散策クラブ・ららぽーと船橋 (27)、マザー牧場
2 月		1 泊旅行 (14・15)、上野 (17)、初詣 (17)、 手をつなぐ作品展鑑賞・八千代緑が丘イオン (24)
3 月	防災訓練 (8) 弥生会 (23)	ZOZO マリンスタジアム (16)、佐倉マラソン (24)
毎月	草笛クラブ、カラオケクラブ、エレクトーンクラブ	

障害者支援事業部
クリエイティブワーク

概況

当年度は、園芸班が全国盲重複障害者福祉施設研究大会で実践発表を行った。日頃取り組んでいる活動の中で、自助具に視点を置いた発表となり、他法人の職員から、一定の評価を得ることが出来た。活動を改めて見直し、更なる展開を考えていきたい。この大会ではクリエイティブワークの作品の展示、販売会も実施した。展示は時節柄ハロウィンを意識したものとした。販売については、「棚の使い方、作品の並べ方など参考にしたい。」などと嬉しい声が寄せられた。また、受注班など作業量が少なく作業の提供ができない場合には他班から、値札切りや糸結びなどの依頼を受け、取り組むなど班の連携を強化し臨んだ。

生産活動を行っている班は、納品や検品、販売などのマニュアルを作成しているが、なかでも受注班は納品時のミスを防ぐために作業ごとに更に種類により細かく手順書を作成した。業務にあたる際には過信せず、確認した上で取り組むように意識付けを行ってきた。

- ・通所部では、インフルエンザの罹患者が増えクリエイティブワークの受け入れを３日間中止している。

- ・販売会の年間スケジュールはあるものの、市役所からの依頼など急遽依頼をいただくことも多くある。依頼を受けるか否か、どう精査していくか課題が残った。

○サービス目標

利用者一人ひとりの状態像を的確に把握し専門性のある支援サービスを提供する、ということでは、自閉症や、強度行動障害といった障害特性を理解し支援にあたっていくことは、まだまだ難しいと感じている。しかし取り組みはそれぞれ行っているので、生活場面との情報共有、各班同士の情報共有を更に進めていきたい。

○地域連携目標

- ・愛光直売会を毎月定例として実施している。近隣の農家の方も回覧板を確認し、野菜など提供してくれている。また他法人からクッキーの販売の依頼をうけ、協力しながら行っている。

- ・特別支援学校の受け入れにおいては、生徒一人ひとりの実習期間や特性に応じ、各班で受け入れを行い、何班かを利用する場合にも戸惑いがないように連携をとり、参加する際には実習日誌や活動記録を利用者自身で持って行くような取組を行っている。

○業務遂行目標

- ・利用者支援、事業とのバランスの面においては、日々の支援の記録が各班個別支援計画を意識したものには課題が残る。班により異なる書式を使用しているが、記録を生かし切れていないのが現状であり今後の課題としたい。

○人材育成目標

- ・陶芸班では講師を依頼し、技術を学ぶ取り組みを継続している。農耕班では佐倉市の農政課からの紹介で農福連携推進関東ブロックセミナーに参加した。農林水産省のシンポジウムでは農福連携の施策、基調講演では、持続可能な農福連携の実践、事例報告や神奈川県内の事業所を見学した。見聞を広げ視野の拡大を図っていきたい。

（課長 小出 博美）

1 利用状況

所属施設状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

	リホープ	めいわ	根郷通所	ルミエール	計
農耕班	1	4	7	1	13
園芸班	7	4	4	1	16
手工芸班	7	9	4		20
創作班	2	17	2	2	23
陶芸班	4	9	4		17
受注作業班	16	7	22	3	48
リハビリ班	5	6			11
計	42	56	43	7	148

2 サービスの実施状況

農耕班	生ごみのリサイクル堆肥の生産を軸とし、野菜の栽培を行っている。ユニバーサル農業の取り組みも順調に取り組んでいる。
園芸班	花苗、花壇の管理を中心に活動している。花苗を持って飛び込みで営業を行う等し、顧客の確保に取り組んだ。
手工芸班	さをり織り、刺し子等に取り組んでいる。
創作班	牛乳パックのリサイクル紙漉きを行っている。利用者作品展を見学し、版画を行っている地域の方から、「紙」作成の依頼があった。
陶芸班	小物を中心に製作している。3年目となる再生粘土の干支作りに取り組んだ。
受注作業班	おしぼり、マグネットなどの作業を行う。利用者の特性に視点をおき、自助具の作成、改良を行った。
リハビリ班	季節の行事を大切にしながら、高齢化に対処すべきことを模索している。特浴での入浴の実施、歩行訓練、生活業務等を行っている。

3 地域交流実施状況

月日	イベント名	主催	場所
4月14.15日	手をつなぐ作品展	千葉県知的障害者協会	八千代緑が丘イオン
6月2日	ユニバーサル農業・福祉さくら販売会	佐倉市	ユーカリイオンタウン
8月8日	就労部会市民講座	社会福祉協議会	
9月7日	歴史博物館	佐倉市	
9月8日	ユニバーサル農業・福祉さくら販売会	佐倉市	ユーカリイオンタウン
10月20日	オリオン祭り	社会福祉法人えのき会	オリオンハウス
10月27日	千葉盲祭	千葉県立盲学校	千葉盲学校
	ユニバーサル農業フェスタ	佐倉市	御伊勢公園

10月28日	すくすくまつり		根郷公民館
	敬愛フェスタ		敬愛短期大学
11月4日	根郷福祉まつり	根郷社協	南部福祉センター
11月25日	市民活動フェスタ		中央公民館
11月26日	時代まつり	佐倉市	佐倉市新町通り
12月8日	ユニバーサル農業・福祉さくら販売会	佐倉市	ユーカリイオンタウン
2/23.24	手をつなぐ作品展	千葉県知的障害者協会	八千代緑が丘イオン
3/28	ともいきマルシェ		南部福祉センター
毎月 第1月曜日 第4月曜日	しづの里販売会 愛光直売会		

4 運営管理

4-1 職員状況

職 名	総数	2018.4.1～2019.3.31			
		めいわ	リホープ	根郷通所	ルミエール
総 数	72 (17)	32 (5)	24 (6)	16 (6)	
事業部長	1 (兼)				
課長 (サービス管理責任者)	1			1	
農耕班	8	4	2	2	
園芸班	7 (2)	3	2 (1)	2 (1)	
手工芸班	10 (2)	5 (1)	3	2 (1)	
創作班	9 (1)	5	3	1 (1)	
陶芸班	8 (3)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	
受注班	15 (6)	7 (3)	4 (2)	4 (1)	
リハビリ班	14 (3)	5	7 (2)	2 (1)	

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

4-2 職員研修の状況

(複 数 研 修)		
研修内容	日付	参加人数
農耕班：農福連携関東ブロックセミナー	2/18.～19	1
陶芸班：講師による指導（内部研修）	6/15・9/26・1/8・2/25	延べ 19

4-3 行事实施状況

行 事 内 容							
月	班 名						
	農耕	園芸	手工芸	創作	陶芸	受注作業	リハビリ
4	お花見 筍掘り		歓迎会		お花見	7月15日 外出2回	
5		花苗農場 見学	作品展見 学		外出1回 お楽しみ 会	食事会	食事会
6	ジャガイモ掘 り	外出1回	外出1回	外出1回	外出2回	食事会 外出1回	外出1回 運動会
7	収穫祭	女子会	食事会	外出1回 お楽しみ 会	食事会 外出2回	外出1回	食事会
8		外出1回	外出1回 暑気払い	食事会	外出1回	暑気払い	縁日
9		作品展見 学	外出1回 作品展見 学	作品展見 学	外出1回 作品展見 学	外出1回	食事会
10	食事会			外出3回	外出2回		ハロウィン 外出1回
11		食事会	外出1回	外出1回	外出1回 食事会	外出1回	調理 男子会
12	女子会	外出2回 忘年会	外出1回 忘年会	外出1回 忘年会	忘年会 外出1回	食事会	忘年会
1	収穫祭 外出1回	外出2回	外出1回	新年会	外出2回	新年会	外出1回 食事会
2		食事会	外出1回 食事会	外出2回	外出1回		調理
3	食事会	女子会	外出1回 お楽しみ 会	外出1回 お楽しみ 会	外出1回 お楽しみ 会	お楽しみ 会 外出1回	
備 考	月毎；ユニバーサル農業円卓会議（第1火曜日） リーダー会議（第2火曜日）						

就労継続支援Ｂ型

佐倉市よもぎの園

概況

当年度のスローガンは「ステップアップを目指せる仕事作り」であった。一概にステップアップといえども人それぞれの形がある。意思決定支援の重要性が改めて問われるなか、我々は、このステップアップという言葉はどう捉えて就労支援に繋げていくのか。それを念頭に運営を行う一年であった。

○数値目標（稼働率／工賃） 目標：90% ⇒ 実績：81.9%

新規利用の問合せもなく目標とした稼働率の達成には至らなかった。利用者を待つ姿勢から獲得の姿勢に転じるべく“事業所のセールスポイント”を明確にするため議論を重ねてきた。また、指定管理受託 10 年の経過と共に求められるニーズは確実に変化している。それに対応すべく職員の意識改革が必要であり、稼働率の回復には暫くの時間が必要であると考えている。

工賃については、過去最高額の収益があり『平均工賃を 2 万円の大台』に乗せることができた。今後は目標稼働率を達成させつつ平均工賃 2 万円台の維持が目標となる。

○サービス目標

全体の 30%を占める大口の取引業者の撤退により大幅な収入減が予想されたが、既存業者への働きかけと新規作業を獲得したことにより、過去最高額の収益を達成することができた。下請け作業が主体であり、請負量の増減はこちらでは如何ともし難い課題である。一定の収入を確保していくためにも、現状の形で満足せず新しい開拓の目を持ち続けていく必要がある。

○地域連携目標

“地域に開かれた施設づくり”を目標に掲げ、環境整備に力を入れてきた。来訪者を意識し、観葉植物を設置するなど“施設の顔”であるエントランスの整備を中心に行ってきた。今後も心地よい空間づくりに努めていきたい。

事業所の敷地を貸し出し地域住民約 250 名が参加する“防災訓練”が行われた。また、恒例となっている“宮前ローズタウン交流会”も開催され、多くの人々が来場した。交流会では新たな試みとして“よもぎの園の店舗”を出店した。近所の子供達にポップコーンを振舞い好評であった。今後もこのような交流を通じ“地域共生”の一翼を担っていきたい。

○業務遂行目標

業務拡大に向け、ワークショップかぶらぎとの協同で始めた“営業活動”の成果も徐々に見え始めた。各事業所の強みを生かした大量受注は両事業所共に大きなメリットをもたらすものと考えている。40 名の内職従業員を抱える工場と考えればそれなりの規模である。最善の作業体制を構築し一般の内職企業と同等の立場で勝負ができるよう努めてまいりたい。第三者評価機関である VAIC コミュニティーケア研究所による評価の受審を実施。評価の高い点として、①作業環境の工夫②利用者の意向に沿った支援計画の作成③利用者の意欲向上のための工夫④地域生活を支える支援が挙げられた。改善点としては、①職員個々の育成と意欲向上の取組み②環境整備と安全確保の指摘を受けた。今後の課題としたい。

○人材育成目標

近隣にある就労Ｂ型事業所に職員 2 名を“施設一日体験実習”として派遣した。また、自閉症支援の学びの機会として某法人との情報交換を実施。多施設の情報を受け、大いに刺激を受けたようである。

○その他

家族との懇談の中で話題となった“親なき後の漠然とした不安”を整理すべく家族会と共同のもと勉強会を実施した。今後のよもぎの園の支援の在り方にも通じるところでもあると考えており、次年度も継続し議論を深めていくこととする。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

「利用登録者数／稼働率」 目標：50 人／90% ⇒ 実績：40 人／81.9%

「地域公益取組」 地域連携目標、記載の通り（所長 菊地 暁生）

1 施設利用状況

1-1 利用状況

(2018. 4. 1～2019. 3. 31)

【定員 40 名】

	延べ年間通所利用者			1 日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	10,600	10,889	8,677	32.7	81.9	1	3

1-2 入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	1	0	0	1	0	0	0	0
退所者と退所事由	3	0	0	1	1	0	1	0

1-3 出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
佐倉市	25	17	42

2 利用者の状況

2-1 年齢構成 (2018. 4. 1 現在)

	総数	19～	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	42	1	5	8	28	43.1	66	19
%	100	2.3	11.9	19.0	66.6			
男	25	1	4	6	14	41.0	65	19
女	17	0	1	2	14	46.1	66	27

2-2 療育手帳による障害程度

(2018. 4. 1 現在)

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	42	9	3	21	7	3
%	100	21.4	7.1	47.6	16.6	7.1
男	25	8	2	10	5	1
女	17	1	1	11	2	2

2-3 身体障害者手帳による障害程度

(2018. 4. 1 現在)

	総数	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	不所持
総数	42	3	1	0	0	0	0	38
%	100	7.1	2.3	0	0	0	0	90.4
男	25	1	0	0	0	0	0	24
女	17	2	1	0	0	0	0	14

2-4 精神障害者保健福祉手帳による障害程度

(2018. 4. 1 現在)

	総数	1 級	2 級	3 級	不所持
総数	42	3	1	0	38
%	100	7.1	2.3	0	90.4
男	25	1	1	0	23
女	17	2	0	0	15

2-5 就学状況（最終学歴）

(2018. 4. 1 現在)

	総数	普通学 校義務	特別支 援義務	普通高 等学校	特別支援 高等部	千葉盲 (再掲)	その他	不就学
総数	42	9	1	5	25	0	2	0
%	100	21.4	2.3	11.9	59.5	0	4.7	0
男	25	3	1	3	18	0	0	0
女	17	6	0	2	7	0	2	0

2-6 就労経験

(2018. 4. 1 現在)

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	42	17	25
%	100	40.4	59.5
男	25	10	15
女	17	7	10

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

(2018. 4. 1 現在)

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	42	0	0	0	42
%	100	0	0	0	100
男	25	0	0	0	25
女	17	0	0	0	17

3-2 障害の状況（総括）

(2018. 4. 1 現在)

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複
総数	42	0	4	1	1	0	40	5	1
%	100	0	9.5	2.3	2.3	0	95.2	11.9	2.3
男	25	0	1	0	0	0	26	2	0
女	17	0	3	1	1	0	16	3	1

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの

4 援助サービスの実施状況

作 業	○ヘッドホン結束 （ヘッドホンリサイクル） ・ 国際線航空機のヘッドホン清掃、結束する作業 ○ウェス縫製 （汚れ拭き上げ用品） ・ 使用済みのバスタオルを二枚のウェスに作り替える作業 ○腰壁材梱包 （家の壁紙の分かれ目を隠すもの） ・ 木目調の部材を短冊段ボールで梱包し型番のシールを貼る作業 ○ゴムパッキン詰め （試験管のキャップ作り） ・ キャップにゴムパッキンを入れる作業 ○枠のフィルム剥がし （CD、DVDラベルを印刷した原版） ・ シルク印刷の原版清掃する作業 ○足場インサート （建築物の基礎に埋め込む資材） ・ 金属ネジにプラスチックの素材を入れ込みナットを機械で締めこむ作業 ○検査キット封入 （健康診断で使用する検尿容器） ・ 健康診断で使用する尿器のシール貼り及び封入する作業 ○電子端子のはめ込み作業 ・ 石油ファンフィターの電子端子を5本入れる作業 ○封入作業 ・ 大小さまざまな袋に2、3種類の用紙を入れる作業
-----	--

自治会活動	「利用者による利用者のための自治会」をキャッチフレーズに発足 会長…1名 副会長…1名 書記…1名 ○個別外出について ・外出先などの話し合い ○給与規定について ・給与規定の内容確認および承認 ○期末ボーナスについて ・ボーナスの支給方法および承認 ○環境整備について ・掃除分担の作成 ○行事計画について ・行事計画の内容確認および承認 ○その他 ・利用者間の決まり事の確認および周知の場
-------	---

送迎	○4 経路運行 ①よもぎの園～ユーカリヶ丘～染井野方面～よもぎの園 ②よもぎの園～王子台～ＪＲ佐倉方面～よもぎの園 ③よもぎの園～江原台～大蛇方面～よもぎの園 ④よもぎの園～京成佐倉～よもぎの園 ○利用者からの直接利用料の徴収はなし
宅配弁当の仲介	○昼食サービスの要望を受け、宅配弁当の仲介を実施（希望者のみ） ・出勤時に現金を徴収して、職員が宅配弁当業者に注文

5 運営管理

5-1 職員状況

職 名	2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 31				2019. 3. 31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総 数	11 (4)	4 (3)		1 (1)	2 (1)	11 (5)
管理者(兼務)	1					1
主任 (サービス管理責任者)	1					1
生活支援員	4 (4)	3 (3)		1 (1)	2 (1)	5 (5)
職業指導員	4	1			1	3
目標達成指導員	1					1

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

5-2 職員研修の状況

施設内					
月 日	研修名	人数	月 日	研修名	人数
4/2～4	新任研修	1	6/21	権利擁護・虐待防止研修	1
9/27	安全運転セミナー	1	11/2	感染症対策研修	2
2/15	労務管理研修	2			
施設外					
5/19	THACCH 第 1 回連続セミナー	1	5/31	安全運転管理者講習	1
7/25	第 1 回精神障害者 地域生活支援事業所研修会	1	7/27	障がい者の働く場 パワーアップフォーラム	1
8/29～30	平成 30 年度千葉県 相談支援従事者初任者研修	1	9/29	THACCH 第 3 回連続セミナ ー	1
11/7	第 2 回精神障害者 地域生活支援事業所研修会	1	12/10～11	サービス管理責任者研修	1
1/18	障害者の福祉的就労と 日中活動サービス	2	3/15	障害者就労支援セミナー	1

5-3 行事实施状況

月 日	行 事 内 容
4. 19	歓迎会
5. 25	日帰り旅行
6. 6	ボーリング大会
11. 16	秋楽会
12. 28	忘年会
1. 25	新年会
2. 19	ボーリング大会
3. 26	会食会
備 考	

ワークショップかぶらぎ

フレックスワークコース／ライフステップコース

（就労継続支援B型）

（自立訓練（生活訓練））

概況

当年度のスローガンは「地域生活を支える礎になろう」であった。佐倉市総合支援部会への参加を軸に市民講座（啓発活動）への講師派遣を行い好評の声を頂いている。また、入退院を繰り返す方への支援として直接病院へ出向き、医療から地域生活への橋渡しをするなど、地道な活動を行ってきた。また、適正な定員数への見直しと経営安定を図るべく定員を 30 名から 20 名への変更を行った。各事業を合算した平均稼働率が 98.4%であったという結果からみれば、現時点における地域のニーズと事業規模は適正としても良いだろう。今後も引き続き、精神障害者が安心して地域生活を送るための礎になるべく、新たなニーズの発掘と柔軟な対応に努めていくこととする。

○数値目標

【稼働率】フレックスワークコース（就労継続支援B型）：目標 112% ⇒ 実績 107%

ライフステップコース（自立訓練〈生活訓練〉）：目標 50% ⇒ 実績 79.3%

* 定員変更に伴い数値上の稼働率は大幅に上がっているが、実際の稼働率の伸びは事業開始当初から変化はなく年間 2～3%の微増が続いている。

【工 賃】時給額：272 円（前年度比 7 円マイナス）月額：9,370 円（前年度比 495 円プラス）

* 作業収益が前年度比 15%プラスに対し就労時間数が 25%プラスとそれを上回ったため、上記の結果となった。“仕事に意味を見出したときに人は存在感を発揮し輝き始める”就労時間数の増減はそれを示す尺度のひとつとなる。仕事とリカバリーの親和性を改めて実感した年であった。

○サービス目標

フレックスワークコースでは、新規取引先開拓のため営業担当者を設けた。県の受注を始め、いくつかの新規案件では、既にある取引先からの伝手で連絡をいただくケースもあり、地域や行政に対し仕事が広がる感覚を得た。また、「千葉県電子入札システム」に登録し、行政の仕事の獲得に動いた。物量が多く一筋縄ではいかなかったが、年度末に一件ではあるが獲得することができた。

ライフステップコースでは、前年度と同じ支援メニューで充実に努めた。通常、個別支援計画のモニタリングは 3 か月に 1 度の実施で良いことになっているが、毎月行うこととし、細やかな支援に努めた。その結果、就労 1 名・かぶらぎ就労（B）5 名・その他 2 名の方が利用終了となり、年間利用者数の約半数の方が次のステップを踏み出したことになる。

○地域連携目標

地域の業者との信頼関係構築を目標として掲げたが、納期ギリギリの対応や作業不備による返品という事態を発生させてしまった。“一般の仕事と同等のクオリティーを目指すことは当然のことであり、その意識を通して仕事の機微が生まれる”今後も納期厳守・不良ゼロに努め、地域の業者からの信頼獲得と連携に努めていくこととする。

○業務遂行目標

送迎時間を相手の要望に合わせる『デマンド便』の運行を前年度に引き続き実施した。他に例をみない送迎サービスであり「半日でもいいからかぶらぎに行きたい」という方や利用し始めたばかりの人に対して有効であった。

○人材育成目標

営業担当スタッフには、就労系事業における営業活動とは何かといった方向での研修へ参加してもらいノウハウを得た。その他すべてのスタッフが 2 回以上研修に参加し、それぞれが受け持つ業務に対し学びを深めた。

○第Ⅲ期中期経営計画進捗状況（2017～2019 年度）

「利用登録者数／稼働率」 目標：70 人／75% ⇒ 実績：46 人／98.4%

「地 域 公 益 取 組」 目標：在宅精障害者緊急受入 ⇒ 実績：該当者なし

（所長 菊地暁生）

1 施設利用状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

1－1 利用状況

①就労継続支援B型

【定員 14名】

	延べ年間通所（訪問）利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	3,710	14,310	3,962	14.9	106.8%	5	13

②自立訓練（生活訓練）

【定員 6名】

	延べ年間通所（訪問）利用者			1日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	1,614	4,770	1,264	4.8	79.5%	7	8

1－2 入・退所状況

①就労継続支援B型

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	5	0	0	2	3	0	0	0
退所者と退所事由	13	3	0	7	3	0	0	0

②自立訓練（生活訓練）

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	7	0	1	4	2	0	0	0
退所者と退所事由	8	1	0	2	5	0	0	0

1－3 出身地別利用状況

①就労継続支援B型

出身地	男	女	計			
佐倉市	23	27	50			
四街道市	0	1	1			
富里市	0	1	1			
酒々井町	0	1	1			
成田市	0	3	3	男	女	合計
八街市	0	0	0	23	33	56

②自立訓練（生活訓練）

出身地	男	女	合計
佐倉市	2	7	9
四街道市	1	1	2
成田市	0	1	1
八街市	1	0	1
酒々井市	5	1	6

2 利用者の状況

2-1 年齢構成（2018. 4. 1 現在）

①就労継続支援B型

	総数	～19	20～	30～	40～	50～	60～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	51	0	4	13	24	8	2	45.2	74	26
%	100	0	7.8	25.4	47.0	15.6	3.9			
男	21	0	1	3	11	4	2	46.0	74	27
女	30	0	3	10	13	4	0	44.8	54	26

②自立訓練(生活訓練)

	総数	19～	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	12	0	3	6	3	36.5	61	20
%	100	0	25	50	25			
男	5	0	1	2	2	40.6	61	23
女	7	0	2	4	1	33.5	54	26

2-2 精神障害者保健福祉手帳による障害程度

①就労継続支援B型

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	51	5	20	2	24
%	100	9.8	39.2	3.9	47.0
男	21	2	9	2	8
女	30	3	11	0	16

②自立訓練(生活訓練)

	総数	1級	2級	3級	不所持
総数	12	0	6	0	6
%	100	0	50.0	0	50.0
男	5	0	4	0	1
女	7	0	2	0	5

2-3 就労経験

①就労継続支援B型

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	51	46	5
%	100	90.0	9.8
男	21	18	3
女	30	28	2

②自立訓練(生活訓練)

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	12	10	2
%	100	83.3	16.6
男	5	5	0
女	7	5	2

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

①就労継続支援B型

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	51	0	0	1	50
%	100	0	0	1.9	98.1
男	21	0	0	0	21
女	30	0	1	1	29

②自立訓練(生活訓練)

	総数	盲	弱視	小計	晴眼
総数	12	0	0	0	12
%	100	0	0	0	100
男	5	0	0	0	5
女	7	0	0	0	7

3-2 知的障害

①就労継続支援B型

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	51	0	0	0	3	3	48
%	100	0	0	0	6	6	94
男	21	0	0	0	2	2	19
女	30	0	0	0	1	1	29

②自立訓練(生活訓練)

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	12	0	0	0	1	1	11
%	100	0	0	0	8.3	8.3	91.7
男	5	0	0	0	1	1	4
女	7	0	0	0	0	0	7

4 援助サービスの実施状況

作業	○ミーティング（全体ミーティング月2回、部門ミーティング月1回） ・業務内容の検討および課題の抽出改善 ・業務時間数および売上の確認 ・職場のルールやマナーについての検討 ○セットアップ部 ・ビニールシート折り ・ネジボルトの組み立て、計数 ・工具検品 ・印刷物の丁合、封入 ・ナプキン折り ・紙製箱の組み立て ○クリーン&メンテナンス部 ・館内清掃 ・館内環境の美化、整備 ○総務部 ・納品請求書の発行 ・時給換算表の入力 ・フェイスブック管理 ・共同受注サイトチェック ○プリント部 ・名刺作成 ・ポスターチラシ作成 ・封筒作成 ・イベントプログラム作成 ・各種シール作成 ・冊子、報告書、議案書の作成 ・各種チケット作成 ・イベント横断幕作成 ・イベントのぼり作成
プログラム	○疾病管理とリカバリー【IMR】（月2回） ・テキストを使用し、リカバリーに関するテーマに基づき意見交換 ・自分の人生での課題や大切にしたいことについての向き合い方を話し合う ○ライフステップミーティング（月1回） ・ライフステップコース（自立訓練）登録の利用者と共に、個別支援計画の進捗状況の確認（モニタリング） ・同じ経験（病気・障害）をした者同士の語りの場 ○茶話会（月2回） ・気構えの不要な“フリートーク”の場として開催 ○ピアネットワークプログラム【PNP】（土曜に随時開催） ・利用者自主運営によるサークル活動 ・年間1人あたり3,000円を活動資金として助成 ・「旅行クラブ」「カラオケクラブ」「手芸クラブ」「創作アートクラブ」等
カフェ活動 当事者主体 による運営	○ミーティング（月2～3回） ・カフェ運営を通じて、やってみたいことや得意なことを持ちより、自己肯定感や他者貢献感が実感できる場 ○飲食メニューの提供、考案 ・クックフリーズ方式のランチ提供のほか、飲食卸業者から数種のスイーツを季節に合わせて用意しカフェの利用者をもてなす。 ○カフェ環境整備、月末事務 ・いつも居心地良く居られる巷のカフェのようなイメージしインテリアを選定 ・一輪挿しや観葉植物など、年間を通じて緑豊かなスペースを心掛けている ・月末には、カフェスタッフ（当事者）が主体となり注文票と在庫チェックを実施

送迎	○通常便 ・「ＪＲ佐倉駅～和田方面」と「京成佐倉駅」の２路線を運航
	○デマンド便 ・時間帯は朝と夕方のほか昼の時間帯に要望があった時に運航

5 運営管理

5-1 職員状況

職 名	2018. 4. 1	2018. 4. 2～2019. 3. 30				2019. 3. 31
	現員数	採用	異動 入	異動 出	退職	現員数
総 数	6		2	1		6
管理者	1 兼					1 兼
主任	1 兼					1 兼
生活支援員	3		2	1		3
職業指導員	1					1

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

5-2 職員研修の状況

施設内					
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
6/21	コンプライアンス研修	1	9/27	車両運転研修	2
11/2	感染症対策研修	1	2/15	労務管理研修	1
施設外					
7/25	千葉県精神保健福祉 センター研修会	1	7/26	再犯防止シンポジウム	2
7/27	ヤマト福祉財団研修	1	7/30	全国精神障害者地域 生活支援協議会大会	2
9/25	リカバリー全国フォーラム	2	10/10	福祉新聞フォーラム	1
10/23	清掃作業従事者研修	1	12/8～9	就労支援フォーラム	2
2/2	千葉県摂食障害治療 センター県民講座	3	2/4	富里市「ひきこもり講座」	2
3/16	地域精神保健福祉機構 メンタルヘルス講座	2			
(複 数 研 修)					
研修内容		日付			参加人数
相談支援従事者現任研修		10/5・10/18・10/19			1
サービス管理責任者研修		11/26・11/27・12/10・12/11			1

5－3 実習受け入れ状況

期 間	養成機関名	実習対象資格等	人数
6月18日～7月11日	城西国際大学	精神保健福祉士	1

5－4 行事实施状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

月 日	行 事 内 容
7月28日	家族会との懇談会
10月23日	防災避難訓練
11月17日	家族会の法人事業所見学会
12月22日	第三者委員相談会
3月15日	防災避難訓練

2018（平成 30）年度 事業報告書
共同生活援助（障害者グループホーム）
ジョーの家

概況

当年度のスローガンは「地域に溶け込んだアパートであることを大切にしよう」であった。開設当初は、周囲を見渡してもアパート形式のグループホームはなく支援のイメージを膨らませ胸を躍らせた記憶がある。当時から“個別性を追求し地域にある単なるアパートのひとつ”であることは、現場のコンセプトだったように思う。時代も流れ、利用者の高齢化も否めない。グループホームという社会資源がどういう位置づけで地域にあるのか。また、グループホームの在り方や地域で暮らすことの支援とはどうあるべきか改めて考え直す時期にきていると感じる。

○数値目標 稼働率：目標 95% ⇒ 実績 100%

病気や怪我による入院、外泊等もなく“それぞれが安定した生活”を送ることができた。

○サービス目標

救急対応が一件あった。自室で酒に酔い頭をぶつけて裂傷したという事例である。幸い、即日退院することができ大事には至らなかった。周囲に迷惑を掛けずマナーを守って飲酒をするよう声を掛けている。

年度途中に世話人 1 名の入れ替わりがあった。これまで培ってきたジョーの家が大切にしている“個別性を担保し地域の生活に近い雰囲気 で日常をさりげなく支える”という視点は脈々と受け継がれ安定した支援を提供することができた。

○地域連携目標

雇止めになった利用者について関係機関と連携を図り“本人が望む暮らし”に向け調整を行った。新たな就職先も決まり、本人の希望の通りジョーの家からの通勤が継続となった。どこで誰と住み、どこで働くのか、その権利をさりげなく支えるだけで、本人の姿は実に生き活きとしてくる。この基本的な視点が如何に重要であるかということを我々は忘れてはならないだろう。

“一人暮らし体験ルーム”として整備した 202 号室に、某事業所に通う女性 1 名が 1 か月間利用した。家庭の事情により同居している親が佐倉を離れることになり、自分はどうすればよいかと泣きながらの訴えがあった。『ひとり暮らしは実際に体験してみないと分からない』との思いから 202 号室の利用を開始。結果的に、その方は、この経験を経て『ひとり暮らしをして佐倉に残る』という決断をした。この機会がなければ、住みたい佐倉を離れ親についていくしかなかったであろう。この 202 号室は、当事者の可能性と選択肢を広げる体験になることを想定して開始した取り組みである。“漠然とできないであろうではなく、実際に体験し何ができて何ができないのか？それを見える化することが重要”である。

○業務遂行目標

月一回の世話人会議において利用者の生活の様子や支援方法の共有化を図った。また法人の事業展開の様子などについて事業短信を活用して発信した。

○人材育成目標

印旛圏域障害者グループホームの研修会「世話人の集い」に参加。また、グループホームの全国研修会にサービス管理責任者が参加した。ホームの運営のみならず、広く地域生活支援の視点や先駆者の実践を聞くことができた。

流山・柏圏域で精神障害を対象とした事業展開する法人の視察を行った。外部サービス委託型ホームを展開していたが、年々縮小傾向にあるとのこと。グループホームよりアパート単身生活への支援ニーズが大きいと判断し、障害福祉サービスとして新設された「自立生活援助事業」の展開を検討しているとのことである。

○第Ⅲ期中期経営計画進捗状況（2017～2019 年度）

「稼働率」目標：95% ⇒ 実績：100%

（所長 菊地 暁生）

1 利用状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

1－1 利用状況

【定員 4 名】

	延べ年間利用者			1 日 平 均		異 動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	1,460	1,460	1,460	4	100	0	0

1－2 入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者と退所事由	0	0	0	0	0	0	0	0

1－3 出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
佐倉市	2	1	3
四街道市	1	0	1

2 利用者の状況

2－1 年齢構成（2017. 4. 1 現在）

	総数	30～	40～	50～	60～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	4	0	1	0	3	59	67	48
%	100	0	25	0	75			
男	3	0	0	1	3	62.3	67	60
女	1	0	1	0	0	48	48	48

2－2 精神障害者保健福祉手帳による障害程度

	総数	1 級	2 級	3 級	不所持
総数	4	0	1	2	1
%	100	0	25	50	25
男	3	0	1	1	1
女	1	0	0	1	0

2－3 療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	4	0	0	0	0	4
%	100	0	0	0	0	100
男	3	0	0	0	0	3
女	1	0	0	0	0	1

2－4 身体障害者手帳による障害程度

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	4	0	0	0	0	0	0	4
%	100	0	0	0	0	0	0	100
男	3	0	0	0	0	0	0	3
女	1	0	0	0	0	0	0	1

2－5 就学状況（最終学歴）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	その他	不就学
総数	4	2	0	2	0	0	0	0
%	100	50	0	50	0	0	0	0
男	3	2	0	1	0	0	0	0
女	1	0	0	1	0	0	0	0

2－6 就労経験

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	4	4	0
%	100	100	0
男	3	3	0
女	1	1	0

3 利用者の障害の状況

3－1 視覚障害

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	4	0	0	0	4
%	100	0	0	0	100
男	3	0	0	0	3
女	1	0	0	0	1

3-2 知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	小計	非該当
総数	4	0	0	0	1	1	3
%	100	0	0	0	25	25	75
男	3	0	0	0	1	1	2
女	1	0	0	0	0	0	1

3-3 障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複	その他
総数	4	0	0	0	0	0	1	3	0	0
%	100	0	0	0	0	0	25	75	0	0
男	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0
女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

4 援助サービスの実施状況

食事提供	・ 朝・夕の食事を提供 業務用献立配達システムにより、栄養管理された献立に基づいて世話人が調理し提供（誕生日などの日にはその利用者の希望するメニューに変更）
体調管理	・ 健康状態の把握、緊急時の通院、不調時の静養や通院の促しの実施

5 運営管理

5-1 職員状況

職 名	2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 30				2019. 3. 31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総 数	5(3)					6(4)
管理者	1 兼					1 兼
サービス管理責任者	1 兼					1 兼
世話人	3(3)	1(1)			1(1)	4(4)

★数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

５－２ 職員研修の状況

施設内					
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
施設外					
10/17	印旛圏域グループホーム等 連絡協議会 「世話人の集い」	3	9/3～4	全国グループホーム等研修会	1
12/1	千葉県グループホーム大会	1			2
(複 数 研 修)					
研修内容		日付			参加人数

５－３ 行事实施状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

月	行 事 内 容
11/21	避難訓練
12/22	第三者委員相談会
12/24	クリスマス会（食事会）
3/16	避難訓練
誕生祝	入居者誕生月毎に実施（食事会）

概況

スローガンに『育もう、生きる力』を掲げ、開所から１年半が経過した。親元を離れ、不安を抱いてスタートした新生活も、今では自分の好きな過ごし方ができるプライバシー空間が確保され、個々の利用者なりに工夫を凝らした日常生活を過ごしている。今後は生活の主体者、人としての豊かさをめざして、更なる自主性の尊重・意思決定の支援を行っていききたい。

○数値目標（稼働率）

目標 85%→実績 82.2%

現在利用中の 9 名の内、7 名の方は週末帰省を行っている。加えて日中の通所事業所等が年末年始等の長期休暇になると帰省になるため、稼働率の低下となった。なお空床となっている 1 部屋については、現在体験入居の応募があり調整中である。

○サービス目標

安心して生活できる住まいの提供については開所後、幸い大きな事故やトラブルもなく 9 名の利用者が日々生活された。相談しやすい対応に心掛け、食卓を一緒に囲み家庭的な雰囲気づくりに配慮してきた。利用者は、日々の生活で感じ取っている様子を堅苦しくなく話す様子が見られている。

個別支援計画に基づいた支援については、12 月より職員会議の定例開催を実施し、障害状況や支援方法などの共通理解を図った。日中活動に向けた支援についても、他法人通所施設やよもぎの園、根郷通所センターと緊密な連携を取り感染症や気象変化等の突発的な事案が発生した際、迅速な対応に努めた。

○地域連携目標

地域住民との良好な関係を築き理解を得るために、挨拶の励行を徹底した。夜勤明け職員が施設周辺の掃除を行なう際など、自然に挨拶を交わす関係となってきた。

また、サービス管理責任者が会議等を通じて定期的に圏域内のグループホーム等支援ワーカーと連携している。

○業務遂行目標

1 月に開所後初の家族懇談会を開催した。親亡きあとを心配する声が多く、後見制度についての話を聞きたいとの声があった。今後研修会等のご案内をすることとした。

世話人会議については招集が難しく実施できなかったが、報・連・相を通じて世話人が一人ひとりの利用者を知り、障害者理解を深めた。

監事監査の指摘事項として、未作成だった消防計画を作成し避難訓練を実施（年 2 回）した。3 月については、消防署立会いの下で実施した。

○人材育成目標

印旛圏域障害者グループホーム等連絡協議会のほか、印旛圏域「世話人の集い」に参加した。

また、サービス管理責任者が佐倉市総合支援協議会の中の生活支援部会住まい（グループホーム）部会に参加し、市内のグループホームの現状を確認している。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況(2017～2019 年度)

3 年平均の目標稼働率 95%⇒当年度稼働率 82.2%のため未達成
状況については、数値目標において記載の通り

（管理者 安部 一義）

1 利用状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

1－1 利用状況

【定員 10 名】

	延べ年間利用者			1 日平均		異動	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	入所	退所
年間	3,650	3,155	3,001	8.2	82.2	1	0

1－2 入・退所状況

	総数	就労	学校	在宅	施設等	入院	死去	その他
入所者と入所前状況	1	1	0	0	0	0	0	0
退所者と退所事由	0	0	0	0	0	0	0	0

1－3 出身地別利用状況

出身地	男	女	合計
佐倉市	5	1	6
四街道市	1	1	2
船橋市		1	1

2 利用者の状況

2－1 年齢構成（2018. 4. 1 現在）

	総数	18～	20～	30～	40～	平均年齢	最高齢	最年少
総数	8	1	1	5	1	34.38	52	19
%	100	12.5	12.5	62.5	12.5			
男	5	0	0	4	1	38.8	52	30
女	3	1	1	1	0	27	34	19

2－2 精神障害者保健福祉手帳による障害程度

	総数	1 級	2 級	3 級	不所持
総数	9	0	0	0	9
%	100	0	0	0	100
男	6	0	0	0	6
女	3	0	0	0	3

2-3 療育手帳による障害程度

	総数	最重度	重度	中度	軽度	不所持
総数	8	4	3	1	0	0
%	100	50	37.5	12.5	0	0
男	5	4	0	1	0	0
女	3	0	3	0	0	0

2-4 身体障害者手帳による障害程度

	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不所持
総数	8	0	0	0	0	0	0	8
%	100	0	0	0	0	0	0	100
男	5	0	0	0	0	0	0	5
女	3	0	0	0	0	0	0	3

2-5 就学状況（最終学歴）

	総数	普通学校義務	特別支援義務	普通高等学校	特別支援高等部	千葉盲（再掲）	その他	不就学
総数	8	0	0	2	6	0	0	0
%	100	0	0	25	75	0	0	0
男	5	0	0	2	3	0	0	0
女	3	0	0	0	3	0	0	0

2-6 就労経験

	総数	就労経験あり	就労経験なし
総数	8	1	7
%	100	12.5	87.5
男	5	1	4
女	3	0	3

3 利用者の障害の状況

3-1 視覚障害

	総数	全盲	弱視	小計	晴眼
総数	8	0	0	0	8
%	100	0	0	0	100
男	5	0	0	0	5
女	3	0	0	0	3

3-2 知的障害

	総数	最重度	重度	中度	軽度	非該当
総数	8	4	3	1	0	0
%	100	50	37.5	12.5	0	0
男	5	4	0	1	0	0
女	3	0	3	0	0	0

3-3 障害の状況（総括）

	総数	視覚	肢体	聴覚	音声言語	内部	知的	精神	重複	その他
総数	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0
%	100	0	0	0	0	0	100	0	0	0
男	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0
女	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0

★重複障害は視覚・聴覚・音声言語・精神・知的の5障害のうち3以上に該当するもの。

4 援助サービスの実施状況

食事提供	朝はチルトの食事を提供し、本人達に和食、洋食を選んでもらい提供している。 また、夕食は業務用献立配達システムを利用し利用者と一緒に調理を行っている。
体調管理	健康状態の把握。薬の管理。突発の際の通院付き添い。

5 運営管理

5-1 職員状況

職 名	2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 31				2019. 3. 31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総 数	4 (4)	1 (1)	1	1	2 (2)	4 (3)
管理者	1 兼		1 兼			1 兼
サービス管理責任者	1 兼		1 専	1 兼		1 専
生活支援員	13 (1) 兼				1 兼	12 (1) 兼
世話人	4 (4)	1 (1)			2 (2)	3 (3)

☆数字は総数で表示し、うちパート職員の数（ ）内に表示。

☆網掛けは、職員数にカウントしない。

☆生活支援員(宿直等)については、バックアップ施設(めいわ入所部・通所部、よもぎの園)兼務

5-2 職員研修の状況

施設内					
月 日	研修名	人数	月 日	研修名	人数
施設外					
5/29	人材育成と人材定着について	2	2/27	印旛特別支援学校の見学	1
複数研修					
研修内容		月 日		参加人数	

5-3 行事実施状況 (2018. 4. 1～2019. 3. 31)

月	行 事 内 容
8/27	避難訓練
12/24	クリスマス会(食事会)
1/28	家族懇談会
3/28	避難訓練
誕生会	入居者誕生日毎に実施

Ⅱ－９ 障害者支援事業部統合運営部門

１ 健康管理（健康管理センター）

１－１ 概況（2018 年度）

当年度は、法人健診の業者変更に伴い完全委託の形式で職員については行った。初年度であり調整が困難で初日午前中に集中したため、待機時間により業務に影響が見られた。また、利用者に於いては食前から食後採血となり前年度とのデータ比較が困難な面があった。感染症対策については基本的な知識として医療機関からの認定看護師を迎え、最新の情報提供に加え、施設に沿った研修となった。更に、ここ数年問題となっている異常気象からの体調不良や症状へ注意喚起、環境整備や調整への連携体制をとることで、重症化や感染症罹患の予防となった。また、皮膚科往診診療の終了を機に、医療機関受診についてのあり方を再検討する機会を得たが、年度後期に発生した利用者の突発行動による骨折事例においては、利用者自身による治療方針決定が難しく他者判断による行為であり、治療に係る目標設定の困難さを痛感した１年であった。問題点となった事項については次年度の課題と見込まれ、各施設との協議、検討が必要。

１－２ 保健関係行事の実施状況

月	保健関係行事
４月	衛生・感染症対策委員会、法人健康診断（職員）、ルミエール血圧・体重測定、法人研修、あいとひかりのコンサート
５月	衛生・感染症対策委員会、法人健康診断（利用者）、ルミエール血圧・体重測定、肺炎球菌ワクチン接種、ルミエールグループ別旅行付き添い
６月	衛生・感染症対策委員会、ルミエール血圧・体重測定、感染症対策研修
７月	衛生・感染症対策委員会、法人健康診断（利用者：内科健診）、ルミエール血圧・体重測定
８月	衛生・感染症対策委員会、ルミエール血圧・体重測定
９月	衛生・感染症対策委員会、総合防災訓練（救護所設置）、ルミエール血圧・体重測定
１０月	衛生・感染症対策委員会、Ｂ型肝炎ワクチン接種、夜勤従事者健診（職員）、秋祭り（車いす体験コーナー・救護班）、ルミエール血圧・体重測定
１１月	衛生・感染症対策委員会、インフルエンザワクチン接種、ルミエール血圧・体重測定、後期法人健康診断（利用者）
１２月	衛生・感染症対策委員会、インフルエンザワクチン接種、Ｂ型肝炎ワクチン接種、ルミエール血圧・体重測定
１月	衛生・感染症対策委員会、ルミエール血圧・体重測定
２月	衛生・感染症対策委員会、Ｂ型肝炎ワクチン接種、ルミエール血圧・体重測定
３月	衛生・感染症対策委員会、防災訓練（救護所設置）、ルミエール血圧・体重測定

1-3 施設内診療

診療科		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
【内科】 診察日数 99	延人数	1,260	432	423	405
【歯科】 診察日数 70	延人数	523	191	193	139
【皮膚科】 診察日数 10	延人数	263	124	58	81
【医務室】 診察日数 365	延人数	9,372	3,683	760	4,929
【精神科】 診察日数 24	延人数	696	382	210	104
【泌尿器科】 診察日数 13	延人数	384	85	210	89
【他科】 診察日数 0	延人数	0	0	0	0

1-4 施設外医療機関での受診状況

診療科		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
【内科】	延人数	101	18	17	66
【歯科】	延人数	15	7	7	1
【眼科】	延人数	45	11	25	9
【外科】	延人数	10	3	1	6
【精神科】	延人数	182	106	35	41
【その他】	延人数	266	123	80	63

1-5 入院の状況

入院		総数	ルミエール	めいわ	リホープ
件数		26	2	4	20
総日数		276	21	98	157
実人数		11	1	3	7
内訳	男	8	1	2	5
	女	3	0	1	2
(延人数) 医療機関別人数	佐倉中央病院	3			3
	聖隷佐倉市民病院	2			2
	東邦大学医療c 佐倉病院	18	2	2	14
	浅井病院	1			1
	みなとリハビリセンター	1		1	
	小林循環器クリニック	1		1	

(延人数…重複発症含む) 疾患別入院理由	肺炎	1	食道裂孔ヘルニア	1
	ステント交換	13	両膝蓋骨脱臼	1
	蜂窩織炎	1	〃 手術後の リハビリ	1
	貧血	1	胃潰瘍	1
	ヘルペス	1	硬膜下血腫	3
	低栄養	1	不穏による医療保護入院	1
	出血性食道潰瘍	2	ペースメーカー植え込み	1
	逆流性食道炎	1		

1-6 救急搬送の状況

搬送件数	総数	ルミエール	めいわ	リホープ
	3	1	0	2
(内訳)	男2:女:1	男:1 女:0	男:0 女:0	男:1女:1

2 食事サービス（栄養管理室）

2-1 概況

○栄養ケアマネジメント会議を施設毎に年2回実施した。健康状態に課題がみられる利用者を対象とし、日頃の食事量、間食の摂り方、服薬している薬の内容、生活スタイル、精神状態など食事内容のみならず、利用者の全体像から課題解決の糸口を見つけられるよう施設職員と話し合いを行った。

○満足度の高い食事提供を行うため、栄養改善委員会や嗜好調査などから出た課題に対し検討を進め、給食委託業者と協力しながら改善を図った。

○献立内容は、旬の野菜を豊富に取り入れつつ、新しい食材を使用したメニュー作りを積極的に行った。

○大地震等大規模災害を想定した非常食の確保や備蓄等の食事提供について職員へ周知した。今後も引き続き災害時における食事提供体制に危機意識を持ちながら取り組むたい。

○利用者の高齢化が進むにつれ嚥下の低下などの問題も生じている。状態把握をきめ細かく行い個別に配慮した。今後も給食委託業者、各施設の栄養改善委員と緊密に連携を取りながら、質の高い食事提供を行っていきたい。

2-2 通常献立

	朝食 8:00～	昼食 12:00～	夕食 18:00～
献立名	ご飯 納豆 いかと里芋の煮物 あみ佃煮 みそ汁（じゃが芋、わかめ）	グリンピースご飯 焼き魚（ほっけ） ごまどうふ ひじきの煮物 のっぺい汁	ご飯 松風焼き 刻み昆布の煮物 菜の花和え 若竹汁

2-3 食種構成表

	常 食	特 別 食		
		刻み	粥	ミキサー・ペースト食
総 数	1 4 5	3 4	1	3
ルミエール	3 6	1 6		1
めいわ	3 3	1 2		2
通所	4 2	3		
リホープ	3 4	3	1	

	療 養 食			
	減塩食	脂質コントロール食	糖尿病食	貧血食
総 数		8	16	
ルミエール		4	2	
めいわ		2	6	
通所				
リホープ		2	8	

2-4 基準摂取栄養量

エネルギー	1900kcal	たんぱく質	75g	脂質	50g
糖質	300g	カルシウム	450mg	鉄分	10.0mg
ビタミンA	750 μ g	ビタミンB1	1.15mg	ビタミンB2	1.27mg
ビタミンC	100mg	食塩相当量	9.0g		

2-5 栄養改善委員会開催状況（隔月開催）

委員の構成・・・施設職員 3名、利用者代表 1名、施設栄養士 3名、
委託業者社員 1名、委託業者（責任者）1名

月 日	内 容（例）
2月20日	* 栄養士から連絡（グループ外出をキャンセルした場合の食事提供について、行事食の菓子の形態の見直しについて、嗜好調査について、ゼロカロリーの商品について）、 * 給食委託業者より * 検食簿からの意見 * 施設からの意見

2-6 行事食献立

月・日	区分	行 事 名	献 立
4月 5日	昼	春の献立	たけのこご飯、さわらの香味焼き、刻み昆布の煮物、春雨サラダ、すまし汁（かぶ）
5月 5日	昼	端午の節句	香りめし、高野豆腐の煮物、沢煮椀、柏餅
7月 7日	昼	七夕	五目七夕そうめん、南瓜のそぼろあんかけ、梅ゼリー、いなり寿司
7月25日	昼	土用の丑の日	ちらし寿司、切り干し大根のオイスターソース炒め、青梗菜とかにのおひたし、オクラのすまし汁

8月11日	昼	山の日行事食	ご飯、鶏肉の山賊揚げ、辛子和え、みそ汁、フルーツ（キウイ）
9月18日	昼	敬老の日	赤飯、ぶりの塩焼き、炊き合わせ、すまし汁（大根、小松菜）、梅ゼリー
9月23日	昼	秋分の日	ご飯、かき揚げ、高野豆腐の煮物、みぞれ汁、おはぎ
10月17日	昼	秋の献立	きのこご飯、鯖の磯部焼き、塩もみ野菜、金平ごぼう、のっぺい汁
11月8日	昼	秋の献立	栗ごはん、カレイの田楽焼き、炒り鶏、白和え、けんちん汁
12月22日	昼	冬至	ミックスピラフ、鮭のムニエル、アスパラサラダ、わかめスープ、南瓜豆乳プリン
12月25日	昼	クリスマス	ロールパン、ローストポーク、グリーンサラダ、チンゲン菜ときのこのスープ、クリスマスケーキ
12月31日	夜	大みそか	年越しそば（えび入りかき揚げ）、いなり寿司、野菜の和え物、杏ゼリー
1月1日	昼	お正月	赤飯、お雑煮（すまし）、紅白なます、紅白かまぼこ、ローストビーフ、黒豆、数の子、ゆずゼリー
1月7日	昼	七草	七草粥、鶏肉の塩こうじ焼き、白菜の甘酢和え、のっぺい汁、水ようかん
2月3日	昼	節分	のり巻といなり、蓮根のつくね煮、みそ汁（かぶ、かぶ葉）、おしるこ
2月14日	昼	バレンタインデー	ご飯、ハーブチキンのきのこ添え、コールローサラダ、スープ（白菜、コーン）、チョコババロア
3月3日	昼	ひな祭り	桜ちらし寿司、蒸し鶏とキャベツの和え物、かぶのそぼろ煮、みぞれ汁、桜もち
3月18日	昼	創立記念日	赤飯、刺身、菜の花とささみの辛子和え、かきたま汁、手作り抹茶水ようかん
3月20日	昼	春分の日	ご飯、ローストポーク、えびと玉葱の酢の物、すまし汁（卵豆腐、みつば）、おはぎ

3 ボランティアの育成と受け入れ

3-1 ボランティア受け入れ状況 (障害支援事業部)

(414 件/578 人)

活 動 内 容	件数	延べ 人数	活 動 内 容	件数	延べ 人数
理髪	0	0	作業;補助	71	71
歩行介助	64	64	行事協力	1	5
外出介助	20	20	ダンス・舞踊	0	0
伴走	76	76	傾聴・朗読等	0	0
清掃	52	52	音楽	19	79
施設・備品整備	2	12	茶道・花道	26	65
裁縫	50	73	公演	1	15
洗濯・たたみ	28	42	手工芸	0	0
生活介助	4	4	その他	0	0

3-2 ボランティア登録状況 (障害支援事業部)

(7 団体 40 名・個人 19 名)

団 体 名	会員数	所在地域	団 体 名	会員数	所在地域
あしたの会	4	佐倉市・八街市	光和会	5	市川市
ほたる	3	佐倉市	あじさいの会	13	佐倉市
草笛クラブ	5	佐倉市	ラ・ポール	5	佐倉市
あやめ	5	佐倉市	個人	19	佐倉市・東京都・ 山武郡

3-3 ボランティア育成事業 (全事業所)

月 日	内容
9 月 21 日	ボランティア交流会 (特別養護老人ホームはちす苑)
10 月 13 日	地域デビュー講座 傾聴① (南部地域福祉センター)
10 月 20 日	地域デビュー講座 傾聴② (南部地域福祉センター)
3 月 29 日	地域デビュー講座 ボランティア体験講座 (はちす苑)
12 月 16 日	認知症サポーター養成講座 (小学生対象) (南部児童センター)

4 福祉教育

月 日	機関名	対象者	学習内容
4 月 23 日	根郷中学校	職員	年間計画打ち合わせ
5 月 31 日	根郷中学校	1 年生	福祉講話
5 月 31 日	根郷中学校	2 年 1 組 2 組	点字講座① 点字講座①
6 月 7 日	根郷中学校	2 年 1 組 2 年 2 組 3 年 1 組	点字講座② 点字講座② 愛光利用者交流体験
6 月 19 日	山王小学校	職員	山王小学校 4 年生交流打ち合わせ
7 月 12 日	根郷中学校	3 年 2 組	愛光利用者交流体験
8 月 20 日 23 日	佐倉中学校	職員	福祉施設体験 (中学校教諭等資質向上研修)
9 月 13 日	根郷中学校	3 年 3 組 1 年 3 組	愛光利用者交流体験 アイマスク体験
9 月 20 日	根郷中学校	1 年 1 組 1 年 2 組	アイマスク体験 アイマスク体験
11 月 1 日	根郷中学校	3 年生	福祉学習を振り返って
2 月 6 日	山王小学校	4 年生	アイマスク体験 愛光利用者交流体験

Ⅲ. 高齡者福祉事業部

概況

当年度のスローガンは「“地域” つながる。ひろがる。ひびきあう」、日常生活支援総合事業の本格スタートとなった。佐倉市南部地域の高齢者福祉拠点となるための基礎固めをテーマに、共生型サービス・通所型サービスB・訪問型サービスA（緩和）の事業を開始し、居宅サービス課を中心に取り組んだ。地域に根差した施設としてどうあるべきか、課題はたくさんあるが、苑全体で取り組める環境を整え、地域共生社会構築に向けて事業展開など強化していきたい。

法改正により、医療との連携が大きなテーマとなっており、新たに創設された看取りケア加算などは算定できているが、機能訓練・向上関係、栄養マネジメント関係の加算が算定できていないため、要件を満たせるよう新たに外部医療機関との連携ができるよう努めたい。

○数値目標

介護保険収入が大幅減となった。特養（-900万円）においては、入院が前年度より約1.7倍に増えたことが大きい。デイサービス（-1200万円）は、契約終了者が多く、新規契約が伸び悩んだため稼働（8月以降稼働率が60%台）が減少した。主に、施設への入所による契約終了者が多かったことも挙げられるが、稼働減の原因・分析が必要である。また、2年後の介護保険改正も見込み、専門職による機能訓練実施の検討も必要である。

ホームヘルプは、若干収入が下がったものの、赤字は減少、常勤職員に年休が付与できるなど、職場環境が改善した。ケアプランは、常勤職員を増員できず、特定事業所加算を算定できなかったこと、施設入所など相次ぎプラン数が減ってしまったため、収入が減となった。総合事業や介護者のつどいで活動することで、「地域」を意識できるようになってきているが、計画的に外回りができていないため、外部との連携面で課題がある。

	目 標 値		実 績 値	
特養 ショートステイ	稼働率	合算 98%	97.7% 96.6%	合算 97.3%
配食サービス	月平均収入	27 万円		21 万円
	食数換算	273 食	食数換算	212 食
デイサービス	稼働率	80%		66.3%
	1日平均利用者数	28 人		23.1 人
ホームヘルプ	月平均契約者数	60 件		61.8 件
	月平均介護保険収入	230 万円		210 万円
ケアプラン	月平均契約件数 （予防プラン含む）	70 件		60.5 件

○サービス目標

総合事業（訪問型サービスA 通所型サービスB）は予定通り実施。また、共生型サービス（高齢者と障害者が同一事業所でサービスを受けられる：通所生活介護・短期入所）を申請し事業を開始している。（実績：共生型 366 人 基準該当 136 人 短期入所 1 人 訪問型サービスA 契約件数 8 件）介護保険報酬改定への取り組みは、特養・ショートステイにおいて、ランクの高い看護体制加算・看取りケア加算を算定した。しかし、本年度新たに盛り込まれた、アウトカム関連の（ADL 維持改善等に関する評価や結果）加算は、算定要件等の関係で実施できなかった。次年度研究して算定できるようにしたい。

感染症に関しては、インフルエンザ罹患患者（入居者・職員）は、発生したものの大きく広がることはなかった。感染が広がらなかったのは、定期的に開催している、法人研修「感染症対策訓練」の効果によるものである。今後は、施設外からの感染症対策が大きな課題である。

行動指針作成「8すの思いプロジェクト」は、8つの文言が完成し、行動指針を守るためのルール作りを始めている。業者からもロゴ等の提案がされており、次年度に持ち越しとなってしまったが、順調に進んでいる。

特養での個別支援については、個別ケアマニュアルを活用し実施した。介護支援専門員が記入しやすい書式を作成し、各職員が実施できるよう工夫している。看取りケアは9名（退所14名のうち）実施した。

○地域連携目標

※千田ホール無料開放・・・ヨガサークル、幼児リトミック、社交ダンスサークルなど、多岐にわたり利用者

が増えており、地域イベント開催時など、利用者に講師を引き受けてもらえるなど、人脈が広がりつつある。
 ※外部ネットワークの構築・・・南部圏域の地区社協(根郷・和田・弥富)、佐倉市在宅医療・介護連絡会議、在宅医療・介護連絡地域ケア会議(佐倉・南部圏域)・南部買い物支援連絡会、山王地域ケア推進会議、南部圏域ネットワーク会議の他、個別の地域ケア会議に積極的に参加している。ヘルパーの和さくらは、定期開催し4～5事業所の参加が定着しており、当年度末に研修を行った。ホームヘルプサービス主任を、佐倉市社会福祉協議会主催の介護職員初任者研修の講師として派遣した。

※オレンジカフェ(佐倉市南部地域包括と協同で毎月1回実施)・・・ボランティアに特養入居者家族がかかわるようになってきた。本来地域向けの事業であるが、施設入居者が地域住民と触れ合う良い機会となっている。
 ※介護者のつどい(年9回実施)・・・通常の懇談会・施設見学・学習会などの他に、はちすガーデンでバーベキューを実施。雰囲気を変えた形での開催に参加者から好評をいただいた。(参加延べ人数 72名)

※通所型サービスモデル事業(平成30年9月より開始)・・・開催回数 24回 実利用人数12名 一般8名 要支援2名 その他、障害支援区分1名・要介護認定1名 約半年期間での延べ利用者数は151人で、ボランティアの延べ人数は117人であった。

○業務遂行目標

※時間外勤務・・・特養においては、公休取得数の関係などで時間外勤務が増加してしまった。その他の部署では、振替などで大幅に増加していない。

※デイサービス改築工事・・・利用者から「雰囲気が変わった。椅子やテーブルも使いやすい」と好評であった。トイレや壁紙の一部が経年劣化により古くなっているため、安全面・環境面から課題となっている。

※リスクマネジメント 年間事故総数48件(防ぐべき事故18件 予測ができた事故18件) 苦情1件
 (主な内容)

異食・誤飲3件 送迎中の転落1件 転倒23件(骨折8件 裂傷・打撲7件) 誤薬4件
 放置4件 車両事故 3件 無届外出2件

特養、ショートステイ・・・「ひと間違い」と「誤飲」による誤薬事故が4件発生した。マニュアル不履行と職員の連携ミスが主な原因である。マニュアルを守ること、服薬に対する職員の意識強化とともに、誤薬防止システムの導入など、あらゆる手段を講じて誤薬事故発生を防ぐ必要がある。また「放置」についても、重大事例として捉えており、「伝え忘れ」「失念」しても重大事故に至らないマニュアル(システム)を作らなければならない。ショートステイにおいては、転倒による骨折や受傷事例が多いため、骨折予防パンツやヨガマットを引く等の対応で、大怪我を予防している。

デイサービス・・・リビング内転倒1件 車両事故2件 特に、車両内転倒事故については、車いすのフックのかけ忘れという重大事案であり、対応策として、車内2か所に送迎業務の確認用の掲示板を作成した。

○人材育成目標

※介護支援専門員、相談員の資質向上、提案力・営業力の強化や外部との連携において課題がある。中間管理職(課長 主任)のマネジメント能力強化については、研修などに参加させることができず、経営に対する意識強化と生産性向上アップのための業務改善の土台作りは行えていない。千葉県が主催する虐待予防・身体拘束研修に職員を派遣した。常勤職員1名が介護福祉士を取得した。

第Ⅲ期中期経営計画達成状況(2017～2019年度)

	目 標 値	実 績 値
特養 ショートステイ	稼働率 合算 96%	合算 97.8%
デイサービス	稼働率 80%	69.6%
ホームヘルプ	月平均契約者数 60人	56.2件
ケアプラン	月平均契約件数(予防含) 70件	67.1件

実施計画	実 施 状 況
はちす苑 施設整備	花の街改築 デイサービス改装
はちす苑裏土地事業計画	法改正(報酬単価)の動きや共生型サービスの利用実績など、地域ニーズを把握し慎重に検討する

(苑長 麻生 知明)

1 事業の実績 (2018. 4. 1～2019. 3. 31)

1-1 特別養護老人ホームはちす苑(介護老人福祉施設)

【定員50名】

	延べ年間施設利用者			1 日平均		延べ年間空所				入 退 所	
	定員	契約数	現員数	利用数	稼働率	総数	欠員	入院	外泊	入所	退所
(当年)	18,250	18,615	17,887	49.0	98.0	723	0	723	0	14	14
(前年)	18,250	18,594	18,167	49.8	99.5	427	0	415	12	20	19

※ 定員とは入所定員に各月暦日数をかけたもの。

1-2 ショートステイはちす苑 (短期入所生活介護事業)

【定員20名】

	延べ年間施設利用者		1 日平均	
	定員	利用総数	利用数	稼働率
(当年)	7,300	7,058	19.3	96.6
(前年)	7,300	6,749	18.5	92.4

1-2-1 特養 ショートステイ合算

	延べ年間施設利用者		1 日平均	
	定員	利用総数	利用数	稼働率
(当年)	25,550	24,945	68.3	97.6
(前年)	25,550	24,916	68.2	97.5

1-3 佐倉市高齢者等ふれあい配食サービス事業 (委託事業)

月	食数	実利用者数	新規	終了
4 月	240	19	1	1
5 月	249	21	0	0
6 月	221	19	1	6
7 月	237	18	1	1
8 月	242	17	0	0
9 月	218	18	0	0
10 月	223	16	0	2
11 月	211	15	0	2
12 月	202	16	1	0
1 月	185	18	0	1
2 月	171	14	0	0
3 月	196	14	0	1

1-4 デイサービスはちす苑 (通所介護事業 基準該当生活介護事業)

【定員35名】

	延べ年間通所利用者			1 日平均		利 用 契約者	基準該当生活介護 共生型生活介護
	営業日	定 員	総 数	利用数	稼働率		利用契約者数 6 延べ利用日数 502
(当年)	306	10,710	7,071	23.1	66.3	888	
(前年)	308	10,780	7,862	25.5	72.9	909	

1-5 ホームヘルプサービスはちす苑（訪問介護事業）

	延べ年間 利用総件数	身体介護		生活援助		独自・緩和		自由		利 用 契約者	合計援助 時間数
		延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数	延べ件数	延べ時間数		
(当年)	7,864	3,657	2,083	2,300	1,904	(独自) 1,516 (緩和) 345	(独自) 1,506.5 (緩和) 345	29	52.5	742	5,932
(前年)	8,325	4,184	2,570	2,617	2,087	(予)861 (み)618	(予)715 (み)616	45	51	608	6,039

1-6 ケアプランはちす苑（居宅介護支援事業）

月	ケアプラン								実績	
	月末契約数	継続	新規	再開	中断	終了	その他		要介護	要支援
4月	65	59	2		2		2		9	50
5月	65	60	2		3				9	50
6月	65	60	2			3			9	51
7月	62	59	1			2			9	52
8月	62	59	1		1				9	51
9月	61	58	2		1	1			9	51
10月	59	53	1		3	2			9	50
11月	59	50	2		2	5			9	48
12月	56	50	4	1	2				10	44
1月	56	54	1		3	2			10	46
2月	51	43	1	1	1	4			10	40
3月	50	49			1				10	39

2 入居者・利用者の状況（2018 年度全契約者）

2-1 利用者総数

	全利用者			特養ホーム入居者			居宅サービス利用者※		
	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女
人数	291	90	201	61	14	47	230	76	154
%		30.9	69.1	20.9	4.8	16.1	79.1	26.2	52.9

※ はちす苑が提供する居宅サービス[ケアプラン（居宅介護支援）・ショートステイ（短期入所）
・デイサービス（通所介護）・ホームヘルプ（訪問介護）]を指す。

2-2 年齢構成

(年齢は2018.4.1現在)

		総 数	65 未満	65～69	70～79	80～89	90 以上	最高齢
全利用者	総数	291	11	16	69	127	68	
	%		3.8	5.5	23.7	43.6	23.4	
	男 女	90 201	6 5	7 9	25 44	38 89	14 54	98 歳 101 歳
特養ホーム 入居者	人数	61	4	1	9	24	23	
	%	20.9	1.4	0.3	3.1	8.2	7.9	
	男 女	14 47	4	1	4 5	3 21	3 20	90 歳 101 歳
居宅 サービス 利用者	人数	230	7	15	60	103	45	
	%	79.1	2.5	5.2	20.5	35.4	15.5	
	男 女	76 154	2 5	7 8	21 39	35 68	11 34	98 歳 98 歳

2-3 居住地域

		総 数	佐倉市	四街道市	成田市	富里市	その他
全利用者	総数	291	260	21	2		8
	%		89.4	7.2	0.7		2.7
	男 女	90 201	87 173	3 18		2	8
特養ホーム 入居者	人数	61	50	7	1		3
	%	20.9	17.2	2.4	0.3		1.0
	男 女	14 47	13 37	1 6	1		3
居宅 サービス 利用者	人数	230	210	14	1		5
	%	79.1	72.3	4.8	0.3		1.7
	男 女	76 154	74 136	2 12	1		5

2-4 要介護認定の状況

		総 数	自立	要支援	I	II	III	IV	V	障害
全利用者	総数	291		62	48	42	59	50	24	6
	%			21.3	16.5	14.4	20.3	17.2	8.3	2.0
	男 女	90 201		14 48	15 33	15 27	16 43	18 32	9 15	3 3
特養ホーム 入居者	人数	61				5	23	24	9	
	%	20.9				1.7	7.9	8.2	3.1	
	男 女	14 47				1 4	4 19	6 18	3 6	
居宅 サービス 利用者	人数	230		62	48	37	36	26	15	6
	%	79.1		21.3	16.5	12.7	12.4	8.9	5.2	2.1
	男 女	76 154		14 48	15 33	14 23	12 24	12 14	6 9	3 3

2-5 面会・外泊状況（特養入居者）

面会 回数 (年)	回数	50 回以上	49～40 回	39～30 回	29～20 回	19～10 回	9～1 回	なし
	人数	6	0	7	9	17	22	0
	%	9.8	0	11.4	14.7	27.8	36.0	0
	男 女	1 5	0 0	1 6	1 8	3 14	8 14	0 0
外泊 日数 (年)	回数	20 日以上	19～15 日	14～10 日	9～5 日	4～1 日	なし	
	人数	0	0	0	0	1	60	
	%	0	0	0	0	1.6	98.3	
	男 女	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	14 46	

2-6 特養新規入居者(2018 年度中)

	総数	入居時年齢				入居時要介護度				
		65～	70～	80～	90～	1	2	3	4	5
人数	14	0	1	7	6	0	1	5	7	1
男	3	0	0	2	1	0	0	1	2	0
女	11	0	1	5	5	0	1	4	5	1
	総数	入居前状況								
		在宅	老健	病院	その他					
数	14	9	3	2	0					
男	3	2	1	0	3					
女	11	7	2	2	2					

2-7 特養退所者(2018 年度中)

	総数	退所時年齢					退所時要介護度				
		～64	65～	70～	80～	90～	1	2	3	4	5
人数	14	0	0	4	3	7	0	0	3	5	6
男	7	0	0	2	2	3	0	0	3	2	2
女	7	0	0	2	1	4	0	0	0	3	4
	総数	退所時理由									
		在宅	施設	入院	死去						
人数	14	0	0	3	12						
男	7	0	0	3	4						
女	7	0	0	0	7						

3 特養入居希望者(2019. 3. 31 現在)

	総数	年齢区分					介護認定による要介護度						
		～64	65～	70～	80～	90～	要支	1	2	3	4	5	不明
人数	101	0	6	22	48	24	0	2	7	37	29	24	2
%	100	0	5.9	21.8	48.5	23.8	0	2.0	6.9	36.6	28.7	23.8	2.0
男	37	0	4	10	17	6	0	1	4	10	9	12	1
女	64	1	2	12	31	18	0	1	3	27	20	12	1
	総数	現状											
		在宅	老健	病院	他								
人数	101	48	22	19	12								
%	100	47.5	21.8	18.8	11.9								
男	37	15	10	6	6								
女	64	33	12	13	6								

4 保健・医療サービス 概況

○サービス目標

入院件数が前年度と比較し、約 1.7 倍に増加してしまった。特に際立っていた理由は、誤嚥性肺炎と、尿路感染症によるものである。又、消化器系に関するものも増えている。年齢的に若い 50～60 代の利用者は、糖尿病からの脳内病変による後遺症で、嚥下能力の低下により誤嚥性肺炎に罹患しやすく、腎機能低下により、留置カテーテルが挿入されることを余儀なくされているため尿路感染症に罹患しやすいと考えられる。又、80～90 代の利用者は、老化により体力・免疫力が低下し、内臓の機能全体が低下したことにより、誤嚥性肺炎・尿路感染症に罹患しやすいと考えられる。今後としては、再度現在行っているケアの見直しを行い、少しでも誤嚥性肺炎・尿路感染症入院者を減少させることが大きな課題である。

当年度看取りケアは 9 名であった。ご家族の思いが複雑に揺れる中、お気持ちに寄り添い、一緒に考えることで、最期を受け入れて頂けた。

法人研修「感染症対策訓練」を、東邦大学医療センター佐倉病院の感染管理認定看護師を招いて、2 回実施した。障害者支援事業部からも多くの参加があり、関心の高さを感じた。次年度も、引き続き講義を予定している。その都度感染症対策を再確認することができる良い場であると考ええる。

職員の医療的ケア（喀痰吸引）の資格については、職員を講座へ通わせることができず、取得させることができなかった。

○地域連携目標

佐倉市内の包括支援センターから依頼された、難しいケースを受け入れている。重い糖尿病の持病があり、コントロールが難しく、強い介護拒否がある。佐倉市職員・ケアマネジャー等と課長・看護主任を交えての話し合いを設けたり、ケアマネジャーから本人に説得を試みたりとしていく中、本人も少しずつ苑での生活に慣れてきた。介護・看護職員の連携を図り、今後も本人らしさを大切にしつつ、落ち着いた生活を提供していきたい。

○業務遂行目標

共生型サービスが開始され、健康管理室として対応できるよう体制を整えてきた。今後は、デイサービスと短期入所を併用で利用されるケースも増えていくので、スムーズに受入れられるよう努力していきたい。

当年度リスクマネジメント研修を受けて、はちす苑全体で誤薬防止の意識が高まっている。「0 ゼロ」にすることはなかなか難しいが、少なくとも事故を未然に防ぎ、日々緊張感をもって薬の取り扱いをしていきたいと考える。

健康管理面では、メンタルや持病の関係で体調を崩す職員がいた。看護師・上司と連携を取り、本人の体調に配慮しつつ、シフト通り勤務ができるよう、周囲の協力を得ながら支えていきたい。

(健康管理室 看護主任 阿部美樹子)

4－1 健康診断・施設内診療の実施状況

月	健康診断の実施状況		施設内診療日数				
	入居者	職員	内	泌	眼	皮	歯
4月	血圧測定・体重測定 健康診断・胸部レントゲン	健康診断・胸部レントゲン 腰部レントゲン	4	2	0	0	4
5月	血圧測定・体重測定・採血・検尿	内科健診・採血・検尿	5	2	0	0	4
6月	血圧測定・体重測定・内科健診	内科健診	4	2	0	0	5
7月	血圧測定・体重測定	内科健診	5	2	0	0	4
8月	血圧測定・体重測定		4	2	0	0	5
9月	血圧測定・体重測定		4	1	0	0	4
10月	血圧測定・体重測定・採血・検尿 内科健診	夜勤者採血・検尿 ・内科健診	5	2	0	0	4
11月	血圧測定・体重測定・ インフルエンザ予防接種	インフルエンザ予防接種・ 内科健診	4	2	0	0	4
12月	血圧測定・体重測定		4	2	0	0	4
1月	血圧測定・体重測定		4	2	0	0	4
2月	血圧測定・体重測定		4	2	0	0	4
3月	血圧測定・体重測定		4	3	0	0	5

4－2 施設（内）診療月別内 ※「実人数」は受診した個人単位の人数

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	延人数	788	60	67	56	82	51	57	94	71	70	71	55	54
	実人数	404	24	38	28	45	28	33	36	32	44	35	35	26
眼科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	延人数	646	57	56	70	32	62	51	55	53	48	52	52	58
	実人数	185	17	16	15	15	16	15	17	16	14	15	15	14
泌尿器科	延人数	255	22	24	22	24	21	12	24	23	13	23	21	26
	実人数	150	12	13	13	13	12	12	13	12	12	12	13	13

4-3 施設(外)医療機関受診状況

診療科		総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	延人数	122	8	12	6	15	9	18	18	9	10	3	6	8
	実人数	102	9	10	4	14	6	11	16	8	10	3	6	5
外科	延人数	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	延人数	25	2	2	2	6	4	2	1	1	2	0	1	2
	実人数	23	2	1	2	7	3	2	1	1	2	0	1	1
泌尿器科	延人数	30	1	3	1	1	1	3	4	2	1	1	1	11
	実人数	27	1	2	1	1	1	4	4	2	1	1	1	8
骨粗科	延人数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	実人数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
脳外科	延人数	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	実人数	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
精神科	延人数	19	1	2	1	3	1	3	0	2	2	1	1	2
	実人数	19	1	2	1	3	1	3	0	2	2	1	1	2
婦人科	延人数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	実人数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
歯科	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	延人数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心療内科	延人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	実人数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
救急外来	延人数	28	0	2	2	3	1	4	2	4	1	0	4	5
	実人数	28	0	2	2	3	1	5	2	4	1	0	4	5
ペーサーメーカー	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
消化器外科	延人数	22	1	4	1	1	2	0	4	1	3	3	1	1
	実人数	22	1	4	1	1	2	0	4	1	3	3	1	1
総合外来	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	延人数	14	1	1	1	1	1	2	3	0	0	1	1	2
	実人数	14	1	1	1	1	1	2	3	0	0	1	1	2

4-4 入院の状況(特養在所契約期間中)

件数	入院 総日数	平均 入院日数	実人数	性別		年齢別内訳			
				男	女	50～	70～	80～	90～
60	790	14.6	54	27	27	10	4	19	21

4-5 入院理由

尿路感染	9	誤嚥性肺炎	14
肺炎	8	インフルエンザ	1
右胸水貯留	2	慢性心不全急性増悪	2
右大腿骨頸部骨折	3	慢性心房細動	2
蜂窩織炎	1	心不全増悪	2
胆管炎	1	腸閉塞	6
胆石	1	嘔吐症	2
脱水	3	S字結腸軸捻転	2
糖尿病シックデイ	1	食欲不振	2
腹部膨満	2	精査目的	2
心不全	7	敗血症	2
腎機能低下	3	低ナトリウム血症	2
腸捻転	1	癒着性イレウス	2
腰椎圧迫骨折	4	急性腎不全	3
胆管炎	1	症候性てんかん	1
肝機能障害	1	便秘	1
腎盂腎炎	1	総胆管結石	1

4-6 機能回復訓練（指圧）の実施状況

	特別養護老人ホーム			ショートステイ			デイサービス		
	日数	延人数	実人数	日数	延人数	実人数	日数	延人数	実人数
合計	148	890	178	148	78	33	148	1396	85

5 食事サービスの状況（栄養係）

5-1 標準献立（平均所要量エネルギー1479kcal//蛋白 66.2g//脂質 31.1g//糖質 225.0g）

	朝食（8:00～）	昼食（12:00～）	夕食（18:00～）
献立名	ごはん 炒り豆腐 キャベツのごま和え 味付けのり 小松菜としめじのみそ汁 牛乳	ごはん 赤魚の煮付け ブロッコリーの辛子和え 漬物 里芋とねぎのみそ汁 フルーツ（白桃缶）	ごはん 鶏肉の照り焼き 長芋の煮物 漬物 えのきとわかめのすまし汁

5-2 食種構成表

総数	主 食				副 食				胃ろう
	白米	軟飯	粥	粥ミキサー	常菜	一口	きざみ	ソフト	
51	15	21	8	4	13	15	13	6	1

5-3 行事食献立

月	行事名	献立名
4月	お花見	甘酒とさくらまんじゅうを提供。嚥下困難な利用者には水ようかんを提供。
5月	八十八夜 端午の節句 ヨーグルトの日	デザートにお茶まんじゅうを提供 ちらし寿司、南瓜のそぼろ煮、友禅和え、はんぺんと水菜のすまし汁、柏もち 離水しにくいヨーグルトを提供
6月	千葉県民の日 芒種 和菓子の日&麦とろの日	ごはん、つみれ鍋風煮、小松菜のピーナツ和え、昆布の佃煮、冬瓜とねぎのみそ汁、フルーツ（びわ缶） ごはん、手作りさつま揚げ&みょうが・大葉の天ぷら、海草サラダ、漬物、たけのこのすまし汁、洋梨缶 麦ごはん、さばの照り焼き、とろろ芋、うの花、小松菜とわかめのみそ汁、なめらかあん玉
7月	七夕 土用うしの日 納涼祭	五目そうめん、いなり寿司、野菜天ぷらと海老天ぷら、切り干し大根の酢の物、やわらか大福 やわらかうな井、モロヘイヤのおひたし、漬物、すまし汁、土用餅 から揚げ、エビフライなどのオードブルを提供
8月	山の日 お盆	山菜ごはん、鶏肉の山賊焼き、ゴーヤチャンプル、漬物、かにかまのみつばのすまし汁、フルーツ（すいか） ごはん、肉野菜炒め、白和え、漬物、すいとん、うきわの形の和菓子
9月	防災の日 重陽の節句 敬老会 敬老の日 秋分の日 十五夜	ごはん、防災食のさばのみそ煮、豆腐サラダ、漬物、けんちん汁、ゼリー 栗ごはん、鶏のじぶ煮、小松菜の菊花和え、山形の郷土料理のだし、茄子とえのきのみそ汁、フルーツ（梨） 扇型赤飯、漬物、刺身盛り合わせ、炊き合わせ、きのこ青菜のポン酢和え、茶わん蒸し、そうめん汁、フルーツ（梨、巨峰）→松花堂弁当での提供 鮭ちらし寿司、さつま揚げと昆布の煮物、漬物、はんぺんと水菜のすまし汁、やわらか大福 ごはん、天ぷらの盛り合わせ、菜の花の辛子和え、漬物、はんぺんのすまし汁、おはぎ さつま芋ごはん、肉団子の甘辛煮、里芋の田楽、漬物、なめこと水菜のすまし汁、お月見まんじゅう
10月	はちす苑開設記念日 さんまパーティー ハロウィン	赤飯、チキンピカタ、小松菜とじゃこの和え物、漬物、チンゲン菜のすまし汁、やわらか大福 各街にて目の前で炭火を使い、さんまを焼いて旬の味覚を味わった。 デザートに魔女の絵を描いた練りきりを提供
11月	寿司パーティー	寿司職人が来苑し、各街にて目の前で寿司を握っていただき、握りたてを味わった。
12月	忘年会 冬至 クリスマス 大みそか	天ぷらなどのオードブル、おでんを提供 ごはん、さばの竜田焼きおろしソース、切り干し大根のゆず和え、漬物、まいたけとごぼうのみそ汁、かぼちゃババロア ケチャップライス、フライドチキン、マカロニサラダ、野菜のコンソメ煮、サンタの形をした練りきり 年越しそば、海老と南瓜と茄子の天ぷら、いなり寿司、乳酸菌飲料
1月	お正月 七草 鏡開き	元旦の昼：すまし仕立てのお雑煮、赤飯、お刺身盛り合わせ、炊き合わせ、伊達巻き、菜の花の辛子和え、かまぼこ、錦玉子、うさぎの和菓子 →松花堂弁当での提供 2日の昼：みそ仕立てのお雑煮、ちらし寿司、茶わん蒸し、切り干し大根の煮物、コーヒープリン黒豆のせ 七草粥、肉じゃが、白菜と厚揚げの煮浸し、漬物、のっぺい汁、ほうじ茶プリン ごはん、ぶりの照り焼き、五目豆、漬物、小松菜のスープ、おしるこ
2月	節分 バレンタインデー	卵の太巻き寿司、いなり寿司、鶏肉と大根の煮物、はんぺんのすまし汁、水ようかん ごはん、クリームシチュー、南瓜サラダ、漬物、ベーコンとエリンギのスープ、チョコレートプリン

3月	ひなまつり ホワイトデー 愛光創立記念日 春分の日	菜の花のちらし寿司、じゃが芋の煮物、漬物、うどんと麩のすまし汁、お雛様の和菓子 ハート形の和菓子 赤飯、刺身の盛り合わせ、炊き合わせ、漬物、かきたま汁、やわらか大福 混ぜごはん、手作り薩摩揚げ、刻み昆布の煮物、卵豆腐、はんぺんのすまし汁、 ぼたもち
----	------------------------------------	--

※高齢の利用者にも食べやすいように工夫され、見ためにもかわいい和菓子を多く提供した。

6 運営管理

6-1 職員状況

職 名		2018. 4. 1	2018. 4. 2～2019. 3. 30				2019. 3. 31
		現員数	退職	異動出	異動入	採用	現員数
総 数		93 (46)	10 (9)			15 (15)	98 (52)
苑長（施設長）		1					1
総務課	主任事務員	1					1
	事務員	1 (1)					1 (1)
	運転手					2 (2)	2 (2)
	クリーンスタッフ	7 (7)					7 (7)
	管理宿直者	3 (3)					3 (3)
	配食サービス配達員	4 (4)	1 (1)			2 (2)	5 (5)
	アルバイト		3 (3)			4 (4)	1 (1)
施設サービス課	課長	1					1
	主任ケアスタッフ	3					3
	ケアスタッフ	31 (10)	1 (1)			2 (2)	32 (11)
	生活相談員	2	1				1
	管理栄養士	1					1
居宅サービス課	【ケアプラン】						
	主任ケアマネジャー	1					1
	ケアマネジャー	1					1
	【デイサービス】						
	主任ケアスタッフ	1					1
	ケアスタッフ	12 (7)	3 (3)			3 (3)	12 (7)
	生活相談員	1					1
	ボランティアコーディネーター	1 (1)					1 (1)
	【ホームヘルプ】						
	主任ケアスタッフ（サ提）	1					1
	サービス提供責任者	1					1
	訪問介護員	2					2
	登録ヘルパー	11 (11)	1 (1)			2 (2)	12 (12)
健康管理室	医師	1 (1)					1 (1)
	主任看護師	1					1
	看護師	6 (2)					6 (2)
	機能訓練職	1 (1)					1 (1)

※ 網掛けについては、一部総数に計上していない。数字は総数で表示し、内パート職員の数（ ）内に再表示している。

6-2 職員研修・訓練など実施状況

法人					
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
6/8	リスクマネジメント研修	4	10/26	介護技術研修	6
6/19	介護技術研修	5	11/13	リスクマネジメント研修	4
6/21	コンプライアンス研修	3	11/26	中堅職員リフレッシュ研修	3
6/27	感染症対策訓練	9	12/19	感染症対策訓練	10
7/31	管理職対象リスクマネジメント 研修「ハラスメントについて」	3	H31 2/15	労務管理研修	3
8/8	介護技術研修	8	2/19	成年後見制度について	2
9/11	リスクマネジメント研修	4	3/21	リスクマネジメント研修	4
9/27	交通安全セミナー	2			
施設内					
5/30	口腔ケアについて	4	9/5	防災訓練	
8/1	嚥下リハビリについて	4	11/7	夜間想定防災訓練	
8/29	高齢者のバイタルサインについて	7	H31 1/9	ターミナルケア研修	6
7/4	防災訓練		2/27	身体拘束廃止研修	6
TENA 研修 毎月 1 回開催 延べ 36 人					
施設外					
4/8	プロのターミナルケア	2	10/18	医療と介護の連携について	2
4/25	わかりやすい報酬改定解説	2	11/19	大規模災害対策講座	2
5/16	ケアマネジャーが いまやるべきこと	3	11/28	佐倉市主任介護支援専門員 連絡会	1
6/17	多職種協働ケアマネジメントの 推進に向けて	2	12/9	アンガーマネジメント研修	2
9/13	尾道市の地域医療体制に 関する研修	3	H31 2/24	地域ミニ講座「認知症について」	6
10/6	障害福祉サービスとの 連携について	2	3/14	県高齢協 施設長研修	1
(複 数 研 修)					
研修内容		日付			参加人数
千葉県主催 身体拘束廃止研修		6/29 7/10 7/19 7/26 8/10 8/31			延べ 5
相談支援従事者初任者研修		8/30 9/10 9/12			1
サービス管理責任者研修(生活介護)		11/26 12/4・5			1

7 諸会議の開催状況

	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
代表者会議	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
身体拘束廃止委員会				1			1			1			1
特養主任会議	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
入居判定会議	5	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0
デイサービス会議	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
ホームヘルプ会議	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養改善会議	6	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
サービス担当者会議	56	0	5	2	4	3	6	4	5	6	6	6	5

8 実習受け入れ状況

依頼教育機関等	実 習 目 的	日数	件数	人数
※総数		87	14	45
新国際福祉カレッジ	介護福祉士	30	1	2
新国際福祉カレッジ	介護福祉士	10	1	2
植草学園短期大学	介護福祉士	13	1	3
植草学園短期大学	介護福祉士	20	1	3
植草学園短期大学	介護福祉士	9	1	2
植草学園短期大学	介護福祉士	2	1	2
千葉県新規採用職員施設研修	職場体験	1	3	9
佐倉市社会福祉協議会	介護職員初任者研修	1	1	2
日本医科大学	医学実地演習	1	4	20

9 ボランティア活動

9-1 活動状況(年間実績) ※この他に、近隣の小学生・中学生との交流会なども実施

活動内容			理 髪	施 設 環 境 備 置 備	清 拭 布・洗 濯 物 た た み	生 活 介 助	作 業 補 助	行 事 協 力	傾 聴・朗 読 等	手 工 芸 陶 芸 ク ラ ブ	音 楽 療 法	生 花・茶 道 ク ラ ブ	公 演・発 表	そ の 他
4 月	延人数	156	4	16	34	8		20	11	9	8	12		34
	人数	71	2	2	13	3		20	4	5	4	9		9
	回数	94	4	12	21	8		5	7	2	2	3		30
5 月	延人数	158	3	22	27	9		33	10	8	8	6		32
	人数	84	2	8	13	3		33	4	4	5	3		9
	回数	91	3	17	19	9		4	8	2	2	2		25
6 月	延人数	147	3	19	24	7		30	16	9	8	6		25
	人数	75	3	2	13	3		30	4	5	6	3		6
	回数	95	3	19	24	7		5	8	2	2	2		23
7 月	延人数	174	2	17	34	9		37	11	4	8	11		41
	人数	82	1	2	13	3		37	4	4	4	8		6
	回数	97	2	12	21	9		4	6	1	2	3		37
8 月	延人数	168	2	21	25	10		33	13	9	8	8		35
	人数	76	1	2	12	3		33	3	5	5	8		6
	回数	96	2	17	17	10		7	5	2	2	2		33
9 月	延人数	173	2	12	24	10		57	8	8	8	8		36
	人数	102	1	1	12	3		57	3	5	5	8		7
	回数	90	2	12	16	10		7	3	2	2	2		34
10 月	延人数	171	5	18	31	9		38	12	9	8	11		30
	人数	88	3	2	13	3		38	4	5	5	8		7
	回数	99	5	16	22	9		7	7	2	2	3		26
11 月	延人数	172	3	16	32	9		19	9	9	11	31		33
	人数	81	2	2	14	3		4	5	5	8	31		7
	回数	95	3	16	21	9		7	2	2	3	1		31
12 月	延人数	156	6	25	30	9		19	10	9	8	8		32
	人数	80	3	12	14	3		19	3	5	6	8		7
	回数	92	6	16	17	9		4	4	2	2	2		30
1 月	延人数	132	6	11	22	10		29	8	5	8	3		30
	人数	74	3	1	13	3		29	3	5	7	3		7
	回数	76	3	11	14	10		5	3	1	2	1		26
2 月	延人数	127	4	13	4	10		32	13	9	8	5		29
	人数	63	2	1	1	3		32	3	5	6	5		5
	回数	64	2	13	1	10		4	5	2	2	1		21
3 月	延人数	165	6	13	33	9		26	12	10	8	16		32
	人数	75	3	1	13	3		26	3	5	6	8		7
	回数	89	3	13	20	9		4	5	2	2	3		28
合 計	延人数	1,899												
	人数	951												
	回数	1,078												

9-2 ボランティア登録状況

活動内容	人数	団体名
施設環境整備	1	個人
理美容	2	個人
清拭・洗濯たたみ	14	山王ワックラブ くちなし ひまわり 個人
生活補助	3	個人
傾聴	3	やまゆり 個人
陶芸クラブ	5	つちぶえ
音楽クラブ	1	個人
茶道クラブ	3	個人
囲碁・将棋	3	個人
歌・演奏	2	うたごえ こすもす会
生花クラブ	5	さくら草
その他（誘導・散歩等）	9	チューリップ 個人

10 行事・活動等実施状況（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

月	行 事 内 容
4 月	4 日 特養・ショートお花見茶会 21 日 あいとひかりのコンサート
5 月	24 日 特養春の日帰り旅行 26 日 内部事業監査
6 月	17 日 特養家族懇談会 28 日 特養春の日帰り旅行
7 月	29 日 特養・ショート納涼祭
9 月	3 日千葉県集団指導（特養 短期入所） 16 日 敬老会
10 月	6 日愛光秋まつり 10・24 日 秋のさんま 12 日 21 日佐倉市市民防災訓練
11 月	5 日 寿司キャラバン
12 月	14 日 消防設備点検 16 日 特養家族・第三者委員との懇談会 特養・ショート入居者忘年会
H31	
1 月	1 日 特養獅子舞 1～3 日
3 月	13 日 佐倉市居宅介護支援事業所集団指導 20 千葉県障害福祉集団指導 19 日 第三者委員との懇談会 28 日 AIKOH ともいきマルシェ
	特養 誕生会（随時） ボランティア演芸会（1 回／月） 生花クラブ（2 回／月） 茶道クラブ（2 回／月） 音楽クラブ（2 回／月） 陶芸クラブ（2 回／月） 買物・個別出（随時） 外出（3 回／月） デイサービス 誕生会（毎月） ボランティア演芸会（毎月 2～3 回） 居宅介護支援 介護者のつどい（年 8 回開催） 南部包括共催 れんぞカフェ（12 回／年）

IV. 地域福祉事業部

概況

スローガンを、「地域づくり 子育ての目くばり気くばりから」とした。児童センターは家庭、学校に加えて「第三の居場所」として、学童保育所は「家庭に代わる生活の場」としての機能を、可能な限り発揮できるようにアイデアを出し合いながら児童の健全育成に努めてきた。

指定管理期間の最終年に当たり、継続して指定管理を受諾するべく更新手続きを行った。新たな計画では、「子どもの健全育成のため、時間外保育は行わない」という提案をしたが、選定委員からは、開所時間の延長や、弁当の提供等、保護者の就労支援の観点から、検討を継続するようにとの意見を附した上で、当法人が選定された。なお、他の圏域では2箇所事業者が交代をすることとなった。

南部児童センターの年間利用者総数が、昨年度対比 105.1%の 31,986 名であった。一日平均 104.2 人、稼働日数は 307 日であった。特徴的なこととして、幼児対象の事業を年齢別に展開したことにより、前年度対比 110.4%であった。保護者の来館も 112.1%と伸びがあった。中高生の来館が若干減少したものの、小学生の来館者が 105.4%となり、全体として来館者増につながった。

学童保育は、根郷小学校区と寺崎小学校区、和田小学校区において、過密化が顕著であった。和田学童保育所は、公民館の空室を借用するなどしてしのぐと共に、一時利用を停止した。山王学童保育所は、利用者の減少傾向にあり、弥富学童保育所との逆転現象が起きた。夏休みなどの長期休業中だけの利用者は、根郷学童の慢性的な過密状態を避けるかのように、山王学童への入所を希望する方もいた。

○サービス目標

子どもの居場所づくりの一環として、山王地区における「地域食堂ともいき」を開設した。根郷地区における「根っこ食堂」には、法人後援会から資金の助成および近隣の事業所から人材の派遣もしてきた。子育て相談窓口として、「子育てコンシェルジュ」の定期的な相談会に加え、南部保健センターや地域の子育て支援者等の協力を得ながら、利用者ニーズに沿った企画を開催した。小中学生健全育成事業として、学校や各関係機関と連携して、不登校児の居場所づくりにも取り組んだ。さらに、休館日である「こどもの日」や長期休業中の「山の日」などの祝日に加え、近隣小中学校における振替休業日も開館し、子どもたちの居場所づくりに務めた。臨時開館日には、「かき氷」や「ポップコーン」などの無償提供や各種イベントを企画し、来館しやすい状況づくりにも努めた。

○人材育成目標

放課後児童支援員認定資格研修の受講に務めた。加えて、常勤職員を中心に、防火管理者甲種の資格取得にも務めた。また、「リスクマネジメント研修」は、全体研修に位置づけて悉皆研修とした。その他、市や児童健全育成推進財団主催の研修会等に積極的に派遣した。

○地域交流、世代間交流(異年齢交流)

事業部内の連携においては、包括支援センターの協力を得ながら児童センターボランティアグループ「スマイルクラブ」を中心として「認知症サポーター養成講座」を開設した。一般市民も対象とした研修会であり、受講終了後は、高齢者施設への訪問も行った。また、地域福祉センターとの共同企画事業として、七夕会やクリスマス会などを開催した。地域の高齢者と子ども、保護者が、あそびをとおして自然にかかわり合おうという企画であったが、場の共有は図れたものの、「一緒に活動を楽しむ」というところまでは届かず、今後課題が残った。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

顧客の観点から、「地域共生社会」事業の検討を進めるとともに、地域福祉事業部間の連携を図り、高齢者と乳幼児の事業や、小学生以上を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開設したりしてきた。地域貢献活動の推進について、職員への意識も徐々に浸透し、多方面から利用者ニーズの情報が寄せられるようになってきた。今後は、ボランティアの養成及び活用が課題となっている。

（所長 吉田 信之）

Ⅳ－１ サービスの利用状況(2018.4.1～2019.3.31)

Ⅳ－１－１ 佐倉市立南部児童センター

(1)施設利用状況

(人)

	開館日数	幼児	小学生	中学生	高校生	一般	合計
年間利用数	307	9,695	7,878	2,395	565	11453	31,986
一日平均		31.6	25.7	7.8	1.8	37.3	104.2

(2)図書貸出状況

(人)

	開館日数	延べ利用者数	貸出冊数	新規登録者数
年間利用数	307	1,052	4,196	114
一日平均		3.4	13.7	0.4

(3)事業実施状況(延べ人数)

区分	事業の名称	実施回数	参加人数	事業内容
子育て支援に関する業務	①子育て中の親子へ遊び場の提供業務			
	ひよこタイム	150	6,455	スキンシップあそび・わらべうたあそび・絵本読み聞かせ
	ゆりかごタイム	20	756	スキンシップあそび・身体測定・母親同士の交流・保健師・栄養士による相談
	ペンギンちゃんタイム	2	377	スキンシップあそび・わらべうたあそび
	うさぎちゃんタイム	18	545	2歳以上 月2回毎水曜日(8月を除く)
	くまちゃんクラス	20	1,123	2・3歳児親子遊び 第2 第4火曜日
	さくらんぼちゃんタイム	12	93	多胎児保護者、妊婦の交流、情報交換の場
	ひよこランド	1	38	くまちゃんクラスの参加親子によるお店屋さんごっこ
	ひよこスペシャル	2	127	家族でひよこタイムに参加し、あそびの楽しさの体験・スマイルクラブとの交流
	幼児親子あそび	2	57	講師による親子あそびの紹介と実践
	おはなし会	11	249	司書による絵本読み聞かせ・わらべうた遊び
	乳幼児遠足 (佐倉草ぶえの丘)	1	33	季節の自然に触れながら、母親同士の交流
	幼児親子バス遠足	1	36	季節の自然に触れながら、母親同士の交流(アンデルセン公園)
	幼稚園説明会	1	66	南部地区近隣幼稚園の職員を招いて説明会
	おはなしキャラバン	1	70	人形劇、大型絵本、パネルシアター、絵本の鑑賞
	県民の日あそびのフェスティバル	1	253	色々なあそびを通して交流を深める。高齢者クラブと連携
	あそびりんぴっく	1	34	スマイルクラブによるあそびのブース
	②子育て相談業務			
	誕生会＆大きくなったかな？	6	351	お誕生児に手形・缶バッジプレゼント・身体測定
	子育てコンシェルジュ	12	48	子育てコンシェルジュを招いて、子育ての個別相談・支援業務
	③子育てサークル等の支援業務			
	子育てサロン (はっぴいランチ)	11	224	昼食を摂りながら、母親同士の交流を深めリフレッシュする場

遊びを通しての体力増進指導業務		幼児体操教室	2	71	講師による親子運動あそびの実践
		小学生体操教室	4	84	ゲームあそびを通して体力作り。跳び箱、ボール等を使った運動あそび
児童の健全育成に関する業務	①行事活動業務	水風船大会	1	28	水風船大会を通しての交流
		おばけやしき	1	226	スマイルクラブが企画・運営。地域との交流
		愛光秋まつり	1		障害者、高齢者との交流
		あそびリンピック	1	34	スマイルクラブによるあそびのブースを展開
		臨時開館	6	334	学校の振替休業日における、小学生の居場所づくり
		放課後Xデー (スポーツ大会)	5	150	集団あそびをととして、異年齢の交流を図る。ドッジボール、スポーツ鬼ごっこ等
	②小学生を対象とする活動業務	こわいおはなし会 & ミニ工作	1	18	司書による怖い絵本の読み聞かせ、素話。スライム作り
		将棋教室	2	7	駒の名前や動かし方、ルールなどを覚えて対局
		卓球大会	2	25	色々な学校・学年の友だちとの対戦し交流を図る
		あそびマイスター	8	96	あそびの名人認定
		生け花教室	6	63	伝統文化の体験
		チャレンジ工作	2	37	プラ板でのキーホルダー制作など
		小学生バス遠足	1	30	ギャラクシティや日本未来科学館、鉄道博物館などに行き、友だちとの交流を図る
		将棋交流戦	1	8	色々な学校・学年の友だちとの対局
		中高生バスケット大会	1	8	参加希望者による3対3のミニゲーム
		チャレンジ工作	1	8	スノードームやクリスマスリースなどの工作
	③中高生を対象とする活動業務	スマイルクラブ (ボランティアチーム)	22	238	おばけやしきの企画・運営。ごみゼロ運動参加。老人施設訪問などのボランティア活動
		ボランティア交流会	1	12	こんにやく作り体験 (根郷小学校区まちづくり協議会協力)
	④ボランティア、サークル支援活動業務	子育て応援サポーター (ボランティア)	通年	140	はっぴいランチ、ほっぺちゃんタイムでの幼児見守り・
		「ゴミゼロ運動」	1	9	根郷小学校区まちづくり協議会との連携
		たなばた飾り付け	1	39	南部地域福祉センターとの連携
	⑤地域交流・世代間交流活動業務	赤い羽根共同募金活動等	1	16	佐倉市社会福祉協議会との連携
		高齢者施設訪問	6	68	敬老会やオレンジカフェなどで、はちす苑やときわの杜などの高齢者施設との連携
		赤い羽根共同募金活動等	1	16	佐倉市社会福祉協議会との連携
		高齢者施設訪問	6	68	敬老会やオレンジカフェなどで、はちす苑やときわの杜などの高齢者施設との連携
		共同募金活動	1	16	佐倉市社会福祉協議会との連携
		根郷福祉まつり	1	700	根郷社会福祉協議会や各種団体との連携
		認知症サポーター養成講座	1	14	南部包括支援センターとの連携
		季節の制作	3	110	南部地域福祉センターとの連携・共同企画
		認知症サポーター養成講座	1	14	南部包括支援センターとの連携

(4)南部児童センター 主な行事実施状況

月	行事内容
4月	小学校振替休業日 臨時開館(4/23), 指定管理公募見学会(4/25)
5月	子どもの日 臨時開館(5/5), さつまいもの苗植え/落花生の種まき(5/22) スマイルクラブ(ゴミO運動)(5/27), 運動会振替休業日 臨時開館(5/28)
6月	運営委員会(6/11)
7月	幼稚園説明会(7/14), おばけ屋敷(7/31)
8月	山の日 臨時開館(8/11)
9月	夏休み明け 臨時開館(9/3), RUN 伴 スマイルクラブ参加(9/8)
10月	幼児バス遠足(アンデルセン公園)(10/19)
11月	Meeting room 改修工事(11/23, 24)
12月	クリスマスコンサート(12/16), 認知症サポーター養成講座(12/16)
1月	臨時開館(1/7), 小学生書き初め展(1/15~2/3)
2月	佐倉市ふれあい作品展, 盲学校作品展, 小学生バス遠足(ギャラクシティ)(2/24)
3月	運営委員会(3/11), ともしきマルシェ(3/28)

IV-1-2 学童保育所

(1)登録・利用状況(開所日数292日)

	定 員	登録者数 (延べ人数)	延べ利用者数 (年間総数)	一日平均 利用者数
根 郷 学 童 保 育 所 (対象学年1年~3年)	55	849	13,040	44.6
第二根郷学童保育所 (対象学年1年~6年)	60	416	5,318	18.2
和 田 学 童 保 育 所 (対象学年1年~6年)	15	331	5,320	18.2
弥 富 学 童 保 育 所 (対象学年1年~6年)	65	205	2,865	9.8
寺 崎 学 童 保 育 所 (対象学年1年~3年)	60	768	11,240	38.4
大崎台学童保育所 (対象学年1年~6年)	30	416	5,275	18.0
山 王 学 童 保 育 所 (対象学年1年~6年)	50	255	3,716	12.7
全学童計	335	3,240	46,774	160.1

(人)

(2) 利用料減免対象者(年間延べ人数)

	A	B	C	D
根郷学童保育所 (対象学年1年～3年)	9	82	12	179
第二根郷学童保育所 (対象学年1年～6年)	0	12	0	20
和田学童保育所 (対象学年1年～6年)	0	24	0	96
弥富学童保育所 (対象学年1年～6年)	0	24	0	48
寺崎学童保育所 (対象学年1年～3年)	30	24	26	143
大崎台学童保育所 (対象学年1年～6年)	0	12	24	29
山王学童保育所 (対象学年1年～6年)	0	0	0	32

(人)

凡例 A 生活保護受給世帯(減免額 全額)

B 前年度の市民税所得割課税額が非課税のひとり親世帯若しくは在宅障害者のいる世帯
(減免額 全額)

C 前年度の市民税所得割課税額が 10,000 円以下の世帯(減免額 1/2)

D 兄弟入所(減免額 1/2)

(3) 学童保育所の主な行事

月	根郷学童	第二根郷学童	和田学童	弥富学童	寺崎学童	大崎台学童	山王学童
4月	ウエルカム パーティー	歓迎会 学童の説明会	ウエルカム パーティー	歓迎会 畑づくり/種まき	ようこそ寺崎学童へ	リフレッシュ計画	ウエルカム パーティー
						地震避難訓練	ダンボールハウス
5月	スライム作り	マンカラ大会	シャボン玉	シャボン玉遊び	作ってみよう	鯉のぼりだらけ	スライム作り
	不審者対応訓練		地震避難訓練	不審者対応訓練			
6月	室内ゲーム大会	スライム作り	折り紙で飾ろう	つくって遊ぼう	ダンボール 王国 2018	パズル&ゲーム	シャボン玉遊び
			不審者対応	七夕飾り			
7月	七夕会	水鉄砲大会	水遊びを楽しもう	お楽しみ会 紙漉き	寺崎縁日	夏休みのしもう会 名人養成講座	紙漉き 縁日
8月	夏の遊び	おばけやしき	怖いお話会	水鉄砲作り	水遊び	名人養成講座 ゾンビハウス	フリーマーケット けん玉遊び
9月	制作	縁日	お宝探しゲーム	ミニ運動会	ミニ運動会	ダンボールアート	ウォークラリー
	地震避難訓練	火災避難訓練		地震避難訓練			地震避難訓練
10月	スポーツ大会	秋祭り	ドッジビー大会	宝探し プラ板作り	音楽イベント	変身しましょう	仮装大会
	愛光秋まつり						
11月	秋の遊び	スポーツ大会	和田スーパー マーケット	的あてゲーム 手洗いうがい講習	寺崎探検隊	リフレッシュ 計画 Pert II	山王っ子 フェスティバル
						火災避難訓練	スノードーム作り

12月	お楽しみ会	お楽しみ会	ギネス大会	お楽しみ会制作	お楽しみ会	冬休みたのしもう会 門松作り	音楽会 子ども忘年会
1月	正月遊び	正月遊び	卓球大会	お正月遊び	お正月遊び選手権	カルタ⇒凧⇒ コマ	凧揚げ
2月	節分	節分	手芸を楽しむ		ドッジビー大会	ホットハート展	節分
	火災避難訓練			火災避難訓練			火災避難訓練
3月	お別れ会	お楽しみ会	お楽しみ会	お別れ会	ありがとう3年生	ありがとう！ またネ	お別れ会
		地震避難訓練					

Ⅳ－１－３

(1) 職員状況

	2018.4.1 現員数	2018.4.1～2019.3.31				2019.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総数	51(37)	16(14)	3(0)	0(0)	25(16)	55(45)
所長	1(0)	・	・	・	・	1(0)
主任	1(0)	・	・	・	・	1(0)
インストラクター	8(6)	・	・	・	・	8(6)
学童支援員	24(16)	7(7)	・	・	21(14)	23(19)
学童支援員補助	13(13)	6(6)	・	・	2(2)	18(18)
事務員	2(0)	2(0)	・	・	2(0)	2(0)
用務員	2(2)	・	・	・	・	2(2)

(2) 職員の研修状況

全 体 研 修					
月日	研修名	人数	月日	研修名	人数
12./10	リスクマネジメント研修(悉皆)	47			

学童支援員資格認定研修会					
月日	研修名	人数	月日	研修名	人数
7/9,10 19,20	第1期受講者	1	10/4,10 19,25	第2期受講者	5

施設内研修					
月日	研修名	人数	月日	研修名	人数
4/2～ 4/4	新任職員研修	12	11/26	中堅職員リフレッシュ研修	2

外 部 研 修					
月日	研修名	人数	月日	研修名	人数
4/17	児童館連絡協議会第1回児童厚生員等研修会	3	11/14	障害児保育研修	13

6/12	千葉県放課後児童支援員等資 質向上研修	3	1/22	児童厚生員研修	3
5/18	改正児童館ガイドラインとこれか らのあり方	1	2/3	保育の思いを伝える手づくりシアタ ー	1
6/17	学童支援員学校	2	2/27	低学年向け運動遊び	12
6/28	児童館連絡協議会 第2回児童 厚生員研修	3	12/6～ 12/7	甲種防火管理者新規講習	3
7/5	保育士・学童インストラクター向 け研修会	7	12/25	児童虐待防止ネットワーク研修	1
7/10	学童職員研修会	11	1/9	児童虐待防止研修	1
7/18	千葉県放課後児童支援員等資 質向上研修	2	1/22	児童館連絡協議会 第4回児童厚 生員研修	2
7/23	サムディクラブ夏の講習会	1	2/3	児童健全育成リーダー養成講座	1
10/12	千葉県放課後児童支援員等資 質向上研修	3	2/13	働き方改革関連法セミナー	1
10/29	感染症対策訓練研修	1	2/24	千葉県学童保育指導員学校	1
11/13	児童館連絡協議会 第3回児童 厚生員研修会	2	2/27	学童保育職員研修	12

(3) 実習生受け入れ状況

期間	養成機関名	実施対象資格等	人数
実施希望なし			

概況

当年度のスローガンは『地域の一員として考え、共に取り組む』であった。法人の共生プロジェクトともリンクするが、当年度はねっこの会が主催している「ねっこ食堂」、法人と山王住民で開催している「地域食堂ともいき」の支援を行った。2つの食堂が安定して展開し、地域資源として成長するように今後も協力していきたい。

【アシスト】

佐倉市障害者総合支援協議会生活支援部会お風呂（入浴検討）部会の取り組みでは、部会や佐倉市社会福祉施設協議会（以下「施設協」）から要望を提出し、地域生活支援事業における移動入浴サービスの回数変更につなげることができた。高齢者施設の入浴機械を利用した入浴支援については、施設協、佐倉市の社会福祉法人の未来をつくる協議会で取り組みの説明を行った中で、市内の特別養護老人ホームから問い合わせをいただいた。共に取り組んでいくことができるように、次年度も継続していきたい。

相談支援については、新たに立ち上がった臼井・千代田圏域の事業所の相談支援専門員の実習に協力した。地域の大事な資源として共に歩んでいけるように、今後も継続して支援していきたい。

【南部地域包括支援センター】

前年度に引き続き、地域の課題抽出に向けた地域ケア推進会議に取り組んだ。担当圏域が広いいため、1年間で全ての地域で地域ケア推進会議を展開することは困難である。3年間で圏域内の会議を終えることができる計画で動いている。

3年目となった南部児童センターのスマイルクラブとの連携については、当年度はRUN伴さくら（認知症の人や家族、医療福祉関係者、地域住民が一緒にタスキをつなぎ日本を縦断するイベント）に協力した。RUN伴さくらでは、南部児童センターだけでなく、ボランティア用のバンダナ作成ではよもぎの園が協力してくれ、当日は法人内障害者入所3施設から利用者・職員がエントリーし出走するなど、初めての取り組みでありながらも種別を超えた協力・参加を得ることができた。

南部圏域訪問介護支援事業所連絡会は名称を「ヘルパーの和さくら」に決め、主体的な活動に移行している。グループホームや通所生活介護事業所の組織化に向け検討会に取り組んだ。

○サービス目標

【アシスト】

【南部包括】

計画相談・モニタリング件数		介護予防教室（としとらん塾）12回→実績	12回
320件→515件		介護者教室	4回→4回
認定調査	60件→135件	予防プラン給付件数	月90件→58件
		地域ケア会議	年3回→4回

○地域連携目標

Aikoh フォーラムについては、定番となった法人理事の講演（成年後見関連）を実施した。事例をふまえた講演内容には、専門職だけでなく地域住民も深い関心を寄せ参加していた。

○業務遂行目標

事業部全体として取り組むべき課題・事業について、少しずつ職員の意識も高まっており、積極的な参加が見られるようになった。引き続き取り組むことで、事業部内の連携もスムーズになると感じている。

○人材育成目標

合同事例検討会については、新たな事業所の参加もあり、広がってきている。次年度は計画に基づき定期的な開催をしていきたい。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019年度）

イベント企画 目標2回/年 → 実績 2回/年

（所長 近藤 美貴）

1 事業の実績

【アシスト】

1-1 業務内容

- 基幹相談支援センター事業並びに業務
 - ①総合的・専門的な相談支援の実施
 - ②地域の相談支援体制の強化の取組
 - ③地域移行・地域定着の促進の取組
 - ④権利擁護・虐待の防止
- 生活全般の相談
- サービス利用に関する情報提供等の福祉サービスの利用援助
- 情報提供、相談、アセスメント、サービス等利用計画の作成、サービス調整、モニタリング、個別ケース会議 等
- サービス事業者との連絡調整、担当者会議の開催
- 利用者負担の上限額管理
- 社会資源を活用するための支援や各種支援施策に関する助言・指導等
- 社会生活力を高めるための支援や権利の擁護のために必要な援助
人間関係、健康管理、金銭管理等
- ピアカウンセリング
- 専門機関の紹介
- 総合支援協議会の運営
- 《社会資源の改善・開発に向けた調整》
 - ①相談支援事業をはじめとするシステム作りに関し、中核的役割を果たす協議の場
 - ②相談支援事業者、福祉サービス事業者、保健・医療、学校、企業、高齢者介護等の関係機関、障害当事者団体、権利擁護関係者、地域ケアに関する学識経験者等で構成する。
- ③主な機能
 - 福祉サービス利用に係る相談支援事業の中立・公平性の確保
 - 困難事例への対応の在り方に関する競技・調整
 - 地域の関係機関によるネットワーク構築等に向けた協議
 - 地域の社会資源の開発、改善
 - 権利擁護等の分野別のサブ協議会等の設置、運営
 - その他（市町村障害福祉計画の作成・具体化に向けた協議など）
 - 専門的な相談支援等を要する困難ケース等への対応
 - 相談支援事業者間の連携

1－2 相談形態別利用状況

(1) 相談者実人数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
4月	162	26	1	52	96	15	4	3
	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	171	28	0	55	99	16	4	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	169	22	1	50	92	26	4	3
	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	182	28	0	67	97	21	5	4
	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	179	30	0	64	88	20	6	5
	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	186	33	1	57	102	16	5	7
	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	186	32	0	62	100	18	3	9
	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	182	28	0	62	103	17	4	5
	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	183	29	1	53	101	19	2	11
	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	186	32	2	53	98	17	4	10
	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	182	31	1	55	99	18	3	6
	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	189	29	5	65	93	18	4	9
	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2,157	348	12	695	1,168	221	48	80
	0	0	0	0	0	0	0	0

* () 内は情報提供のみにとどまった人数

(2) 支援方法件数

	訪問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他
4月	69	10	22	557	11	9	586	16
5月	77	16	28	572	13	6	584	21
6月	78	17	15	553	9	7	473	25
7月	68	13	24	593	7	6	554	11
8月	71	26	18	559	11	6	547	12
9月	52	24	26	491	9	9	543	10
10月	75	19	12	617	7	6	587	16
11月	70	11	26	446	8	10	508	59
12月	65	18	14	487	20	12	501	44
1月	68	25	20	603	4	7	588	52
2月	56	11	23	530	10	13	574	46
3月	70	21	23	483	7	9	632	49
計	819	211	251	6,491	116	100	6,677	361

(3) 支援内容数

	の福祉サービス等に関する支援	障害や症状に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	日程調整等軽易な相談等	計
4月	515	122	211	216	24	133	42	72	43	10	9	950	140	2487
5月	483	162	172	219	39	170	90	66	51	16	22	1085	0	2575
6月	397	142	113	202	16	142	37	72	43	10	22	903	103	2202
7月	425	132	134	220	28	121	35	88	28	6	15	994	91	2317
8月	450	143	160	192	26	142	31	93	37	6	3	941	87	2311
9月	377	84	129	149	18	106	30	47	21	12	1	892	109	1975
10月	433	117	131	161	23	118	36	66	37	9	11	940	940	3022
11月	422	94	97	155	17	145	25	67	22	9	2	870	139	2064
12月	381	85	113	131	20	127	40	97	28	3	6	934	147	2112
1月	412	99	202	196	16	100	28	72	21	3	10	1062	174	2395
2月	388	96	119	175	23	133	36	68	29	9	8	1040	169	2293
3月	475	74	141	149	8	118	13	48	21	5	11	1064	165	2292
計	5,158	1,350	1,722	2,165	258	1,555	443	856	381	98	120	11,675	2,264	28,045

(4) 障害支援区分認定調査人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
認定調査数	13	13	6	11	13	8	16	13	8	11	12	11	135

(5) 計画相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用計画	30	15	15	25	13	7	23	15	25	15	5	16	204
モニタリング	22	29	31	22	22	27	44	23	10	15	31	35	311
計	52	44	46	47	35	34	67	38	35	30	36	51	515

【南部包括】

１－１ 介護予防ケアマネジメント事業

予防給付（要支援認定者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
直営件数	53	56	55	55	55	57	60	62	62	62	62	59	698
委託件数	214	218	218	214	213	223	223	216	211	209	209	212	2580
計	267	274	273	269	268	280	283	278	273	271	271	271	3278

１－２ 総合相談・権利擁護・ケアマネジメント支援

	実数	延数
相談件数	572	2174

１－３ 方法別相談延べ件数（総合相談のみ）

	平日		土・日	総数	%
	業務時間中	業務時間外	祝日		
来所	207	0	25	232	38
電話	312	3	30	345	57
その他	23	0	9	32	5
合計	542	3	64	609	100

１－４ 内容別相談件数（重複有）

内容	件数	内容	件数
１．ねたきり高齢者	2	11．権利擁護・成年後見制度	10
２．ひとり暮らし高齢者	49	12．消費者被害	0
３．認知症高齢者	58	13．高齢者の虐待（疑いも含む）	13
４．介護に関する事柄	85	14．施設入所	25
５．介護・福祉サービス	284	15．介護方法（技術）	0
６．保健・医療	26	16．やむを得ない事由による措置	0
７．精神的支援	10	17．苦情全般	1
８．生活支援	18	18．家族間調整	7
９．状況確認	38	19．個人の悩み事	10
10．関係機関調整	8	20．その他	35

2 運営管理

2-1 職員状況

	2018. 4. 1 現員数	2018. 4. 1～2019. 3. 31				2019. 3. 31 現員数
		採用	異動 入	異動 出	退職	
総 数	13 (1)			3	1 (1)	13 (1)
所長 (兼務)	1					1
【アシスト】 管理者 (兼務)	1					1
相談支援専門員	5 (1)					5 (1)
【南部包括】 管理者 (兼務)	1					1
主任ケアマネジャー	2		1			2
社会福祉士	3		1		1	3
看護師	1					1
ケアマネジャー	1					1
生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員兼務)	1					1

※数字は総数で表示し、うちパート職員の数()内に表示。

網掛けは現員数にカウントしない。

2-2 職員研修の状況

法人研修			
月・日	研修名	月・日	研修名
2/15	法人労務管理者研修	3/2	職員実践発表会
施設外			
月・日	研修名	月・日	研修名
6/23	CSK 総会・研修会(ア)	6/27	生活支援体制づくりセミナー
7/1	認知症カフェフォーラム	7/20	安全運転管理者研修
7/27	佐倉市社会福祉協議会法人後見支援員研修(ア)	7/31	地括Ⅰ型研修会(ア)
8/9～10	地域包括支援センター初任者研修	8/25	ケアプラン研修
8/29	佐倉市障害支援区分認定調査員研修(ア)	9/7	キャラバンメイト研修
9/13～14	地域包括支援センター初任者研修	10/3	保健所研修(ア)
10/18	難病研修(ア)	11/16	地域包括ケアシステム勉強会
11/26	キャラバンメイト研修	11/23～24	社会福祉士実習指導者研修
12/12	医療介護研修	12/12	CM協研修
12/18	コース別研修(ア)	12/21	地域ケア会議研修
12/22～23	認知症初期集中研修	1/17	音楽レク研修

1/25	いんば圏域福祉関係者合同研修会	2/2～ 3	相談支援従事者コース別研修 (医ケア)(ア)
2/17	千葉県地域福祉フォーラム	2/24	千葉県ケアマネ協研修
3/16	ヘルパーの和さくら研修会		
施設外(複数回研修)			
研修名		月・日	
薬剤師研修		7/12・17・22	
相談支援従事者コース別研修(精神)(ア)		8/1・7	
千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修		9/25・12/15～16	
主任ケアマネ研修		10/1・16・27・11/5・24・12/2・2/9・21・3/2	
相談支援従事者現任研修(ア)		10/5・22・24	

※(7)…アシスト職員対象研修

2-3 会議等(定例会議)

施設内		施設外	
会議名	開催数	会議名	開催数
アシスト会議	週1回	【アシスト】	
合同会議	月1回	佐倉市障害者総合支援協議会	年2回
包括会議	月2回	佐倉市障害者総合支援協議会運営委員会	年2回
部内会議	月1回	生活支援部会	随時
		お風呂(入浴検討)部会	月1回
		住まい(GH)部会	隔月
		佐倉市障害福祉関係機関連絡会	年2回
		佐倉市相談支援事業所事例検討会	月1回
		印旛メンタルサポートネットワーク連絡会	隔月
		中核・相談事業所合同会議打ち合わせ	年2回
		〃 研修会	年1回
		【南部包括】	
		管理者会議	月1回
		5包括事例検討会	月1回
		生活支援コーディネーター定例会	月1回
		認知症地域支援推進員会議	随時
		認知症初期集中支援チーム員会議	月1回
		民児協定例会	月1回
		そよ風運営推進会議	随時
		ミック運営推進会議	随時
		マーチン運営推進会議	随時
		地域活動計画策定委員会	随時

		※ヘルパーの和さくら ※通所事業所連絡会 ※グループホーム連絡会	随時 随時 随時
--	--	--	----------------

3 南部地域福祉センターと南部児童センターの協働事業報告

3-1 南部地域福祉センター

- ・ヨガ教室 毎週金曜日 17:45～19:15
- ・自力整体 第3・4水曜日 17:45～19:15
- ・音楽体操 毎月第2金曜日 11:00～12:00
- ・Aikoh フォーラム 2017 「高齢の方や障害のある方が安心して地域で暮らしていくための知識～成年後見制度～」

3-2 南部児童センター

- ・スマイルクラブ認知症サポーター養成講座
- ・スマイルクラブ×オレンジカフェはちす

概況

「心を寄せてともに目指そう豊かな地域」をスローガンに、地域住民との関係を大切にセンターの事業の運営に取り組んだ。現在、厚生労働省が推進している「地域共生社会の実現」「地域包括ケアシステムの構築」のためには、まさしく南部地域福祉センターが南部地域の福祉の拠点となり、地域へ向けての事業展開をしていくことが求められている。具体的には、「共に支える、共に生きる」愛光ともいき事業の推進であり、サロン、ボランティアセンター、地域食堂、世代間交流事業他、多様な事業の活性化に努めた。また、地域住民が気軽に立ち寄り、ほっとできる場所として、施設の老朽化が否めない中、環境美化を大切に、清潔感を保つよう心掛けた。

○数値目標 利用実績 68,136 人（前年 61,189 人） 前年度比 111%

○サービス目標

・交通空白地域に対する交通手段の確保と地域福祉センターの利用向上を図る目的で開始した「愛光たすけあい移送サービス」であったが、利用実績は少なく、当年度は 6 名の利用であった。そのため、マイクロバスによる和田・弥富コースでの事業は休止とした。今後については、一人でも多くの地域住民がセンターに来館できるための運行を試み、事業展開を図っていくことにした。

・9 月より愛光ともいきプロジェクトの一つである「サロン・ド・ともいき」がスタートした。毎週金曜日の午前に実施。脳トレ、介護予防体操、ゲームなどで楽しみ、体を動かした。開催回数は 24 回、実施利用人数 12 名、延べ利用者数 151 人、ボランティア述べ人数は 117 人であった。

・11 月、はちす苑千田ホールにて「地域食堂ともいき」をプレ開催し、その後 3 月より毎月第 3 水曜日に行うこととなった。約 8 名のボランティアの協力も得られ、50 名程度の地域住民が参加している。

・児童センターとの合同事業である「世代間交流事業」では、季節に応じて、それぞれ「たなばたランチ」「クリスマスランチ」「ひなまつりランチ」を開催した。地域福祉センターの利用者（高齢者）と児童センターの幼児及び家族との交流に繋がった。

○地域連携目標

・ボランティア地域デビュー講座「傾聴講座」を 10 月に 2 回コースで開催した。受講者は、2 日間で計 18 名と少なかったが、和やかな雰囲気の中でロールプレイに取り組めた。また、「ボランティア体験講座」では、はちす苑で行っている清拭たたみのボランティアを見学、その後傾聴ボランティアの体験を行った。講座の参加者は 5 名ではあったが、参加者からは実際に高齢者施設を見学でき、傾聴の体験ができたのでよかったとの話が聞かれた。

・根郷福祉まつりが 11 月に当センターを会場に開催された。夏まつりから秋の開催に変わって 2 回目、根郷地区社会福祉協議会によると来場者数は関係者及びスタッフ合わせて約 500 名であったとのこと。例年に比べると少し来館者の人数が少なかった。

○業務遂行目標

・12 月定期利用団体との懇談会が研修室で行われた。当年度は 23 団体 25 名の出席があった。広報活動、ピーアールの仕方として、より公共に見えるよう工夫をされたら良いのではないかと、というアドバイスを頂いた。

・日頃の活動の成果を披露する機会として 10 月に南部文化祭、3 月に教養教室発表会を開催した。文化祭は 2 日間で 199 名、発表会は 142 名の参加であった。

・年度末には、法人で取り組んでいる「AIKOH ともいきプロジェクト」のひとつである「ともいきマルシェ」を開催。南部地域福祉センターを使用し、さまざまな世代で楽しめる場となった。

○第Ⅲ期中期経営計画達成状況（2017～2019 年度）

・合同イベントの企画 年 3 回

・アクティブシニア事業他、音楽体操等を実施。

（所長 横川民夫）

【南部地域福祉センター】

1-1 業務内容

○事業並びに業務
1. 各種相談事業
2. 高齢者交流事業
3. ふれあいサロン事業
4. ボランティアセンター運営事業
5. 文化祭・発表会等(イベント)事業
6. 大型バス運営事業
7. 愛光たすけあい移送サービス
8. 浴室運営事業
9. その他施設管理運営業務

1-2 実績

(1) 利用状況(開所日数307日 延べ65,150人)

A棟	浴室	大広間	作業室	教養 娯楽室	会議室	健康 談話室	陶芸室	中庭	健康 相談
当年	2,439	9,704	2,424	4,094	6,399	2,287	2,069	2,051	1,584
前年	3,043	8,892	1,731	5,594	5,339	3,022	1,507	2,502	1,742
B棟	研修室	和室	ボランティア センター	相談室	愛光たすけあい 移送サービス				
当年	23,840	6,460	1,477	316	6				
前年	19,443	3,399	1,567	374	26				

(2) 大型バス運行利用状況

利用台数	79 台
利用人数	2,986 人

(3) 高齢者教養教室の開催

教室の種類	開催日	講師名	受講者数
カラオケ	第2第4金曜日	大谷 慎 氏	30 人
踊り	毎週木曜日	藤塚早苗 氏	11 人
民謡	第1第3木曜日	會田和則 氏	15 人
尺八	第2第4木曜日	内田政見 氏	9 人
大正琴	第2第4水曜日	斉藤玲子 氏	11 人
書道	第1第3火曜日	長尾左保里氏	14 人
いけばな	第2第4火曜日	羽根井和子氏	9 人
太極拳	第1第3水曜日	塚本景次 氏	43 人
自力整体	第1火曜日・第3土曜日	秋田美智子氏	139 人
詩吟	第1第3土曜日	川端恵子 氏	13 人

(4) 講座、イベント

講座・イベント名	回数	利用人数
サロン事業	18	519
高齢者交流事業(教養教室のみ)	256	3,761
趣味の教室	25	165
地域福祉のための講座	18	155
カラオケ発表会	1	49

2 運営状況

2-1 職員状況

	2018.4.1 現員数	2018.4.1～2019.3.31				2019.3.31 現員数
		採用	異動入	異動出	退職	
総 数	10(8)	1			0	13(11)
所長	1	0	1	0	0	1
事務員	1	0	0	0	0	1
管理員	4(4)	1(1)	0	0	1(1)	5(5)
保健師	2(2)	1(1)	0	0	1(1)	3(3)
用務員	2(2)	1(1)	0	0	1(1)	3(3)
ボランティアコーディネーター(1)	0	0	0	0	0	0

※数字は総数で表示し、うちパート職員の数は()内に表示。

2-2 職員研修の状況

施設内					
月・日	研修名	人数	月・日	研修名	人数
7・31	コンプライアンス研修会	1	3・15	労務管理者研修会	1
施設外					
4・17	佐倉市施設財産管理 担当者説明会	1	9・12	通所B型モデル事業視察	1
11・21	地域食堂「なごみの家」視察	1	1・26	配食ボランティア懇談会	1

2-3 会議等(定例会議)

施設内		施設外	
会議名	開催数	会議名	開催数
スタッフ会議	3	指定管理ミーティング	5
定期利用団体懇談会	1	佐倉市ボランティアセンター運営委員会	3
南部施設長会議	1	佐倉市ボランティアセンター定例会議	3
部内会議	10	根郷地区社協福祉委員会	2
理事会	3	根郷地区社協理事会	1
評議員会	1		
施設長会議	13		
愛の灯台基金会議	7		
ボランティア委員会	4		
サービス責任者会議	3		
リスクマネジメント委員会	4		

3 法人内事業所との協働事業の報告

3-1 総合相談センターとの協働事業

事業名	回数	利用人数
高齢者交流事業	19	421
アクティブシニア事業	88	1,979

3-2 児童センターとの協働事業

事業名	回数	利用人数
世代間交流事業	3	128

3-3 はちす苑との協働事業

事業名	回数	利用人数
サロン・ド ともいき	24	151
ともいきマルシェ	1	270

